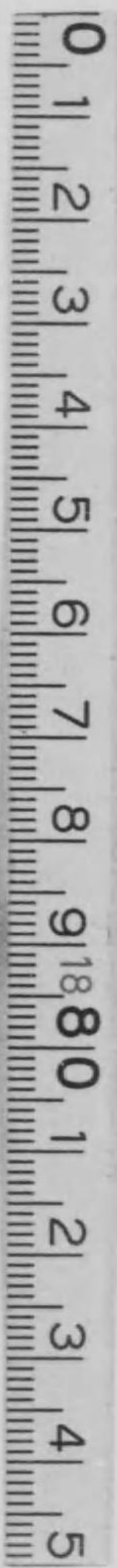


275.6
10



始



工 87-39

275.6
10

275.6

10

通俗教育施設に関する講演集

神奈川県教育會

有吉知事告辞

此度通俗教育をどういふ風に行なつたら最も其の効果を擧げる事が出来るであらうかといふ事に就いて諸君と能く打合をいたし、又諸君の参考になる御話を聴かせる爲に此の講習會を開催した次第であります、通俗教育が今日の時勢に最も大切なる事柄の一つであるといふ事は、モウ私が申述べる迄もなく、能く御承知の事でありませう、唯之を有効に活用するにはどう云ふ風にしたら宜からうかと云ふ事が詰り問題であります、折角の催も其の方に缺けたと云ふ事がありますと、何も役に立たない事になります、是等の點に就いては其の場所、其の時に應じて諸君がそれ〴〵工夫を凝らされる事の必要な事は申す迄もない次第であります、すが、どうか其の弊に陥らぬやうに十分に御注意を希望いたします。

大正
5.10.16
内交

此所に私は一言諸君が御集りになつた機會を利用して申述べて置きたいと思ひます事は、熟々本縣の狀況を見ますと、本縣は近來著しく餘所から來た人の爲に開發されて居りまして、多く其の恩澤を蒙つて居りますが、併し物には利があれば即ち弊があると云ふ通りに、それと同時に本縣は又頗る外來の人から弊を受けて居る事が尠なくないのであります、先づ第一に衛生方面の事を調べて見ましても、元來此の神奈川縣と云ふ所は、頗る天然の恵みの多い所で、氣候と云ひ、水と云ひ、山河と云ひ、衛生上誠に結構な場所であります、其の天恵の裕かである結果として、又此所に病人が這入つて來る事も非常なものである、段々近縣の死亡率を私が調べた結果に依ると名古屋以東に於て最も健康なる地、即ち死亡率の少ないのは横濱などであり、確か千人に付いて十八人位八分の割合になつて居る、何所の府縣を見ても都會地と云ふものは、總

て死亡率が高くなつて居る、田舎は死亡率が少ないと云ふ事は是は原則であります、然るに此の神奈川縣はどうであるかと云ふに横濱の死亡率は十八人八分であるに拘らず、神奈川縣全体の死亡率は十九人幾分と云ふ率になつて居る、即ち此の横濱市内の死亡率より郡部に於ける死亡率が高いと云ふ事を現はして居る、さうして其の死亡率の死亡の原因は内閣統計局の人口動態統計と云ふものを御覽になると能く分りますが、傳染病で死ぬるのが最も多いのであります、其の死亡率は横濱及び神奈川縣が概して多い譯ではない、而も飜つて結核病で斃れる人口を見ると非常に多くなつて來る、即ち是で横濱——神奈川縣と云ふものが如何に外部から來る人々の爲に神奈川縣に結核が多いか、天の恵が多い結果、餘所から此所へ死に、來る人が多い爲に斯う云ふ風になる、而も死に、來るのは多く結核病の人が來ると云ふ事になつて居ります、

是などは一方に於て縣下を開發して呉れる恩澤を受けて居ると同時に、又非常な弊を蒙つて居るのであります、獨り衛生の事はかりてはありませぬ、風教の事もさうであります、私共外來者としてチヨット此所へ這入つて來て、直ちにどうも深く心を悩まされるのは、例へば此の汽車の沿道小田原とか、或は國府津とか、あの邊の町を歩いて見ると、實に白晝公然と醜態を現はして居る風俗であります、而も是等の風俗は此の縣下の青年子弟が風紀が悪くつて、彼等の要求に應ずる爲にあるのかと云ふと、さうぢやない、詰り東京あたりから避暑に出て來る、それ等の人々の娛樂の爲に彼等は詰り出來て居ると云ふ譯であります、又一面にさう云ふものが始終あると單に餘所の人ばかりではない、此の土地の者も遂には其の風習に感染する事になつて來る、是等は實に我が神奈川縣として最も注意をしなければならぬ點であらうと思ふ、通俗教育に就

いては、色々諸君も骨を折つて居られる事でありますが、どうか此の際我が神奈川縣は外來から恩澤も受ける、而もそれに伴うて來る所の弊に對しては相當防禦すると云ふ覺悟を奮ひ起させる必要があると思ふ、縣下の極く健康地となつて居る所も、斯う云ふ衛生上殊に結核などに對しては豫防注意を十分にさせるやうにして頂きたい、是等は段々縣の規則を以て出来るだけは取締をしたいと思つて居りますが、どうしても移住を禁ずると云ふやうな事は到底出來ぬ話で、皆住民の智識を發達させて、さうして自から守らせる外、途はない、又風紀に付いても其の通りであります、是等の點に付いては學校に於て獨り教育するばかりではなく、一般通俗教育の上に於て、特に注意を願ひたいと思ふのであります、どうか此の點に付いて十分御考への程を希望いたします、又明日も色々講演もありますが、明晩は如何にし實行するかと云ふ研究をす

る爲に講演がある筈であります、どうか能くそれ等を御聴き取り
あらむ事を希望いたします。

開會の趣意

長野内務部長

唯今から開會を致します、今回の講習は通俗教育の施設に關する講習會でございます、即ち本日から三日間開會を致すことになつて居るのでございます、從來此の通俗教育、社會教育の普及發達と云ふ事に付いては縣と致しても大に注意を致して獎勵を加へ來つた次第でございますが、目下時勢の狀況は益々之が普及發達を圖るの必要を適切に感じ來つて居るのでございます、即ち之が爲めに縣に於ても第一回の試みとして今回の如き講習會を開くやうに至つた次第でございます、御承知の通り唯今歐洲の天地は誠に慘澹たる狀況でありまして、其の戰爭の終局が何れの時に來るか、今日の所未だ豫め知る事が出來ないやうな狀況であります、我邦も亦獨逸に對して戰を宣して居るやうな次第であるのでありますから此の世界的大戰爭の結果に伴ふ所の我帝國の將來に於ける地位の重大であると云ふ事を考へて來ますれば、益々國民たるものは帝國の國運の進展に對して一層の努力奮勵を加へなければならぬ事と信じて居るのでございます、現に歐米諸國に於ても各國共に其の國運の進

展を圖ると云ふ事に付いては種々なる方法を以て十二分に國民が努力いたして居るのでございます、此の國運の進展を圖ると申す事も亦國力の充實を圖ると申す事も歸する所は、國民一般の智識を進め、國民一般の精神を鼓舞するのが其の基礎となるのでありますから、是等の方法に付いては總て皆種々腐心いたして居るやうな状況であります、現に敵國である所の獨逸の如きに於ても國民教育たる小學校教育即ち義務教育の如きは、我邦の六年に比較して八年であると言ふやうな工合であります、今日各聯邦の地方に於ては其上に又二年或は三年の補習教育までも現在強制して行ふと云ふ状況になつて居る、其の上に色々一般通俗教育に資する所の圖書館の設備であるとか、或は博物館の設備であるとか、さう云ふやうな事に付いては最も進んだ方法設備が出来て居るやうな次第であります、我邦に於ては其等の事に付いて是と比較すれば大に遺憾を感じて居るやうな点が少なくないのであります、さう云ふやうな工合に他の多くの文明諸國が設備をし、努力をして居る際に於て我邦が是と對等以上の交渉交際をして行くと云ふことに付いては、他の文明諸國より尙一層此の國民一般の知識を進め、所謂社會教育、通俗教育等の事に付いては御互ひに猶更ら力を入れて奨勵を加へ、又是が普及發達を圖らなければならぬこと、信じて居

るのでございます、即ち今回此の講習會を開設しましたことも、實は此の時運の要求に促されて其の必要を適切に感ずる所からして之を開會いたして、さうして此の通俗教育に關する施設に付いて經驗抱負ある當局の御方に御講話を願ひまして、さうして我々も亦其の御講話の趣旨に隨つて尙一層の研究を致し、本縣の通俗教育の爲に貢獻いたしたいと云ふ考へを有つて開會を致しました次第でございますからして、どうか今回御集りになつた方々は、實際地方に於て郡市町村の事務に關係せられる方、及び地方の小學教育に従事して居られる方を以て組織して居る此の會でありますからして、此の点に付いては斯く多數是等の方々が御集りになつたと云ふことは司會者に於ても最も満足に存じて居る次第でございます、どうか開會中は十分に御勉強を下さいまして、講師諸先生の御話を御聴きになるやうに致したいと思ひます、簡単に之を以て開會の辭と致します。

目次

- 一 通俗教育……………一
東京音楽學校長 湯原元一先生
- 一 教育展覽事業……………四三
東京高等師範學校教授
兼教育博物館長 棚橋源太郎君
- 一 通俗教育心得の一斑(其一)……………七五
文部省囑託 久留島武彦君
- 一 通俗教育心得の一斑(其二)……………一三三
文部省囑託 久留島武彦君
- 一 通俗教育に對する四要項……………一七三
東京高等師範學校教授 佐々木吉三郎君
- 一 通俗教育の施設……………二二五
文部省 石黒英彦君

通俗教育

目次

Faint, illegible text listing page numbers and chapter titles, likely a table of contents.

通俗教育

(文責筆者に在り)

東京音楽學校長 湯原元一先生講演

諸君通俗教育の施設に關しますることを御話するに當りまして、私は一つの心配があるのであります、從來自分は通俗教育に關しまして多少調査を致しましたが、曾て一度も實地に之を施行いたした経験が無いのです、元は地方に居りまして、多少事情も知つて居りましたが、久しく地方から遠かつて居るばかりでなく、唯今の職務は何れかと言へば此の通俗教育とは縁が無いのでありますから申上げることが随分理窟に亘つて實際に迂遠であらうかといふ心配があるのであります。故に實際の事は他日諸君から承つて見たいといふ考を持つて居るので、どちらへ参りましても實は私から唯働き掛けに御話するばかりで無しに、諸君と共に實際問題に付て、意見を交換する方が一番宜いと思ひます、して今日まで屢々試みて見ましたけれども仲々行ひにくいのであります、之はもう私が申しませぬでも諸君の方で能く御承知であらうと思ふです、随分斯う大勢御出でになるといふと、一々質問を答へるといふことは徒に時間を取るのみで一向其の要領を得ない、それで實際問題に付きましてどういふ風に施行したら宜からうかといふことに付いて一般的理論でありますけれども、私が思ひ付

いたことを申上げて置く積りで居ります。

此の通俗教育といふことは、申すまでもなく昔から我國に於ても能く行はれて居つたのであります、勸善懲惡流の小説のやうなものであるとか、其の外芝居、寄席などは大概此の通俗教育の意味に於て今日までやつて来て居つたのでありますから、事其の物は左程珍らしくはない、併し此の事柄を世間で一般に必要と認めまして、之を組織的に一定の形に於てやらうといふことは、近來の企のやうに思はれるのであります、何時頃から始めて斯ういふことが當局者の注意する所となつたか、それははつきり分りませぬが、確か明治^{四十}十四年でありましたか、小松原文部大臣の頃文部省内で通俗教育の調査會といふものを設けられました、愈々我國に於ても、此の通俗教育といふものを少し組織的にやつて見ようといふ企が起つたのであります、之は多分諸君も御承知であらうと思ふ、其の折に私は其の筋の命を受けまして通俗教育の調査の爲に暫の間歐米諸國を回つたのであります、それで聊か西洋に於ける通俗教育の事情も分つた積りで居ります、又内務省からも多少調査の依頼を受けましたから此の事に關し頗る浩澁の復命書を拵へまして文部省ばかりでなく内務省へも出しました、そして其の餘を世間に公にするが宜からうと云ふので、『歐米通俗教育の實際』といふ本に致しまして、歐米各國の通俗教育の實況を世に紹介致しました。其の中には日本に餘り縁の遠い事もありますけれども餘ほど参考になる事もあります、其の参考になります事は大概今日では世間で注意して居ります、併しそ

れが能く行はれて居るや否やといふ問題は別としまして、兎に角さういふことに關する議論は能く出て居ります、それで委しいことは其の本に書いてありますから、圖書館あたりに若しや廻つて居りますれば、篤志の御方はそれに就いて御一讀を願ひたいのであります、それで今日は私が先年視察を致して感じましたことを先づ以て御話申したいと思ふ。

丁度唯今から四年ばかり前でありましたが確か明治四十五年の正月でありましたか、今頃でありましたか、其の當時獨逸に總選舉がありました、之はちよつと珍らしく感じましたから、其の状況を見ようとした。それには伯林の銀座通りといふやうな所へ行きますと一番様子が分るといふこととてありますから、日本の友人二人を連れて其の様子を見るためにカフェー店に這入つた、所が其の總選舉の結果を盛に號外で出しました、其の號外は殆ど一時間毎位に各地方からの當選者の人名、得点を知らせるのであります、新聞社はカフェー店に一ぱい集つて居る人の中に盛に號外を振舞く、號外を配るといふよりは棄て、歩く、自働車などに載せまして、振舞きますから殆ど都會はそれが爲に紙で埋つて仕舞ふやうな有様でありました。總選舉の際に一番一喜一憂でありましたのは下層社會特に労働社會でありました。御承知の通り聯邦中普魯西の議會は普通選舉でありませぬけれども、獨逸の國會といふものは普通選舉であります、労働者からして成るべく多數の代議士を出さうといふのでありますから、其所に集つて居りますのは多く労働者であります、私共と椅子を同じうしましたのは相

手は二人でありました即ち始めは自分と三人でありましたが後から二人這入つて来て五人となりました、其の二人は疑もなく労働者である、さうして段々それと心易くなると質問を始めたが其の質問は私に向つて非常に深き印象を興へた、第一には日本では日露戦争の爲に非常に財政上困難をして居る、又再び戦ひをするといふ事は出来ないやうであるが果してさうか、それから日本では武器の獨立が出来ないのであるが、それに付いて何か考があるか、それからもう一つは日本では東北地方は非常に貧富の懸隔が激しい、さうして下層社會は非常に疲弊して居るさうだが如何か、それからもう一つは吾々の宿論として労働者大會を催したい、萬國労働者大會を催したいと思ふが、日本では労働者の組合はどういふ風になつて居るだらうか、果して吾々が企てたならば日本は労働者組合に應ずるであらうか、それから一体日本の労働時間といふものはどういふ風になつて居るか、労働賃銀はどういふ風になつて居るか、大工はどうなつて居るか、左官はどうなつて居るか、といふ事を聞きました、最後に至りまして日本は非常に陸海軍の擴張に熱中して居るが、常備軍現役兵といふものは人口何百人に付いて何人の割合になつて居るかといふやうな事も聞かれた、先づ是が重なる質問であります、此の質問を受けまして實は私は非常に困つた、概括的の話はそれ／＼答辯も出来ませんが、倍日本の労働時間であるとか、労働賃銀であるとかいふやうに別けて、最後に常備軍の人口に比較しました所の員數などといふやうな事は一切答が出来ない彼は此の軍備の事に付いても矢張り唯今申すやうな確か

りした標準を知れるばかりでなく、さうして其の軍備といふものは獨逸なれば佛蘭西に對して優つて居るとか劣つて居るとかいふやうな事を判断するのであります、所が吾々は二箇師團増設しろといふやうな事は言つて居りますが、扱二箇師團といふものゝ兵數はどれ程であるか戦時には之がどれ程になるといふやうなハッキリした考へは無いのであります、而已ならず之を人口に比例してどうの斯うのといふ事はツイ考へもしない、成程向ふの話を聞いて見ますると其の方が宜い、さういふ風な標準で軍備を見ますと軍備の過不足といふものが能くハッキリ分ると思ひます、然るにさういふやうな事に對しては答が出来なかつた、又話が轉じまして日本の美術の話をする、日本の美術といふものは駄目だ、之は支那の眞似をするのだ、日本のものといふものは一つもありはしない、吾々伯林の博物館へ行つて日本の物を見ると皆支那の物を眞似たのだ、日本は美術國といふがそれは間違つて居るといふやうな憎まれ口も利くのである、私も左様な事は誠に無頓着で實は困つて居つた、所が共に連れて居りました人が仲々さういふ事については考へて居た人であつたが此の人は言葉が出来ないから私に向つて斯う言へ、ナニ、伯林だつて自分の物はありはしない、昔希臘や羅馬から生れて來たものばかりだ……それは巧い事を聞いたと思つて早速やり返めてやつて之は勝利を得たので、プウ／＼言つて居る、西洋人といふものは誠にムキ出しにプウ／＼言ふものである、併し前の軍は此方が確かに敗北であつた、好い加減な事をいつて胡魔化して置いた、しかしどうして斯ういふやうな智恵を得るのか

彼等は義務教育八年をやつと畢つたので、其の他に何も別に教育は受けて居る筈ではないが、如何にも能く徹底した頭を持つて居る。

それからもう一つ話がありますが多少御参考になるかも知れぬと思ひますから、誠に冗漫のこととてありますが御聴きに入れて置きます、之は唯今亞米利加に大使をして居られます珍田男爵の令夫人から承つた話であります、此のお方は外交官の夫人の中でも實に經驗のある御方で嘗て御面會をした時に、どうも獨逸の女子は誠に感服する、私の所に獨逸の女を備うた、御覽の通り日本から御出てになると、斯うして久し振であらうと思ふから日本食を上げる、二の膳附てはありませぬけれども兎に角日本流儀のちやんとした料理である、それで日本に居つても女中などは容易に配膳の型なども覚えぬものであるが、獨逸人は直ぐ覺える、一二度御膳をちやんと配らして見た所が其の通りちやんと覺えて居る、餘りに不思議だからどうしてお前は覺えるかと言つて聞いた所が、先づ御膳と御膳の間を物差で以て寸法を取りまして、一人と一人との間の距離が大凡一尺なら一尺といふことになつて居ることを知り其の通り心に覺えをしまして、それから御膳に載る物は口取、何々と先づスケッチを取つて圖面を拵へて、さうして此所は飯碗、此所は汁椀、此處は刺身、此處は口取といふことをちやんと圖に取つて仕舞つて、それをちやんと手帳に控へて持つて居る、先づ一度さうして取つて置けば其の次はさう變つたものではありませぬから、ちやんと其の圖面通りに列べて出すやうにするから、御客

様があつて膳を出せと言はれても一向不都合なことはない、飯は眞逆かに炊けまいと思ひましたが、いつの間にか飯を炊く、其の炊くことが誠に上手である、どうしてお前そんなことを覺えたかと聞くと、日本から來て居る女中さんの炊くのを見て居ると譯はない、日本の飯はあれは熱加減てばかり出來る其の熱加減を日本の人は手加減てやつて居るが、私はもう少し正確な物で見る、西洋には茹玉子所謂半熟を拵へるのに玉子時計といふものがあります、それは瓢箪みたやうな小さな硝子で拵へた物であります、さうして中に何にか金砂のやうな物が入れてある、私も能く知りませぬが、能く勸工場などで賣つて居る、それで半熟を拵へようと思ひますと、其の玉子時計を湯の中へ浸けまして、さうして其の砂が何所まで昇ると何度とかいふので丁度半熟になる、さういふ風の物でやりますから西洋のは本當の半熟が出来る、日本のは半熟もあれば或は未熟もあつて一向極まらない、向ふの半熟は確かな半熟である、それを米の飯を炊く時に浸けて見るから一番確かです、それがまア此の邊に昇りました所て火を引きさへすれば飯は何時でも同じ様に出来るものでありますと斯う言つた、さういふ譯で彼は能く覺えたといふ、誠に感心なものであります、それが教育はどれだけあるかといふと、まあ義務教育を卒へただけの者である、其の他之は獨り獨逸人ばかりではない、總て西洋人といふものは子供から大人まで頭が違ふ、例へば私などは誠に恥かしい話でありますけれども、此の横濱ステーションから此方までは何分掛るとか、或は何町何間あるといふことは知らない、今日始めて參りました

から知らないですけれども、始終居りました所が大概のことにして済まして置きます、併し西洋人は子供でも道を聞きますと、必ずはつきり答へる、何メートル、或は何キロメートルといふやうな握梅にはつきり答へる、日本では大概こんなものであらう……日本では其所〱一里隣り八町といふ直ぐ其所だといふと一里も直ぐ隣りだといふときには八町あるといふ風で、昔の御醫者の陰脈とか陰脈とかいふ極荒つばい思想が總ての点にまだ残つて居る『善い加減にしろ』とか、『大概にして置け』といふことを非常に言つて總ての事が善い加減とか、大概にしてある、さういふやうなことはどうも向ふにはない、物事が正確で徹底して居る、デ能く西洋に行きまして誰も失策をしますのはお湯屋であります、お湯に這入りますと必ず女中が寒暖計を持つて来て、何度にしませうと言ふ、大概の者がまあ善い加減の方で、何度かなどと言つても、自分の好きな湯の温度などを知つて居る者は殆ど無い、私共も其の時分は知つて居りましたが、もう疾うに忘れて仕舞ひました、さういふやうな譯で誠に西洋の國民の頭といふものは大体變つて居る、小學校中學校へ往きましても矢張りさういふ風に頭を作らむが爲に教育をして居る、誠に能く行渡つて居る、徹底的にもうずつと一事を教へますと一事を消化させる、一事を教へまして一事を消化させます以上といふものは、必ず之を一生脱けないやうにする、日本のやつは數多くして不消化、一事を教へれば又一事を忘れる、だからして始終繰返さなければならぬ、向ふては繰返すことは成るだけ少なくする、一度教へたらそれを一生の間覚え込む

といふことを理想にして教へて居る、だから小學校の一年生に教へましたことは二年生では成るだけ繰返さぬ成るだけ物を儉約して重複、反覆しない、一度教へたら必ず二度教へない、だから始め一度教へる時には非常にねつく教へる、日本では之を繰返して居る、だから一生涯經つても繰返して居る我々は御覽なさい、小學校でも一年生にも矢張り勅語の大意を習はせ、二年でも其の通り三年でも其の通り、それから小學校を卒業するまで同じことで、親には孝行をしなければならぬ、君には忠を盡さなければならぬ、それから中學校へ行きましても矢張り一年生から五年生まで、親には孝行、君には忠義を盡さなければならぬとズツと繰返して居るばかりでなく専門學校へ行つてもやつて居る、私の所などでもやつて居る、それから大學總長の訓示にも矢張り學生に向つて尊王の心を養へ、愛國の志氣を養はなければならぬといふことを言はぬと、訓示に威嚴が無いやうである、獨逸などの大學のモットー所謂大學の趣意といふものは昔から學術及び祖國といふ事になつて居ります、獨逸の學生といふものは誠に學問も深いのですが同時に愛國心が深い、學術及び祖國といふ事が大學のモットーになつて居ります、日本あたりでは祖國などといふ事は餘り言はない、日本では醫學をやる人とか理學をやる人などは兎に角仙人みたいな人であるか、或は極く商賣人みたいな者が多い、獨逸はさういふやうな人でも皆學術及祖國といふ事は考へて居る、モウ人からいはれぬでも宜い事になつて居る、所が日本人は今申しましたやうに誠に同じ事を繰返さなければならぬ、大學を卒業した後に至りまして

は役所の長からさういふ事を言はれる、棺桶に足を突込むまで時々坊さんからもいはれる、親には孝行しなければならぬものだ、君には忠を盡さなければならぬといふ事を言はれる、言はれても皆平氣だ覺悟をして居る、之は非常に不經濟なやり方ではないかと思ふ、だから一度教へたらモウ二度とは聞き直さないといふ事を理想とするがよい、實際は行はれませぬけれども、成るべく一つ事を教へたら其の事は繰返さないといふ事にしましたならば餘程思想上、教育上經濟になる、それには一番始めに極く正確に打込んで置かなければならぬ、其の正確に打込むといふ事に付いて吾々教育家は餘程注意をしなければならぬ事と思ふ、始めから一本では往けない、二度又打たなければならぬ、三度打たなければならぬ、何日でもコツ／＼打つといふ事が教育家の任務であるといふやうな考へは止めなければならぬと思ふ、一寸した話であります、日本人であると蚊に喰はれる、唯痒いから掻く、掻くと腫れる、又痒い、そこで暫の間は何度も掻いて居らなければならぬ、所が西洋人はどうかといふと私の心易い西洋人で永田町の山王下に住んで居る人がある、其の家の側に藪がある其處に十人ばかり西洋人が居りまして團扇をバタ／＼使つて居た、しかるに皆小さい瓶を持つて居た、全体團扇を使ふ事は餘程骨が折れますから團扇は持つても餘り使はない、蚊が喰ひますと小さい瓶から薬を出してチヨット付ける、それきり痒くない、人前で一ぱいはだけて掻くといふのは誠に行儀の悪い事だ、日本人は痒いといふと浴衣の尻をまくつて人の前で遠慮もなく掻く、痒いから又掻く、どうしても何度も

掻かなければならぬ、何度も掻いて掻きむしると腫物が出来るといふ譯だ、日本のやり方は蚊から螫されると幾度も掻いて置かうといふのと同じ事だ、子供の方でも必ず先生がモウ一度掻いて呉れるだらうと思ひまして始めの内に豫期して居る、それでありますから、どうか此の薬で一度螫されたら痒みを止めるといふ流儀でやらなければ行かないと思ふ、さう私は口廣い事を言ひますが事實自分はお來ませぬけれども、どうか共にさういふやうな事にやつて行きたいと思ふ。

前に述べた通りでありますから、日本の講演と西洋の通俗講演を聴きますと、餘程様子が違ふ、日本の方は、どうしても修身といふ事を主としてやらなければならぬ事情に迫つて居る、又實際の所がどうも親に孝行をしなければならぬといふ事を始終言つて居らぬと親不孝の者ばかりが出さうに心配して居る、併し其の實始終言うたから親孝行者が澤山出る譯でもないかも知れない、好い加減の時に良い時期を見計つて、さうして何か事があつた時に親孝行をしなければならぬといふ方が寧ろ利き目があるかも知れませぬけれども、先輩の人は心配で／＼堪らぬと見えて、始終人間の皮着た以上當然しなければならぬ事を緯に説き經に述べて泌み込ませむと努めて居る、又さういふ事をしなければ、通俗教育の魂が脱けるやうに感ずるやうな事情であります、所が西洋の方は中々さういふ事を言つた所が聴き人がない、若し修身上の講話をするといふたら、恐らく其の講話を聴きに來る人はないだらうと思ふ、先づ人間のすべき事をせよと他人から言はれるのは、自分が侮辱されたやうに感じて居る、

英吉利などは特にさういふ点に對しては自負心が強い、英吉利の中學あたりでは唯お前はセントルマンになるんだといへばそれで澤山、別にあゝいふ事をしなければならぬ、斯ういふ事をしなければならぬ、即ち人間の履むべき道は斯うである、此の道を履まなければならぬといふ事をくどく言ひますと、青年の方では却つて自分は侮辱されたといふ感じを起すといふ事でありませぬ、尤もお寺の説教だけは随分色々の事を繰返して居ります、學校でもバイブルの講釋は即ち日本と同じやうな事をやつて居る、之は宗教上の觀念を堅くするといふ考へで随分繰返して居る、西洋ではバイブルの講釋が一番面白くないものとして居る、嘗て獨逸でありましたが、私は女の學校へ行まして先生の案内を受けました、すると先生が用事が出来てチョット代つて生徒が案内をして呉れました、其の時に廊下で色々な話を聞いた、何が一番お前の嫌ひの學科かといふと、宗教が一番嫌ひだ、何故かといふと同じ事ばかり言うて居る、小學校で聞いた事、高等女學校で聞いた事、皆同じ事を言つて居る……それはホンの一端でありますけれども、矢張り此の点に於て日本に能く似た所もある、併し此の通俗講話といふやうな所へ行きますと、其の人の必要を感じずる事だけをいふ、例へば理化學の話でありますとか博物の話であるとか、或は旅行の話であるとか、或は戦争の話であるとかいふと、其の正味だけを話をする、殊に理化學に關する智識といふものは一番下層社會には必要でありまして、さういふやうな講演が一番入りがある、尤も是も唯講釋をするだけでは入りはありませぬ、大概實驗を致しまするとか

幻燈を用ひ活動寫真を用ひまする所には一番入りがある、さうして講師は誰で、講話の題はどういふものであるといふ事を能く調べて、聽きに來るのであります、即ち自分の何等かの爲にしよう、自分の職業の爲になる所の智識を新たに得ようといふ爲に來るのであります、さういふ譯でありますからさういふ人に向つて分り抜いた修身の講釋をしたならば必ず多數の者は何といふのであらうか、人を馬鹿にした、斯ういふことを聽く必要はない、と言つて席を蹴立つて去るであらう、さういふことがあつたといふことは聞きませぬけれども、さういふ風の講演が非常に盛です、之がまア實に盛なものであります、殆ど都會の地などは年中ブツ通して夏休みを除くの外、之が至る所色々の機關に依つて行はれて居る、詰り學術上學問を通俗的に話す所の講演といふものが非常に盛んなものであります、近來では戦争の爲に中絶して居りますが、戦争でも濟んだならばまア非常に此の事は盛になるであらうと思ふ、斯ういふ所を見まするといふと、まア外國人は一般に常識に富んで居るといふことを言ひたいのですが、私は常識に富むといふよりは外國人の頭には一般に専門の智識が能く普及して居るといひたい、常識があると斯う申しますと、何だか世才があるといふ風に聞えます、實に西洋人は専門の智識といふものが能く通俗化されて、國民の間に普及し、さうして専門家と國民との間に日本のやうに激しい懸隔がない、日本は一般國民、殊に中以下の人は大學を見まするのに丁度雲の上に居る人のやうに思つて居る、仙人か何かのやうに思つて居る、博士などいふと人間とは違つた二本の

角が生えて居る人ぢやないかのやうに思うて居る人がある、詰りまア専門家といふものと、中以下の者との智識上の懸隔が甚だしい、といふのは専門の智識といふものが、専門家から下つてそうして一般に普及しない證據であらうと思ふ、西洋の人でありますと、普通の人も専門の事を平たく話せば一通り理解する、其の話を聴いて見ますといふと、大變向ふの人は講演をする人もやり宜いが聴く人にも分る、日本では例へば理學ならば理學といふことに付て講演をしようと思ふと、餘ほど骨が折れる、是れ聴く人に理學上の術語といふものが普及して居ないからである、だから術語の解釋からやらなければならぬ、術語の解釋ばかりではない、中には漢語の方が無いのでありますから、漢語を使ふと同時に註釋を加へつゝ行かなければならぬ、此の間妙なことで私は監獄協會へ行つて話をした、其の時に斯ういふことを言つた、此の間連記が参りました見たら是こそ速記が間違つて居る、又聴く人も間違ふに相違ないと私が見當を付けて居つたら、確かに間違つて居た、といふのは詰り漢語を斯う使つた、『天下元不好の人無し』『不好』は『よからない』人、好くない人といふ説明を私が加へて置いた所が是は乞度親不孝の『不孝』を書いて來るに違ひないと思つたら、果して速記を見ると不孝となつて居る、さうぢやない、天下元不好、好ましからぬ人無し、是はちよつと珍らしいですから、耳にはさういふことを聴いても、決して之を好ましからぬといふ字であるといふやうな見當を附ける人は少ない、それで少々日本では變つた言葉、變つた漢語を使ひますと同時にさういふ註釋を自分で附けて

行かなければならぬ、況んや之が學術上の話をします時になつたら、もう術語を使ひまする度毎に其の解釋を附けて行かなければならぬ、だから話が非常に長くなる、所が西洋の通俗講演を見て居りますといふと、大概術語といふものが一般に普及して居りますから、或る程度までの術語といふものは勝手に使ふことが出来る、それで誠に時間が短くて、要領を得さして歸へすことが出来る、さういふやうな点から申しましても、此原因結果が互に持合ひとなつて居りまして、一般に此の通俗教育といふものが普及して居ります、それから専門教育を更に其の上に普及させることが容易であります、日本ではそれか出來て居りませぬから、専門教育を既に普及させることが大變困難であります、デありますから、もう通俗教育といへばまるで落語家のやうなことをやつて、さうして唯だ座興を博し、或る感動を與へて歸へすといふやうなことであつて、自分の職業上必要な所の正確な智識を得て、さうして家へ歸つて直ぐに之を應用して、何等か利益を受くるといふやうなことをさせるといふことはなか／＼むづかしい、そこで通俗教育はやりませぬけれども、唯だ話をする、それを聴いて貰ふといふ位のこととて、そこで一種の好い感じを持つて次に又來るといふ位に止まるのであります、實に今日通俗教育は日本でも盛であるに拘らず、まだなか／＼効果が見えないと思ふのであります、そこで通俗教育の事を西洋のやうに有効にするに付きましては、餘ほど通俗教育のやり方を是から變へなければなりません、それで通俗教育をするに付きましては修身を本と致して講演をするといふことは決して

私は反對をするといふ譯ぢやない、さういふやうな必要はありませんから、それは無論やらなければならぬ、個人の修養の爲にもしなければならぬ、又一般社會の風化の爲にもしなければならぬが、もつと國民の文化の程度をより高くする爲に之をやるに付ては、もう少し之が有効になるやうにしなければならぬ、即ち行く／＼は國民自ら通俗教育を聴かなければ自己の爲に直接不利益を被むるといふやうな所まで行かなければならぬ、そこで之をさういふやうにするに付ては此の通俗教育のやり方を更へにやらぬ、之を簡単に言ひますと——先づ其の要旨を成るだけ學校風にしなければなりません、即ち一概に一時的の講演にせずして少なくとも五回とか或は十回とかいふやうな風に繼續的のものにしなければいかぬと思ふ、それから又此の通俗教育といふものは、成るべく一つの學級組織として大概似寄つた人、似寄つた學力を持つた人を集めるがよい、甲乙のある人を百人二百人集めて、さうしてやるやうな事をやらすに、少數でも成るべく大概力の揃つた趣味の上から、又學力の上からも揃つた人を集めて、之を何回かに繼續してやるがよい、それからモウツツは此の講師と聽衆との間にモウ少し親密の關係を付けなければならぬ、殊に必要なるのは講師と聽衆との間に質問應答をする、即ち聴いた事を能く消化する、徹底的に消化させるに付ては、どうしても聴いたゞけてはいかない、質問應答をさせる、即ち繼續的に學級組織にして、さうして質問應答といふ事に重きを置く、詰り簡單にいへば前に申上げた通りに學校の組織に近寄らせて行く、斯う云ふ風に致したのが即ち通俗教育の

非常に成功した基となつた事は、御承知の通り能く世間で申します英吉利のユニバースエキステンションです、此の大學の通俗講演會は大學の擴張會即ち大學を廣げて擴張しますこととす、大學の智識といふものを外に廣げますから大學擴張會といふのです、即ち英吉利の大學で中心と致しまする所は此の通俗講演といふもので、世界に於て非常に成績が良い、其の成績の良いといふ事の原因は何所にあるかといふと、唯今申すやうな學校に近い所の組織をするにあるのです、此の大學の通俗講演の様子を見ますと、一回限りの講演といふものは殆どない、其の一回限りのものは濶踏み講演と申しまして一遍聴き人があるかないかといふ事を濶踏みする時にするのです、即ち名高い人で、誰の氣にも適ひさうな題を掲げて大きな町の學校で一つ廣告をして人を寄せて見よう、其の様子を見ようと思ふ時に、唯一回限りの講演を致します、それから愈此所には聽衆がある、聽衆を釣出し得たと思ひますと、そこで後にやりますのは必ず唯今申上げた五回であるとか、或は七回、十回であるとか、或はズツと繼續して二年に亘るものであります、さうして一種特別變態の學校が出来る、而も通俗専門の教育で、通俗の話で済ます所の學校が出来る、それが常であります、日本のやうな一回限りで済みます講演を原則として居る所の通俗講演といふものは歐羅巴には殆どない、皆今いふ通り繼續して居る、又一回限りの講演で、さうして或る智識を其の人に授けて行くといふ事は到底不可能であります、此の集つた人にそれを理解させて、さうしてそれが何かの役に立たせるといふ事は仲々むづ

かしい、例へば或る戦争の時でありますれば戦争の或る事變に付いて説明をする、詰り時事問題に付いての解釋にしましても、それを本當の智識として授けるといふまでには、どうしても一回ではいかない、今日獨逸が勢ひの宜いのはどういふ譯である、獨逸人は非常に研究的の人間である、非常に組織的の人間である、學問も盛である、何がどうである、といひました所が獨逸の今日ある所以を仲々説明し盡したとは言はれない、さういふ譯でありますからして、能く其の徹底した智識を授けるに付いては、チツョトした時事問題に付いても一時間二時間の一回の講演ではむづかしいといふ事はいふまでもなからうと思ふ、さういふ譯でありますから外國の講演を見ますと皆今申した通りになつて居る、第一に此の点は將來我が國で通俗教育を盛にして行くといふに付いて考慮をしなければならぬ、所が之は農村で出来るかといへば仲々困難である、農村では老若男女諸種の人が集まつて居るのみならず、又それに適當の講師も居らぬ故此の智識を與へるといふ事は之は不可能であります、併し都會地であれば出来るからやらなければならぬ、所が東京を始め仲々それが實行されて居らない、嘗て阪谷市長に御話をした事がある、彼所では市の直營事業で市教育會をしてやらせさせる通俗教育會といふものがあります、さういふやうなものやり口に付いても随分遺憾があると思ひますからして、能く御話をした事がありますが、まだ仲々さういふ風になつて居ない、唯矢張り彼方此方に跳んで一回の講演をやる、それから跡は例の講談師などが餘興をやつて居る、それが何年の後か、或は何十年の

後でないと思つて來ませぬから、今やつて居りますのは二階から目薬である、それから通俗教育は唯今申すやうな意味で即ち學術専門の學説を通俗にして、さうして國民の頭を拵へるといふ事に付いては何所が一番必要かといふと都會であります、農村にもさう云ふ理化學の智識があればそれに越した事はないのですが、さういふ必要はない、専門の智識を通俗化して最も必要な所は無論都會であります、特に横濱のやうな所の人々、小さい商人などに至つてはさういふ智識といふものは必要であらうと思ふ、西洋で通俗教育は何所に起つて居るかといへば皆都會であります、農村あたりは日本より餘程振はない、日本は到る所に青年團がありますけれども、西洋の農村にはないから振はない、一番さういふ智識の盛んなるは大都會であります、大都會の生活といふものには斯ういふ専門の智識を通俗化して授ける事が極めて必要であります、而して横濱などに對する私の豫ての希望は内務部長にも御話をしましたが、斯ういふやうな都會には専門の知識を通俗的に話して行きます所の常置したものが必要ではないかと思ふ、嘗て或る人に斯ういふ空想を話した事があります、それは獨逸のハンブルグといふ所は御承知の通りちよつと此の横濱のやうな所でありませぬ、此所には大學といふものはない、此間大學を立てるといふことで騒ぎましたけれども、其所の議會（議會と云つても市會です、獨立國になつては居りませぬけれども、實は一の都會である）では少數で倒れました、所が其の所には殖民學館コロネル、インスチュートがある、此の殖民學館の世話を致して居りますものは、嘗て日本で

も備はれて居りましたことのあるラードゲンといふ人であります、之はどういふ所てありますかといふと、常設の講習所で、どういふ人を拵へるかといふと、詰り海外貿易に従事する人の爲に或る長期の講習をする、又海外に行つて役人をしようと思ふ者に對して準備の教育をする、それが段々と此頃は殖えまして、さうして哲學見えたやうなものをやつて居る、或は教育學のやうなこともやる、それを矢張り講習的にやる、或程度の學科を具へた者で金さへ出せば隨意に研究が出来る、元は殖民地へ行つて仕事をしようといふ者の爲め準備教育所てありましたが、今日では色々學科が殖えて来て、實驗教育學の泰斗と言はれたモイマンなども四五年前に大變な金で抱へられて居りました、が昨年之はまた年が若くて死にました、さういふやうなもので、段々學科を殖やすから一層のこと之を大學の組織にしようぢやないかといふことが一部の議論でありましたけれども、そいつは通過しない、それは詰りそんなことをしなくても、近所に大學が澤山あり暇の學者も澤山あるから、時々呼んで来て講演をさせれば宜いぢやないか、といふのが此の殖民學館の起りてあります、私は之を聞いた見ました時分からさう思つた、斯ういふやうなものが此の横濱邊りなどでは必要ではないか、斯ういふやうな立派な建物もありますから、さういふ建物を用ひて大學其の他東京邊りから有名の人を聘しまして、商工業に従事する青年で、義務教育を受け或低度の職業學校を経まして、其の後實業に従事して居る人の爲に、もう少し高等の教育を通俗的に授ける所の常置した講習所としたならば、寧ろ之は

今のやうな仙人見えた堅い大學を立てるより活きた實際的の大學になりやしないかといふことを或人に話したことがあります、之は勿論實際の事情を知らぬ所の眞の空想でありますけれども、さういふやうなものが必要である、それでまあ此の通俗講演といふものを、もう少し繼續的の組織ある學校風にして、さうして少數でも構はぬからちやんと其所で教へて、さうして或程度までの智識を正確に授けるといふやうなことをしなければ、先刻申します通り唯一回だけ講演を順繰りに催して見ました所が大した効果は無からうと思ふです、やれば必ず繼續してやつた仕事といふものが必ず其の聴衆に印象を與へて、聴衆の爲に何かの利益を生ずるまで見届けるといふ決心でやらなければ、再々申しました通り唯だワイ／＼人騒がせをするだけで通俗教育の効果を見ようといふ譯にはいくまいと思ふ、之は諸君の御經驗もありませうと思ひますが、一つ能く其の御考案を願ひたいと思ふ、それで私も此頃は大方地方へも出て參りますが、どうも到る所唯一回の講演、さうして所謂名士といふものと呼んで来て色々話をさせる、成ほど其の當時は相當に刺戟を與へるに決まつて居るが、唯所謂刺戟を與へるだけであつて、根本的に動かすことの出来ないやうな智識を授けて歸へすといふことは出来ないと思ふ、それであるから、どうか此の点に於て特に第一に諸君に御考慮を煩はしたいと思ふ。次にはもう少し又他の方面の事を御話を致したいと思ひますが、ちよつと是で休息を致します。

西洋の通俗教育と申します事業は誠に廣くて、殆ど其の範圍を極めることも出来ない、併し其の事業に必ず付き物になつて居りますのは講演、圖書館、圖書館に付帶しまして良書出版、それから娯樂事業であります、又之は消極的の事でありませうけれども、悪い俗悪文學俗悪活動寫真類の取締詰り俗悪といふものは廣い意味でありますから、甚だしい風俗壞乱物の取締をする、斯ういふものが又通俗講演事業の仕事の一部分になつて居ります、其の内の講演の事は唯今御話を致したやうな主義でやつたら宜からうと思ふ、それから講演に關しまして私は自分で講演するのは此の通り下手であつて、彼是れ言ふのは可笑しいですけれども、注意すべき事項を青年團といふ小さい書物に書いて置きました、之も何等かの機會で一つ見て頂きたいのです、それから講演とチョット付帶した仕事で書生の討論會若い青年の討論會などの事に付いても矢張り同じ所に書いて置きました、其の方はどうか、私が斯ういふたから本を買つて頂きたいといふ譯ではない、其の附録にありますからそれを誰か寫し取つて見て頂ければ私が此所で暇を潰して御話するより却つて宜からうといふ積りであります。

次に圖書館經營の方法に付いては、矢張り注意書を書いて置きました、それからモウ一つはチョット唯今申上げる事の中に脱けましたが、之は次にチョット申す積りでありますが、青年團の事業が一番大切であらうと思ふ事は遠足であります、其の遠足の事に付いても簡條書きに致して私の意見を書いて置きました、それで詰り講演、討論、圖書館、遠足といふ事に付いては大要私の思ひ付きました

事は簡條書きにして此の本の終にあります、是を誰か圖書館あたりで御寫しになつて、それを御用ひになつて一向差支ない、私は用ひられさへすれば宜いのであります、それで之を見て頂きますれば少なくとも私がどういふ考へを持つて居るといふ事は此所に簡條を列べて書いてあります、長い間御話をするより其の方が諸君の御便利であらうと思ふ、誠に詰らぬ事を書いてあります、併し其の書を書きましたのは唯私一存で書いたのではなく、兎に角西洋あたりでやつて居りますもの、又或はそれに付いて書きましたものを参考と致して書き列べたものであります、唯私の一存で僅ばかりの経験で書きましたものでないといふ事だけは御断り致して置きます。

それから此の俗悪文學といふ事に付いては前に申しました歐米通俗教育の實際といふものに委しく出て居りますから委しい事はそれに譲りますが、特に私が近來感じた事があります、其の事だけを一つ諸君に申上げて、御注意を促したいと思ふ、此の風俗を壞乱するやうな文學に付いては、大分世間でもやかましく何でも警視應でも内務省の方でも相當の取締をして居るにも拘はらず、立派に教育の假面を被りまして出ます所の雑誌の中にも頗る非教育的のものがある、それで此の事に付いては嘗て或る特殊の人に依頼を致して雑誌をスツカリ集めました、さうして其の良いのと悪いのと區別しまして展覽會を催し成るべく父兄を呼んで見せたいと思つた、實は其場所までも極まつて居りました、所がどうも雑誌といふ事に付いては、是非の批評を加へられますと、加へられた人が非常に困る、執

筆者も困れば其の出版者も困る、それが多分利いたのでありませうか、私が依頼した人が止めて仕舞つた、之はどういふことで私が思ひ付いたかといふと、是も西洋でやつて居ります、特に獨逸で五年ばかり前に獨逸の議會を借りまして有志團體が此の俗悪文學の陳列會をやつた、さうして何所まで悪い文學が悪いかといふ事を一方に見せて、さうして同時にこれが爲にどれだけ國民が無駄な金を使ひ又青年を毒害いたして、害毒を受けたといふ事を見せて置いて、一方にそれに代はる所の立派な青年の讀物は此の通りであるといふ事をやつて見せました、所がそれは非常に好い影響で、それ以來は元と首府伯林でやりました、此の會は地方を興行的に打つて廻つて、それは所謂百聞一見に如かずで、非常に有効であつた、其の事を私は經驗を致して居りますから、之をやつたらどうかというて、實は唯今申しました通りの催しをやつた所が、行はれぬ、行はれぬといふ事情は大概御推察に任せます、それから家庭に大手を振つて這入つて居ります所の特に青年——少年及び少女の讀物は決して一見して悪むることはないですが能く注意して見ると、皆悪むる事と同様のことが書いてある、罪のない事はまだ宜いてすけれども随分罪深いことが書いてある、少女に向つて鼠が嫁入りをする、それが殆ど三三九度から極端の所まで書いてあるのがある、甚だしいのになると文字を見ますと殆ど文を成して居ない、それだから讀本で折角教へた所の文字を此の雜誌で以て片端から壞はすやうなものが澤山ある、そのみならず、近來雜誌といふ雜誌は悉く色彩が強い、赤であるとか、青であるとか、紫であ

るとか、黄色であるとかいふやうなもので、頗る濃厚の色彩を施してある、それでまた年齢の幼いもの若いものは此の色彩に眩惑されまして實物の正觀、見通すといふことを妨げられる、出来ることならば子供などは色彩の無い畫で、さうして物事を正確に觀察する頭を作らなければならぬ、そして此の強い色彩の刺戟ばかり受けて居りますと、もう其の刺戟に慣れまして愈々深い、愈々烈しい愈々強度の色彩でなければ自分の眼を慰めることは出来ないやうになつて仕舞ふ、丁度酒飲みが段々強い酒を好むやうになつて遂にウキスキーを飲まなければならぬと同じことである、それから假りに内容は善いにした所が、斯う澤山少女の讀物があつては子供の中から移り氣が多くなつて之も讀んで見よう、彼も讀んで見ようと思つて始終轉換せぬければ氣が濟まないといふ風になるのである、之は非常に人間の性格を成立たせる妨げをする、始めに申しました通り成るだけ一つ見せたら精密に見せて、二度見ぬても宜いやうにしなければならぬ、之は所謂雜誌の事でありませんが、雜誌の外に玩具と一緒に賣ります所の歌に賣ります所の所謂お伽草紙といふものを見ますと實にひどい、又玩具と一緒に賣ります所の歌留多にも色々のものがある、之は私共が能く物好きに買つて來るが、實に話にならぬひどいものがある一々例を擧げて御話をするとき長くなりますが、實に少し御注意になつたら直ぐに分る、それで之が殆ど無限にある、雜誌が既に多い、其の上にお伽草紙が無限にある、さうして我日本の子供といふものはそれを成るだけ多く弄ぶる、見なければ氣が濟まないといふやうな癖が附いて居る、其の上にならぬ

具といふものがあつて、さうして其の玩具は是も出来るだけ多く弄り廻はさなければ氣が済まぬといふことになる、西洋人は御承知の通り、大概玩具を買つて參りますのは、普通の場合がクリスマスです、又西洋の玩具は出来るだけ長く持てるやうにしてある、日本のやうに壞はれ易く常に補充して行かなければならぬやうな玩具といふものは比較的少ない、玩具といひながら永久的です、それから雑誌にしても青年の讀みます雑誌、少年の讀みます雑誌、お伽雑誌等の豊富なことは日本に匹敵する所はない、子供の雑誌、婦人の雑誌といふ風にこんな澤山種類のある所は世界中に無いのみならず、ズツと飛抜けて居る、さうして書いてある事はどういふ事かといふと、殆ど文部省で出来た讀本唱歌などから少しばかりこり落ちたもの、外は非常に悪い事が書いてある、斯の如く目先を變へなければ承知しないといふ性質は、今申す通り物事に深入りして常に自分の品性を確實に養成することが出来ない、さういふやうな教育をして居るものですから、日本人は大人になつても三つ子の魂百までといふ通り、始終玩具弄りの根性が脱しない、我々のやうな年輩になりましたも——もう既に我々が其弊を免れぬです、何かしら西洋の新らしいもの、新らしいものと新らしい本を讀まぬと氣が済まない甚しきに至つては此の頃ではやあオイケン、ベルグソン、タゴールだとかワイ——言つて流行る流行るけれども唯だ流行つただけで、それに深入りしてそれが爲めに好い教訓を得る場合に至らぬ、皆な流行て通りつて仕舞ふ、之は新聞に始終慨いて不足を言うて書いてあるけれども、それが流行りて濟ん

て仕舞つて、それがみになつて國民の精神上にどれだけも印象を残して行くといふことは殆ど無い、それは其の方の商賣であります、之が政治の上にもあります、特に政治などいふものは非常に玩具弄りのやうに見える、田尻會計検査除長がズツと昔、日本ではどうも始終官制の改革がある、あれは丁度子供の玩具弄りをするやうなもので、少々厭きが來ると弄つて見たくなるのだ、といふことを話して居られたといふことが新聞にあつた、私は非常に同感である、政府でも——文部省でも先刻御話しました通り、通俗教育といふことは我々の時に調査會が出来た、それが一年経たずして廢められて仕舞つた、それからその御相伴を喰ひまして國語調査會といふものが廢められた、所が又來年から國語調査會が起るさうである、文部省の豫算で二萬圓に減らされたかと思ふと、其の次には三萬圓、此の次には三萬圓を減らすか四萬圓に増すか、之はまア政治上の事に喙を容れるやうてありますが、どうも一體さうなつて居る、立派な政治家で最も思慮ある人達のやる事でも始終玩具弄りをする、長くなるも厭きが來る、ちつと突ツつかうぢやアないか、もう好い加減に止めて置かう、何も理由はない、厭きが來る、それがどうも三ツ子の魂百までであつて、子供の性質、子供のやり口を東西比較して見ると分る、子供だけを見ても日本の國民性、西洋の國民性は分る、之は必ずしも俗悪文學ではないのであります、けれども、教育上からいへば非教育的であります、此等の物に高い金を掛けて、さうして田舎の隅々までもドン／＼這入つて來るといふ事は私は非常に好まない、西洋の婦人雜誌で

あるとか子供の雑誌であるといふものは、誠に摯實なもので、誠に廉くて手堅くて、さうして例へばお伽話にした所がさう澤山はない、祖父さんのお伽話を息子さんが聞いて、孫さんが聞いて、同じ事を聴かなければならぬが、其のお伽話は正確に教へ込んである、其のお伽話なるものは即ち國民性を能く了解する端緒となる、さうして毎日新作物を供給して行かなければならぬといふ事では、どうも徒に人間を浮いたものにして所謂物に厭き易くする物に厭き易いは吾々國民の缺点であるといふ事は先覺者が頻に言つて居る、それを若し直し得るならば直さなければならぬ、之を直すに付いての手始めといふものは、子供の玩具弄りの根性の方から矯めて行かなければならぬと思ふ、それで此の頃雑誌は紙が高いから止める——私は非常に喜んで居る、どうか無くて宜い、私は能く雑誌に關係がありまして、自分で執筆した事はありませぬが、始終雑誌社からも来る、大概五ツ六ツの雑誌に私の話が出て居るがさう新しい考へが私にあらう譯がない、だからどれを御覽になつても同じやうな話で特に婦人雑誌、教育雑誌には人間が變るだけでは同じである事が多い、女は質素儉約をしなければならぬ、臺所を能く整頓して亭主の言ふ事を能くきかなければ行かぬ、殆ど千篇一律で唯名前だけが變つて居るといふだけである、唯讀者はさういふやうに同じやうな事を少しばかり様子を變へて聞かなければならぬといふのは、前に申しました、又痒くなつた一つ搔いて貰はうといふのと同じ事で、モウ一段落付けて、新しい所を欲しいといふ氣が人間にありますれば、さういふものは自然廢る筈

である、自分の考へと同じ事、寧ろ自分の考への方が新しい、どうか新しい天地に這入つて見たいといふ努力があればさういふものは自然廢る、所がさういふ努力がない、唯自分の好きな事を聞いて見たい、恰度此の智識を求むるといふ事は音楽を聴くと同じではない、此の音楽といふものは古い物が宜い、義太夫なら義太夫のさわりは屢々聴いて居る、始終掻いて貰つて居る、モウ掻き度なつて来るとデデンデン／＼……待つて居ました、待つて居ましたといふのは、音楽といふものにさう新しいものはない證據です、夜光の珠も暗中からだしぬけに投ずれば却つて喫驚します、自分の聴き度い時分に聴くから、待つて居ましたといふ、所謂堂摺連が待つて居ました——古い事を繰返さなければ面白くない、智識の方は新しい事を望む、眞に自分の知らない事を知らなければならぬ、さういふ風な方面に人間の心が向いて行かぬと人間といふものは向上するものではない、唯自分の好きな事を聴いて、待つて居ましたと喜んで居たのでは本當に智識といふものは進歩するものではない、所が此の点は吾々暢氣といふよりは寧ろ吾々の缺点であらうと思ふ、其の缺点といふものは今御話をしましたやうな事情が少ないのも一つの原因になつて居ると思ひます、此の点は通俗教育正面の敵ではありませんけれども、少なくとも其の敵の一部分であるから、此等に付いては餘程選擇を嚴重にして掛つて行きたいと思ふ。

最後に青年團の事に付いて少し思ひ付きました事を申上げて置きたい、青年團の事に付いては過日

内務省文部省からそれ／＼訓令がありました、此の訓令の事に付いては議會にまでも質問が出て居りますが餘程地方では其の處置に迷つて居られるやうな事を屢々聞くのです、實は此の訓令の事に付いては私共も或る團體の一人として訓令の出す前に御相談といふ事もないのですけれども一通り意見も徴せられた事もあるのです、それで比較的此の訓令の精神は承知して居る積りて居ります、自分達の考へる所では、之は一つも今日の問題になるべきものではないと思つて居る、此の事に付いては諸方の雑誌や何かに話をして置きました、何故之が今日物議の種になるかといふ事を見ますと、詰り此の訓令を読み違へて居る、訓令の一番重きを置きます所のは、青年團を事業の機關とせずして教育の機關にするといふことが眼目であります、教育の機關に供するといへば爺さん婆さん禿頭までも集めて施すものではない、先づ凡そ丁年——法律上假に定めてあります所の丁年位を以て打切るといふ事が宜いといふ事は何人も認める、それで凡そ上の方の年齢の制限は二十歳小學校を卒へまして二十歳までの青年の爲に一種の學校の教育を繼續して引延ぶべき所の教育の機關に設けてやるといふ事が訓令の大眼目であります、二十歳までの者が事業をやるなといふ事は一度もいうてない、事業はやつても無論宜しい、併し其の二十歳までの間に人の世話を焼き人の爲めにも働き、自分の身をも修めて今までの教育といふものゝ効果を空しくせぬやう、其の教育を繋いで行くといふのが訓令の重きを置く所である、先刻内務部長からお話の通り、西洋では八箇年の義務年限に尙補習教育を義

務として居る、日本では六箇年である、只年限の短いばかりでなく西洋の教育より仕悪くといふのは、色々の漢文字があつて、之が取扱に付いて屢々困難を感ずるからである、文字の取扱の爲に中身を咀嚼することが餘程むづかしい、西洋の文字は中身が裸になつて居るが、日本の文字の中には色々甲冑を着けて居る、それから鎧を解いてやつて中身を見なければならぬ、さういふ風でありますから、漢文字を通じて中身を見るといふことは、向ふのアルハベットだけはまづい、文字を通じて中身を見るといふことだけで用途の差異難易の差異がある、さういふ譯でありますにも拘らず、日本は六ヶ年の義務年限を卒へて満足せざるを得ないのであります、それで私共が地方に居りまして徴兵検査などに立會つたことがありますけれども、随分六ヶ年の義務年限といふ結果は怪しい、徴兵検査に當つて、さうして假りに文字上、讀書等に於て相當に出来る者は、學校を出まして、さういふ必要の境遇に居つた者だけで、學校を出ましてさう讀書算の必要の無い所の境遇に居りました者は、中には殆ど忘れて仕舞つて居る、そこで六ヶ年の義務教育を以て満足せざるを得ないといふことは不幸であるからして、どうかしてこいつをもう少し延べたい、延べたいといふことは山々でありますけれども、僅かに此の間二年だけ延ばしたばかりで、其の上又二ヶ年或は三ヶ年延べるといふことがなか／＼困難である、所が今申す通り學校の教育といふものゝ結果が怪しい、さうして學校教育から兵營に行くまで、即ち學校から兵營へ若い者を移り行かせる間に青年といふものが非常に横道に這入る、即ち此

の學校と兵營との間を如何にして教育的方法を以て防ぐか、是から横道に抜けないやう、邪路に迷はぬやうにはどういふ風にするか、是が先覺者の最も苦心する所です、そこで之には丁度西洋特に獨逸が青年教養の意味でやつて居る青年團で此の小學校と兵營といふものゝ長き間隙を教育的に防いで行かうといふことからして出來たのであります。此の獨逸のは事業機關といふより寧ろ教育の機關、教育を本體にすべきが當然であるといふのである。そこでこいつは詰り小學校の義務年限を延長したい、補習教育といふものを義務に課したいといふ希望を間接に達しようといふのが青年團に對する所の主なる注文である、そこで此の事といふものは實際世間でやつて居らぬ、今青年團の事業を方々やつて居るのは多くは二十歳以上の人達がやつて居る、それから二十歳以下の人は詰り其の手傳ひをするさうして動もすると補習教育でもやらうとしても此手傳ひの仕事が本位になつて仕舞ふ、仕事は一番宜いことである、學校で書物を読むと同じ効力がありまして、私共は所謂勤勞といふことは教育に付ては非常に効能があると思つて居るけれども、唯だ此の仕事ばかりさせて、さうして自修を怠る——即ち教育的自修を怠るといふことは決して宜くないと思ふ、そこで此の二十歳までになる間は教育を本體として傍ら今までの通り事業に従事させて一向差支はない、然らば此の青年團なるものには二十歳以上の者は入れちやならぬか、又一切事業をしてはならぬかのやうに解釋するといふことは、全く誤解であると私は思ふ、それでありませうからして、今日の青年團といふものは其儘捨置いて、さうし

て詰り二十歳以上の者は今度の訓令の注文に合せて行きさへすれば宜しい、今日の意味は只教育を本體とする心持になりさへすればそれで宜しい、其の上二十歳以上の者が這入つたならば、是非此の會を別々にさせなければならぬ必要はない、二十歳以上の人は……青年部は青年部、老年部は老年部としないでも、青年團でさういふものを相手とし、或は指導機關になれば宜い、何も今まで現在あるものを壊はさなければならぬといふことは一口も言うてはない、現に小學校でも尋常科高等科とあつて、之を併置したからといつて一向差支はないと同じである、それで此の青年團體にあつても二十歳以下の部分といふものは丁度尋常科に當りますから、此の尋常科の課程に當嵌め、其の以上は高等科の課程に當嵌まるので、其の青年部といふものは文部内務の兩省から出した訓令に當嵌まるやうにすれば宜い、其の他兩次官あたりから色々細かい標準を示してあるが、あの標準を示した趣意を讀んで見ますといふと、何れも唯だ一例を擧たに過ぎない、例へば一町村を以て範圍とするといつてありますけれども、一町村を範圍としなければならぬといふことはいつてはない、一町村を範圍とするのが一番宜いけれども、又其の外に一町村でなければ一部落を範圍としても宜からう、或は事情に依つては聯合しても宜からう、詰り實行上の爲めに一番完全に近い所の模範を示し、其の凡例を示してあるに過ぎないのである、能く讀んで見ますと決してあれが出來た爲めに既設の青年團體を破壊しなければならぬなどといふことはどうしても考へ及ばない、それ故に既設の青年團に付て二十歳以下の者も

同時に此の青年會に教育をして呉れ、ばよいのである、それから此の教育といふものは軍事教育でなければならぬ軍人教育でなければならぬといふやうな風に政府では考へて居るといふやうなことの質問が議會でもありました、けれども、それは何にもさういふことは書いてはない、即ち忠孝を本義としまして、さうして國民的精神を養成するといふ風に、普通有り觸れたことしか書いてない、況んや此の軍事の當局といふものは、兵營に這入る前に兵隊ごつこをして貰つては困る、之は昔からあることとして私は今の田中中将などから話を聞きました、又ズット前にも東條といふ有名な將軍が居られた、さういふやうな人からも始終聞いて居つた、どうも中學校邊りてランドセルを背負つたり、鐵砲を擔いだりして中隊教練をするのは宜いが、中隊教練をしなければ陸軍當局者は困るといふことはない、それで正直に言へば實は其の方が有難迷惑をすることがある、それよりも軍人に最も必要なる——軍人のみならず總ての國民に必要な規律節制を重んじ、服従命令の關係を能く了解すること、それから身體の方が壯健であつて、愛國心に富んで居ることが必要で、所謂此の兵隊の技術を授けることは誠に易いもので、さう困難なものではない、それで軍人のみならず、國民として必要な精神を拵へて貰へばそれで宜いのである、といふことを始終聞いて居る、今の軍事當局者でもさう言つて居る、それから茲に今現在の青年の状態殊は都會の青年の状態を見ますといふと、一般に身體を大事にして體育々々といふ段々色々辨解の言葉はありますけれども、都會の青年の體格が良くなつて居らぬ、殊に

都會では一つ身體を良くしなければならぬのみならず、此の都會の惡風を受けないやうにするに付いては、又一般に此の體育といふ事を奨励しなければならぬ、そこで都會に於ける所の青年團といふものに付いては體育にも重きを置き之と併行して忠君愛國の精神を養ふが必要である、唯忠君愛國を紙の上で教へるばかりでなく、身體で實行すべく體育も伴なつて教へて行くがよい、例へば書物の上で以て忠君愛國の話をするよりも、此の土地でありますれば、鎌倉へ行きましたも護良親王の古蹟に付いて、運動をしながら、體育をしながら此の忠君の精神を養成するといふ事にしなければならぬ、之が此の青年團の教育と學校教育といふものとの差といへば差で、精神は同じ事て即ち體育を爲しつゝ、さうして忠君愛國の精神を養成する、即ち身體を動かしながら實業の智識を養ふのである、實業の智識を書物の上ばかりではなく、勤勞しつゝ、教育を施すのである、即ち勤勞教育といふものに依つて、其の目的を達して行くやうなことにしなければならぬ、或は公民としての思想を養成するには唯、書物を讀んだのではいかなない、時々村役場の議事でも見或は市役所の議事でも見せてやる、或は護岸工事も見せる、道路の修繕も見せるとか、總てさういふ風に實際の上から、此の身體を實際働かして實物研究をさせて。公民としての心得を授ける、之は即ち青年團としてしなければならぬ、學校は第一座つて居つて仕事を教へる、文字の上から智識を授けるべく、餘儀なくされて居る、學校も十分働かせなければならぬが、先刻申上げた漢文字が多い、國語も這入ります、座つて居つて書物を讀ませ

て智識を授けて行く、其の事を畢へました青年團に於ては成るべく身體を働かせ、實際の實務に従事させて、忠孝の本義であるとか、公民の心得といふ事を授けて行く、斯ういふ風にするのが青年團に付いて特に必要な所の教育のやり方であると思ふ、今申上げた通りの事をして、又時としては軍事軍隊の事も教へて行かなければならぬ、或は横須賀の造船所を見せるといふやうな事をして、色々の智識を授けて行く、それが爲め決して皆軍隊教育を授けて行くやうなものと同一にしてはなるまいと思ふ、そして青年團の教育といふものは、詰り學校とは違つて自由である、自由の形で實際に顧みて施す、一つまアさういふものにして出来やせぬかと思ふ、形は自由になつて居る、さうして青年の境遇を利用して、實際に付いて青年團に幾分か必要な所の教育を授ける、斯ういふ風にするのでありますが、實際は餘程むづかしいのである。

それからモウ一つ申して置きたい事は、前に申上げた通り、此の青年團といふものは特に都會に必要であるといふ事は申すまでもない、そこで通俗教育の内に何が一番比較的系統立つて居るものかといふと、青年團の通俗教育である、一體通俗教育といふものは、先刻列べました通り事業は算へ上げる事が出来ませんが、それでどうしても老若男女誰でも来いといふ譯になります、青年團の教育は學校に近寄らせるといふ事になるので、それが稍々通俗教育の中で系統立つた、兎に角形が出来上つて居ると思ひます、かく學校に近いものでなければ政府から監督をし獎勵をするに付いて大變仕悪い何て

も總て教育の要素を含んで居りまするものは通俗教育といふ事にして、通俗教育獎勵はしなければならぬといふ事では何所へ手を着けて宜いか分らぬ、例へば補助金を出すに付いても、何所に補助を持つて行つて宜いか分らない、寄席もやります、活動寫眞もやります、幻燈もやります、之は出来れば最も望む所でありませうけれども、政府から見ると、監督者から見ると、何を獎勵する、或は補助する、兎に角手を引いて進んで行かうといふ時に、其の形が幾らか一定して行かなければいけない、其の一定した形でそれに對して方法を定めて行かなければならぬ、歐羅巴を廻りまして通俗教育といふ事を調べました時に、通俗教育といふ事を念頭に置いて居る學者などは能く申しますが、普通の所へ行つて通俗教育といつても何だか分らない、獨逸聯邦の内では一番大きな所は普魯西であります、普魯西の文部省へ行きました通俗教育はどうだといふ事を質問しました所が、通俗教育とは一體御前は何をいふのかといはれましたから實は斯ういふ言葉であると話をした、直譯すると國民陶冶といふ事である、國民陶冶といつても意味は通ぜぬが、君の所から出て居る、斯ういふものがあるぢやないか、といつたらそれは私は知らぬ、一つ見せて呉れといふから、見せました所が『是た〜是ならば圖書館もやる講演もやる、何も彼もやる、活動寫眞の取締もやる、斯ういふものは政府として到底出来ぬぢやないか、之は民間の物好きがやるのだ』と普魯西の官僚式を發揮したのであります、政府としてやつて居る事は本年一月即ち私が行きました、年の一月に出した所の此の青年教育に對する青年教養、其の青

年教養に對する訓令の事業だけだ、其の青年教養の訓令はどういふものであるか、即ち今日の文部省内務省で出しました青年團に對する訓令と略々似て居る、年齢の制限はない、學校から兵隊になるまでとして政府は全力を注いで、さうして又之に幾多の訓令を發し、それから議會で補助も協賛して多額の金を支出して居る、それから之を世話をする系統は州から縣縣から郡、郡から村までズツと委員が出来て居る、さうして各地方團體に對して補助するのみならず、それだけでは足らぬ、之を國民の奉公心に訴へてやらなければならぬといふのであるから、此の頃戦争が始まりましたから日本にも追々名が聞えて居ります、彼の今將に土耳其の危険の街に行つて居る所のゴルツ大將といつて文武兩道の大將であつて、なか／＼獨逸では尊敬して居る、其の人がまだ現役でありました時に詰り政府の命カイザーの命を受けて、さうして全國に對して下されました所の、此の青年教養に關する所の訓令を舉國一致で實行する積りて、自分が實際會長になりました、態々亞米利加へ行つて散々搔廻してしくじつて歸へりました人や、前に拓殖大臣でなか／＼やりましたアルンベルヒ其の外前大臣など、いふ人達を評議員にされまして、茲に有力なる團體を拵へました、それを青年獨逸聯合國と名けて其の團體の支部長は皆な師團長或は鎮守府長官であるとか所に依ると市長もある、其間に官民文武の委員が出来て、さうして是が暇を貰ひまして獨逸中をゴルツと一緒に遊説して歩いた、さうして例の青年教養の必要を説いて歩いて、一方に於ては段々有力者を説き、さうして聯邦の王様から注意して掛つた

之は私が實際其の職務に従事して居る人から聞いたのですが、有志の面々から金を出させた、巾着から金を搾り出させた、又子供を持たずして兵隊に出したくも出せぬやうな者は宜しく大いに金を出せばといふ主義で金を出させた、そこで議會などで餘ほど問題になりました、ゴルツは陸軍々人の肩書を持ちながら、青年團の爲めに遊説して幾らも金が出来た、ゴルツはそれに對して自分は軍人で貧乏だ、貧乏で負債も多額にあるから金を出せない、宿賃だけは向ふから拂つて貰ふが、一切自費で全國を回つて此の青年獨逸の爲めに盡力して居るといふ答辨書などを出して居る、之は戦争前の話です、詰り一方に於ては本省からしてズツと地方廳へ委員といふものを置いて、さうして所々の世話をし指導をする、それから一方に於ては各全國にあります所の青年團、青年團の中にも何業組合青年團といふ種類があつて、之が又委員を出して鼓吹して居る、さうしてベースボール、フットボール、擊劍であらうが、何んであらうが、無茶苦茶に同じ目的のものは悉く一緒になつて、游泳會宜しい、何んで宜しい、大凡青年の元氣を鼓舞するを目的とする會は皆な青年團の中に聯合する聯合するには聯合されるだけの世話をする者があつて、青年獨逸といふものに這入る、團體の中間に居つて世話を焼くのはそれが即ちゴルツであります、青年獨逸は今申す通り普魯西の軍令、又は軍事のことは一も言つてない、又普魯西などで殊に軍事教育をする事柄はゴルツが自ら書いて渡してある、併ながら軍人に必要な精神、國民として必要な其のこの素養は附けたいといふのであります、さういふ風にして

詰り青年獨逸といふものは出來上つた、所が戦争が出來ましてからはどうか戦争が突發以來直に軍事の豫備教育をすることになつた、陸軍大臣文部大臣は凡そ是だけの軍事的豫備教育をしなければならぬといふ訓令を發して、十七歳未満の此の青年團の者が皆な戦争に出て居るといふことはどうも恐ろしい、而して志願兵として出て居る奴は士官學校をスツカリ出て居るさういふやうな團體もあります此の團體が今の通りになつて居りますから、日本のやうな唯だ訓令を出し放しぢやない、金を注いで居る、それから中央政府から地方までズツと公に認められて、公に規定された委員が出て世話をして居る、それから一方に於ては獨逸には獨逸の名士で尊敬當ならざる人達が自ら率先して聯合團體を拵へて世話をして居るのがあります、普通の所謂青年團體、所謂ボーイスカウト青年義勇團といふものは佛蘭西にもあり、露西亞邊りにも同じ様なものがありますけれども、斯うして實際に就いて見ますと、矢張り一番好く行つて居るのは、敵のことは褒めたくはないのでありますけれども、獨逸であります、それで寧ろ此の方に政府が着眼してボーイスカウト獨逸の青年團の教養を學ぶに至つたのは、少なくとも私は能く着眼いたされたと思つて居ります、それで満足を望めばもう少し系統を立つて行くことでありますけれども、それは漸次やる積りであります、併し兎に角青年團に對して政府が注意をして、さうして之に對する所の訓令を出されたといふこと青年教育、青年團の進歩の爲めには大變私は結構なことだと思ふ、惡い所は御同様皆な腹藏なく意見を述べて、さうして當事者の反省を

促すといふことは宜いことでありますけれども、あの訓令をやつたのが惡事のやうに——是が青年團を壞すやうにいふことは、少なくとも青年に同情ある我々は同意することが出來ないことであると思ふ。

そこで最後に諸君に一つの御願ひがあります、長い間諸君に御迷惑を掛け、更に御迷惑を掛ける事は甚だ忍びませぬが又今青年獨逸を引合に出すといふ事は甚だ當を得ませぬが、其のやうなものが日本にある事を私共は希望して居る、それでどうか乃木大將の如き方が居られるならば、さういふ方を戴いて犬馬の勞を取りたい考へてあつた、所が大將はなしといふやうなることになり、それでどうか誰か此の全國の青年團の間に立つて、さうして媒介の勞を取り、御世話をするといふ方がどうしてもなければいかぬと思ふ、又地方などを廻つて見るとさういふものを希望されるのであります、青年團といふ事に付いて、餘程同情ある所の内務省文部省農商務省陸軍省あたりの方が集りまして、私も其の内の人足になりました甚だ出過ぎた話でありますけれども、帝國青年團本部といふやうな名を付けまして一つ有志の先覺の士が集りまして、此の紀元節に帝國青年團といふ雜誌を發行する事になりました、此の事業は出版部とそれから講談部、調査部の三つ置きまして調査の事は青年團から色々質問があります、或は又各國の青年團、其の他全國の青年團のした事を調べまして、各國總ての青年團に配付する講演の方も斯ういふやうな講演者が必要であつたならば其の講演者の紹介も致します、出版

部は一つ講習録をやる、一方に雑誌を發行しまして成るべく先刻申上げた所の良書出版、即ち俗悪文學に對する所の對抗を試みたいといふやうな事で出来て居ります、まだ事業といふものは緒に著いて居りませぬ、先づ第一に出来るだけ良い雑誌を出さうといふ事で、雑誌を御覽になつたら分りますが随分其の道に名のある伊達源一郎といふやうな人を始め經驗ある記者も居るので費用も相當に出して呉れる人もあるのでそれでやつたのであります、其の雑誌を廣めるといふ事も必要であります、此の本部といふものゝ團體を一つ認めて頂いて、さうして十分忠告して、十分鞭撻をして頂きたい、又御相談がありますれば御相談の御引受もするのであります、それで吾々は憚からず申しますが、何等物質的野心のあるものではない、又さういふ人の一名もある會ではありませぬ、從來やつて参りました事でも皆さういふ意味ではない、是は大概知る人は知つて居ります、それでどうか最後に甚だ厚かましい話でありますけれども、此の會及び此の會から出します所の雑誌を一應御覽下されて、一つ十分に御賛成を願ひたい、是だけ申上げて今日は御暇を致します。(拍手)

部は一つ講習録をやる、一方に雑誌を發行しまして成るべく先刻申上げた所の良書出版、即ち俗悪文學に對する所の對抗を試みたいといふやうな事でも出来て居ります、また事業といふものは緒に著いて居りませぬ、先づ第一に出来るだけ良い雑誌を出さうといふ事で、雑誌を御覽になつたら分りますが随分其の道に名のある伊達源一郎といふやうな人を始め経験ある記者も居るので費用も相當に出して呉れる人もあるのでそれでやつたのであります、其の雑誌を廣めるといふ事も必要であります、此の本部といふものゝ團體を一つ認めて頂いて、さうして十分忠告して、十分鞭撻をして頂きたい、又御相談がありますれば御相談の御引受もするのであります、それで吾々は憚らず申しますが、何等物質的野心のあるものではない、又さういふ人の一名もある會ではありませぬ、從來やつて参りました事でも皆さういふ意味ではない、是は大概知る人は知つて居ります、それでどうか最後に甚だ厚かましき話でありますけれども、此の會及び此の會から出します所の雑誌を一應御覽下されて、一つ十分に御賛成を願ひたい、是だけ申上げて今日は御暇を致します。(拍手)

教育展覽事業

教育展覽事業

(文責筆者にあり)

東京高等師範學校教授
兼教育博物館長

棚橋源太郎君講演

私は此の通俗教育の事業の一なる展覽事業のお話を申上げる事になつて居るのでありますが、今日は何所にも展覽會は行はれて居ります。之は標本、實物、繪畫、模型或は統計(統計表は近頃餘り流行りませぬが圖に書いた統計)のやうなものを陳列し、或は實物を使用せしめて、眼と手を通して通俗教育をしようと思ふ方法でありまして、通俗教育中随分主要なる部分を占めて居るのであります、之は一口に展覽事業といふのでありますが、大体常設的のものゝ一時的のものとの二つに見なければならぬと思ふ普通博物館、植物園、動物園、水族館といふのが常設でありまして博覽會、展覽會といつたやうなものは一時的のものであります、それ等の仕事は皆今お話をした眼と手を通して通俗教育をしようといふ事になるのであります、其の經營方如何に依つては一層通俗的の事も出来るし、或は通俗教育として最も値打のない經營方もあるのであります、要するに通俗教育といふ見地から、常設であるゝ一時的であるを問はず、今後は段々かゝる施設をして行くといふ事が通俗教育上極く必要であらうと思ふのであります、通俗教育とはどんな事をするか、數日に亘つてお話を聴きになつた

事をごさいませうからして、展覽といふ方法に依つて通俗教育の有らゆる方面、即ち或は自然科学的
智識の普及、或は自然科学の應用、或は歴史、考古學、或は美術、音樂思想等の普及又は家庭教育の
助けの爲めとしての子供の躰方、或は子供の用品の展覽である、三越の子供博覽會などは展覽方面の
事業である。又歐羅巴へ行ふ市町村の公民として必要である事柄等の方面の事なども展覽して教育す
るといふ事が、立憲國では極く必要であらうと思ふ、此の自然科学、或は自然科学應用は仲々範圍が
廣い、自然科学には色々學科がありまして一々申上げなくてもお分りであらうが、その應用といふ
事になると、仲々廣くて農事、水産、林業、製造、交通、衛生といったやうな事は皆其の應用になる
のでありまして、殆ど通俗教育の有らゆる方面の事を、眼を通して苦しませず手取り早く、さう
して深い印象を興へ、話を聴いたり、本を読んだり、非常に時間の掛かる事を僅かの時間で教育する
といふ事は、展覽事業の特色であります、歐羅巴では此の事業を常設的と一時的とてやつて居る、私
は今日さういふやうな範圍に涉つてお話をしようと思ふのでありますが、時間が極短いのであります
からして、極大要のお話しか出来ぬと思ひます。

餘り具體的の事を申しますといふと、都會と村落とは土地の事情に依つて夫れ／＼違ひますからし
て、矢張り原則だけ御話をして置いた方が、實際の御經營の場合に宜からうと思ふ、それで今日のお
話は一般的の事になるかも知れませぬ、他の先生からも色々御話があつたやうてありますが、海外で

展覽事業に依つて通俗教育をして居る施設といふものは、非常なもので、私などは歐羅巴亞米利加に
参りませぬ先きは夫れ程に考へて居りませぬでしたが、歐羅巴へ行つて見ても學校などに付ては餘り
驚きませぬ、なぜなれば歐羅巴にあるやうなものは大抵日本にもある、上は大學から下は幼稚園に至
るまで色々學校の系統なども揃つて居りますが、歐羅巴の何處へ行つても日本で餘り見ないものは展
覽事業、博物館、美術館といったやうなものである、此等は如何にも大仕掛であるばかりでなく又ど
んな田舎の津々浦々に至るまでも小仕掛の常設展覽所が餘ほど行渡つて居ります、先ず東京位の人口
を持つて居る街でありますと、宮内省で經營されて居ります位のは小さい博物館であるのであります
あれを横に五つ六つも倍して、それには二段か二段半位上に高くしたやうなものが五つ六つもある、
第二流位の都會が其の通りである、又第一流の伯林市などでは四十位あります、巴里へ行つても倫敦
へ行つても、紐育へ行つて見ても、もつと小さな日本といふと名古屋、静岡或は廣島位の街へ行つて
見ても、二つや三つの常設的の博物館があります、それは皆通俗教育を目的として作つたものであ
る、其の外動物とか、水産とか植物といったやうなもの、娛樂半分に日曜日などに開く展覽事業は
幾つもある、勞働者或は貧乏人などは日曜日が閑でありますから之に見せて通俗教育をするのである
故にさういふ所は大抵觀覽料を取らぬ、日本の博覽會などは日曜日であると十錢の入場料も二十錢に
するといふことをやつて居りますが、向ふては日曜日は或は半額、或は特に無料といふ風であります

特に下層の人などで閑の無い人には娛樂半分、それを見せて、さうして美術思想を養ひ、或は理學、化學、醫事、衛生、育兒、家事、農事等、有らゆる方面の智識を、普及するといふことに非常な金を掛けて居る、建物を見たばかりでも我々は驚いて仕舞ひます、之は幾らの金が掛つたらうと思はれる石で積上げた非常に立派な大きなものがあると思ふと、又田舎に行けば田舎相應の小さな規模でやつて居る、私が英吉利に居る時、南ウエールズのカーチフといふ石炭の出る街の在にパーレーといふ小さな街があります、此所て言へば横須賀よりもつと小さいと思ひます、其所に私の知つた人で隱居さんが居ります、元と女子高等師範學校の校長をやつて居られました、隱居して當時名譽視學官などをやつて居ります、日本にも一年か二年居りましたが、日本から歸へる時に珍らしい物を買つて歸つた、國の者に見せるやうにそれを村役場の一室に奇麗に陳べてあります、それで矢張り街の學校の先生が生徒に日本の地理を教へるときに、ジャバンというても唯だ日本といふだけでなく、品物を見せて、日本といふことに付て非常に深い印象を與へる、又其の土地の職人などが、ちよつと變つた意匠を凝らさうとか、色々日本といふものに付て調べたいといふことが頭に浮んだときには、其所へ往つて見る、一年間に僅かの見物人でありませけれども、兎に角小さい博物館でもそれ位である伯林に日本の名譽領事をして居る、猶太の人がありますが、大變日本品好きで、一年に二萬マルク位の豫算で所々の博覽會に出品した日本品を買足して居る、其の人の家には教場位の部屋が二つも三つもある、丁度

今日此の學校の大典記念展覽會場にあるやうな陳列函に奇麗に列べて説明付てやつて居ります、それでも一の博物館で、色々の職人とか、美術工藝品の細工人とかいふやうな人が日々見せて呉れといふと喜んで見せる、家に來る客には無論見せる、博物館で而かも常設的の物といつた所が、さういふ小さなものがある、大きな物になると限りなく非常に立派な設備をして居る、概ね其の地方の事情によつて相當に夫々やつて居るのであります、一時的のものなる博覽會といふと、殆ど今日では世界的流行になつて居るので、彼の國でも非常に大きなものがあります、少し小さい博覽會、即ち日本の所謂展覽會はなか／＼流行して居る、向ふの人は實に此の展覽會が好きである、餘ほど研究的精神に富んで居るのでありますから、物を見てさうして色々研究するといふ風であります、日本の人は見て黙つて聞くといふ傾きがある、例へば向ふの人は同じ話をするにしても、素話といふことはない、話をするならば乞度幻燈を使ふとか、繪を使ふとか、或は話に關係のあるやうな物を其所らへ陳べるとか、それから話の後でズツと見て、實物の説明をするといふ風で、素話は滅多にない、五人か七人集つても幻燈會などをやる、日本では妙に話の上ばかり力を入れて、眼に訴へるとか、物を見せるとか、いふ方は無い、向ふのは物を見せて、さうして話をするから、材料が要領を得るのです、故に話をする時には必ず小さい展覽會がそれには乞度くつ附くです、今一つの展覽會の例を一つお話しして見ますると、私が瑞典を旅行いたしました時にネッスといふ所に手工の講習所がありました、其所に各國の人

が集つて来て手工の教授を受けて居る、小學校の先生なども居る、三四日私は其の講習所のお客になつて寝泊りをして觀察をして居りましたが、晝飯を食つた時に展覽會があるから来いといふので、教員に連れられて行くと、庭へ下りた、何時の間に廣告をしたか講習員五百人中の趣味を持つた者が二十三人集つて来た、それは近傍の老農が林檎の栽培に色々苦心した話で其の栽培した林檎の見本や何かちやんと整へてあつた、其所へ講習員が二三十人集ると、一時間ばかりそれを見せて説明を加へる、是れも一つの展覽會です、私共はチョットの間それを見て大變面白いと思ひましたが、講習に来て居る人の食後一時間、最早一時的の展覽會であります、又獨逸のドレスデンといふ所に旅行をしました時に、或る小學校の教場の一つだけ机を除けて、さうして中學校、女學校あたりの顕微鏡を二十か二十五集めて来て窓の所へ列べて、其所に金魚の餌になるもの、水産に關係したもの、或は病原を爲す微菌であるとか、或は微であるとか、顕微鏡でなければ見えないものを見せて居る、新聞雜誌に書いたと見えまして、奥さんみたいな人も居れば、色々な人が来て其の部屋は大變混雜して居りました、これも一時的の通俗展覽會であります、それに説明も付いて居るし、それに居る人も口でも説明をしてやる、餘程效力のあるものと思ふ、何も費用の要る譯でも何でもない、又同じくドレスデンにありましたが、彼所のエルベ川に架つて居るウォルブリッヂといふ大きな橋を改築した、東京でいへば兩國橋といふやうなもので、仲々古いものであつた、其所は電車が通るやうになつて居る、其の開通

式があつて、其の記念の展覽會があつた、ウォルブリッヂの記念展覽會、どんなものかと行つて見ますと、小學校の教場を二つ位潰して、それで昔から其の橋に付いての歴史、此所でどういふ戦があつた、昔は斯んな風の建築であつたといふやうに、此の橋を中心として歴史に溯つて書いてある、何でもないやうであります、ドレスデンの市民には餘程興味のある事子供が見ても大人が見ても餘程趣味津津たるものがあらうと思つたのであります、極めて手輕で、それで何時となく自分の郷土を知る事が出来る、兩國橋などは江戸の遺物でありまして、江戸の市民たるもの、郷土を愛する念慮を養ふには此の古い歴史を知らせるが必要である、さういふやうな事通俗教育上の價值といふものは仲々軽く見られないと思ふのであります、此等は半ば娛樂で、半ば精神教育をいたし、又智識の上にも大變貢獻するのであります、又私が伯林に居る時に或る議事堂に子供の讀物の展覽會があるからといふので、行つて見ると正月のクリスマスの前に其の年に出来た新しい良い繪本、讀み物といふもの、展覽會であつた、さういふ機會に學校の先生などが發起して、其の年に出来た新しい表紙の綺麗な本などで子供が見まして、有益であるといふものを撰擇して列べる、其の他雜誌や何か最も俗惡有害なものが出来た時には、さういふものも列べて見せる、親達にはその展覽會のあることを新聞で知らせ又子供同志に知らせますと、ドヤ／＼来る、来て見ると今年斯んなよい讀物が出来た、之は何所で賣つて居るといふ事も分るからそれを帳面に書く尤も俗惡のものとは分類してあるから、心配はない、

かくて女の子の子には之が宜いといふ風に一寸一時間位展覽をして、自分の甥なり、姪なり、子供なり孫なりに有益な贈り物を見付ける事が出来る、段々さういふ風な事が發達して來ますと、同じ繪本を一冊買つても、玩具を買つても、成るだけ無害な有益な物を買ふといふ事を世間が要求する、日本ではさういふ事を要求しても其の要求に應ずる施設もない、所が向ふては極く手軽に、さういふ物を集めて親達に見せる、毎年それをやる、來ない人には印刷をした目錄をやるやうにする、此等は通俗教育の展覽事業の一つであると思ひます、日本でも段々さういふ傾向が出來まして、先達て大學の教授が大學の御殿で南洋へ行つた人が持つて來たものを此の教場の半分位の所に列べてその説明をして見せて呉れました、私は大變よい催しだと思ひました、附屬中學にも見せて呉れましたので、吾々職員は其の教授から説明を聞きましたが、唯三十分ばかり見たさうですが南洋といふ事に付いて大變智識を得た、それから又日蘭協會が、めがね橋の停車場の二階で、此の教場位の大きさの部屋で、展覽會をやつた和蘭は文明を歐羅巴から日本へ輸入した縁故の深い國でありまして、日本へ歐羅巴の文明がどんな風に這入り込んだかといふ事を知るには最も宜い展覽會でありました、私も行つて見て極めて氣の利いた展覽會であると思ひましたが、果して新聞などでも極めて好評でありました、段々さういふやうな傾向が出來まして、極めて結構であると思つて居るのであります、歐羅巴では私が伯林に居る間に……二週間か三週間、或は一年位の間、絶えず此の小さい展覽會があり過ぎる位あり

ました、發働機の展覽會では飛行機に自動車の發働機を仕掛けたり、船の發働機を應用されたり、其他有らゆる發働機の展覽會を開かれた、之は今から考へて見ると、獨逸皇帝が會長となつて居られまして、それで發働機の展覽會を開かれたのです、今日から考へると、大いに此の飛行機建造の發達をカイザーが望まれて、さうして大いに之が獎勵をされて居ると氣付いたのである、それから國立自動車協會といふものがありまして、自動車の獎勵をし、それと同時に發働機を獎勵して居る、此等は何れも通俗教育の力を藉りて一般の人にさういふ思想を普及するのである、又旅行展覽會といふものもありまして、旅行に必要な注意を與へる、之は學生などに少額の金錢で趣味ある旅行思想を養成するには效のあるものと思ひます、其の他芝居展覽會等色々の展覽會があるのでありますが、向ふの人はさういふ有らゆる種類の事を機會を利用しては眼を通して通俗的に教育をしようといふ考を持つて居ります、又獨逸のキール軍港の餘程奥の方にルーベツクといふ街があります、此處にあるルーベツクといふ川があつて水雷艇が七八隻此の街へ著いた、當時私は或會がありまして此の街に旅行をして居ると川を何十里と溯つて今水雷艇が七八隻來た珍らしいといふので、街は上を下への大混雜であつた、我々も獨逸の水雷艇を見ようと思つて、行つて見ると、士官から水兵達が來る人毎に熱心に説明をする、さうして一般の人に水雷艇は決して危険なものでないとか、其の生活の面白いことから、戦争の時に効力のあること、大切なこと何でも水雷艇を造らなければならぬといふ事を話し、海事思想を鼓

吹してゐた、之も一種の展覽事業で設備は何にも要らぬ、唯一日か二日碇泊して居るので、船の居る内はそれだけであるが、今度はそれを新聞に書いて街中の人にズツと見せる、之が喜んで海軍に入らうとか、色々海軍思想を養つて、結局獨逸の海軍の發達に貢献をすることになる、向ふの人が有らゆる機會を利用するといふことに、如何に注意して居るかといふことは、それでも御分りになるだらうと思ひます、かういふ一時的或は常設的展覽事業に關する歐羅巴の狀況などを申上げて居ると、なかなか限りのないことでありませうからして、今御話をしたことで歐羅巴亞米利加邊りの國民が、學校で子供を教育する以外に、子供は無論の話、或は人の細君になつて居る人其の他世間一般の人に對して今御話をしたやうな風に、眼を通して各方面の智識を普及することに、如何に努力して居るかといふことは大凡想像が參りませうと思ふのであります、特に少し都會地でありますといふと、一の博物館など、いふものが街の一の裝飾一の娛樂場となつて居るのであります、歐羅巴の大きな街を旅行すれば何所へ行つて見ても、街の様子を知るには、先づ以て博物館に行くがよいといふが、不幸にして日本にはまだ博物館らしいものが無い、唯だホンの博物館の芽生え見たいなものがある、即ち宮内省の帝國博物館、是は歴史美術の博物館の芽生え見たいなもので、あれを完備して始めて本當の博物館になるのであります、農商務省には商品陳列館があります、外國では商業博物館といつて居ります、其の前に農商務省の地質調査所の礦物の陳列所がある、遞信省には今の新橋驛に遞信博物館がある、昔は

交通博物館といつた、歐羅巴では交通博物館といつて随分大きなものがあります、それから海軍には築地に海軍參考館といふものがあり、招魂社の遊就館は陸軍の方の展覽會、文部省の方には私が關係して居ります通俗教育館といふものと、それから教育博物館といふ小さいものが二つあります、又同じ御茶の水に博物館といはれるやうなものではない、ホンの博物館の芽生えてあるが一つある、此等は今後段々發達させて行かなければならぬのであります、歐羅巴の人が來ても恐らく失望するだらうと思ふ、來て見ると、東京といふ街は夜になると暗い、一向夜遊びに行く所がない、市街が暗らいし、晝になつても見物しようといつた所で、博物館といふものもない、外國では宮殿などを見せることがありますが、古い宮殿で錢を出して見る所も無い、劇場ぐらゐが日本も歐羅巴に劣らず發達して居るだらうと思はれる、歐羅巴の人が日本を早く理解するのに誠に不自由を感ずるだらうと思つて居る。

それから向ふの實際を見ると、まだ／＼大いに努力しなければならぬが、學校外に娛樂半分に眼を通して、さうして手つ取り早く色々な方面の智識を普及する、即ち學校で教育したことを補つて行く機關即ち圖書館であるとか、講演であるとかいふやうなものと共に、展覽といつたやうな學校外の設備が完備して來なければ、幾ら學校の先生が努力して見た所が、歐羅巴に對抗して行かうといふ事はむづかしい、獨逸では七八箇年の義務教育に更に補習教育を三年も強行して居る、日本よりも二年も

義務教育を多くしてある上に、卒業した其の力は仲々二年位の違ひではない遙かに進んで居る、それから小學校を出てから補習教育をやつて、其の上に講演、圖書館、博物館であるとか、展覽會であるとか、有らゆる機關で人を教育する、學校教育を補習する、到れり盡せりて、さういふ設備で以てやつて居りますから、幾ら吾々が力んで見た所が、歐羅巴だけの機關設備がないのであるから逆も追付かないのであります、それでどうしても學校の先生だけに任かしては置けない、無論學校に重きを置かなければならぬのでありますけれども、學校に任かして置かないで學校以外に有らゆる機會を利用して世間でも今お話ししたやうな方法で此の教育の効果をモツと深くして、國力の充實、發展の基礎を造るといふ事を考へなければなるまいと思ふ、どうも日本では兎角教育といふ事は學校でする事のやうな風に考へられるのでありますけれども、之は歐羅巴殊に獨逸あたりでは、普佛戰爭後其所に氣が付いて學校だけでは往かない、學校以上に色々の施設をやらなければならぬ、學校位は知れたものだ、學校と相提携して今お話ししたやうな、有らゆる通俗教育施設を完備して、國力充實の發展を期することの必要な事に感づいた、實に國力を天下に競争するには學校だけの力では出来ぬ事を三十年も四十年も前に氣が付いて設備を完備して、今お話しした通りになつたのであります、日本は甚だ遺憾ながらまだ數年前に漸く少數の人が斯んな事に眼を着けたに止つて居るのであります、それで私は色々の方面に於て御盡力を願はなければならぬのであります、先づ展覽會といふ事で横濱みたいな所、神奈

川縣の市町村といつたやうな所の人に眼を通して如何に通俗教育をすべきかといつたやうな、實際問題に付いて具体的のお話は出来ませぬが、極く原則的に私の意見を申し上げて見ようと思ふのであります。

先づ此の事業を常設的と一時的とに別けてお話を申し上げなければなりません、常設的といへば博物館でありませうが、博物館といふと大きな物のやうに考へますけれども、八疊敷か十疊敷の部屋一つでも私は之を博物館といふのであります、之は歐羅巴の博物館の發達の歴史を考へて見ましてもさうです、大体此の一時的の展覽會といふやうなものも此の縣の各地で段々おやりになるだらうと思ひますが、さういふ機會に建物の一部分をバラックにしないで幾らか金を掛けて、永久的に作つて置いて之を博物館にするといふ事が此の事業の手初めとしては必要です、歐羅巴で博物館といつてもさういふやうな歴史を持つて居ります、一個人なり會社なりで、金持が有つて居る物を自分の家に列べて居るやつが段々殖えて來たら、人を一人付けて一週間の内に一日だけ見せる、日曜だけ見せるとか、或は紹介状のある人だけ見せるといふ風に、個人の掛物であるとか、骨董品であるとか、好き／＼で蒐めた昆虫であるとか、貝類であるとかを列べて見せたのが發達して博物館となるのである、獨逸では亞弗利加或は支那に長く外交官をやつて居つた人で珍らしき物を澤山持つて歸り、それを秘藏して居たが大分蒐つたからといふので、それを自分の部屋に列べて、公開したのもある、それも始めは一

週に一日或は二日或は知つた者とかいふ風にしてゐたが段々大きくなつて町が補助するといふ事になり、段々に博物館が出来たといふものもあります、それから當縣の鎌倉などには寶物があります、さういふものを段々博物館にすることも出来ます、かゝる所では色々な名高い由來のある物を持つて來て系統的に列べて歴史博物館とすることも出来ます、又學校に色々な標本もありませう、獨逸では大學の標本室を開放してある、之も標本の博物館といふのであります、東京の大學の人類學教室には地圖がある、澤山の地圖を列べてそれを開放して居るのもある、小學校あたりもモウ少し開放して多くの人に見せる、始終といふ事はむづかしいか知れませぬが、或る時には見せるといふ方法を取る事が一番早いだらうと思ふ、詰りさう云ふやうに或る人が集めた物とか、神社にある少しの寶物とか熱心な學校の先生があつめた色々な標本とかを公開するも宜からう、始めから縣會或は郡會にかけて經費を議決し、それで家を造つて行かうといふよりは始めは行はれ易い事からやつて行く、歐羅巴でもさういふやうな、發達の歴史を持つて居るのであります、それを日本でも繰返してやる方が宜いと思ひます、殊に圖書館といふものは、市町村に大分普及して來たのであります、歐羅巴の圖書館は大部分は陳列所になつて居る、歐羅巴の圖書館は半分陳列所向きで多くは古い浮世繪或は古い本それから昔の印形或はメタル或は石文色々石摺りになつたものがあります、之はナポレオンの書いたものとか、ワシントンの手紙だとか之はナポレオンがどうしたものとか、さういふ手紙といつたやうなものを函

に容れて列べてある、それは圖書館であるが、半分は博物館の作用をして居る、それで我國の圖書館も段々發達して來たのでありますから、その一部分に圖書館に關係の近いやうなものを段々陳列して、さうして其所へ出入をした人は本を読むばかりでなく、物を見て教育の便を得るやうに、圖書館の建物の一部に増築をして、さうして其所を或種類の陳列場にするがよい、私なども學校の生徒に教授法の講釋などをする時に、さういふ話をするのであります、一体小學校や中學校で歴史を教へる時にどうも標本などが少ない、高等小學校などでは猶更歴史博物の標本といふものが誠に少ない、御大典の記念品などは學校に永久的に残されたら大變宜いことではないかと思ふ、歐羅巴であります、小さい所へ行つて見ると、歴史博物館はない、それで一の方法として小學校の一室とか、役場の二階、又は郡會議事堂の何所とかいつた所を博物館に當てゝある、あゝいふ御大典に著た裝束といつたやうな物は文明史を教へるのに缺くべからざるものである、御大典に著たものであるけれども、之はいつ時代の服裝である、いつ時代の役人が著た禮服である、といふことを教へるのに、本の挿繪などでは物足らぬ、矢張りあゝいふ物でもあると、之はいつ時代の朝廷の官吏が斯ういふ服裝をしたものである、其の頃の武器といふものは斯ういふ物であるといふことが明かにわかる、それで火繩鐵砲などは學校に一つ欲しいです、種子ヶ島の鐵砲が傳來して來た、之は日本の封建制度を壞した、歴史上誠に意味がある、さういふ物が知らぬ中に古道具屋邊りて廉い値で買はれる、或は村の物持が藏に

持つて居る物で、家に置ても蟲干などで困つて居るもの、或は舊藩主などでも古い長上下とか、其の他矢張りさういふ昔使つた物など、いふものは、蟲干を毎年やるんだが、虫が出たから今度層屋にやるとか、煙草入に縫ふたとか、襖物を縫つて仕舞ふとかいふことにならぬ内に、郡役所の所在地ぐらゐの何所かの一室に函を造つて奇麗に保存をして、さうして小學校で歴史を教へる時にそれを借りて來るなり、或は子供を連れて行つて昔の武器は斯ういふ物だ、昔の服装は斯ういふ風であるといふ風に、教授をして始めて本當の親切の教授といへる、本の挿繪ぐらゐで歴史を教へるといふことは極めて樂てありますが、不親切の教授である、本當の教授をやるには歐羅巴のやうに博物館まで連れて行つて見せてやる、さういふ機關が無ければ、一郡に一箇所位歴史的の遺物を保存して、之は昔の錢、之は昔の紙幣である、之は昔の御駕籠、昔の飛脚、昔の交通であるとか、或は昔の服装、武器であるとかいふ様に、昔の物を色々集めて置いてキチツと整頓して説明を附けて置きたいと思ひます、かゝるものが一箇所あると、其の郡の生徒が郡役所の在る所へ一日なり半日なりで遠足をして來て、其の實物を見、有益なる智識を得て歸るといふことが出来るやうになつたら、どうかと思ふです、デありますからして、大きなことを言はないでも宜いからして、先づ斯ういふやうな所から段々工夫したらよいと思ふ、之が各郡に出來てから、之を殖やして中央部は此の縣ならば或は横須賀、或は鎌倉、或は小田原に置き其所には可なり大きな物を造り、ちよつと其所へ行つて博物館を觀られるやうにしたい

昔の小田城の模型とか、昔は其所は斯ういふ城であつたとか、箱根の關所の模型とか、或は雲助の形であるとか、色々無くならぬものは先きに保存して置きたいと思ふ、それが結局博物館の發達する本になるだらうと思ふ、さういふ風に眼を通して教育する施設はまだ殆ど手が着いて居らぬ。

次に一時的の展覽會であります、是亦常設といふことになると思ふ、大分事がむづかしいけれども、一時的の展覽會は此の縣下でも方々で屢々行はれるのであります、それに付て少し私の意見を申し上げて見たいと思ふ、之は歐羅巴などでも皆さうであります、有らゆる機會例へば丁度斯ういふ風に三日間諸君が御集りになり其の機會に此の學校長などが御話をなさるならば展覽會を開いて大勢の人に見せる、或は教育會を開くとすれば、其の設備に附けて展覽會を開く、又御祭りであるとか、祝日であるとか、人の集まる機會があれば之を利用して、出來るだけ展覽會を開設するといふやうなことにしたいと思ふ、さうして又或は町村とすれば若し其の村から海軍に軍人が出て居つて南洋へ軍艦で行つたとか、或は商賣に行つて、今度珍らしい物を持つて來たとかいふ、其の機會を計つて直ぐ小學校の教場に一つそれを陳べて、さうして其の人から説明をして貰ふとか、色々さういふ機會があると思ふのです、さういふ機會を外さず、少しでも之は参考になると思つた物が其所に到着したならば、それを通さず之を材料として教育をするがよい、面倒なものでありますけれども、矢張り獨逸の人が其の街に潜水艇が著いたといふ機會を利用して、咄嗟に發動的にやつたことか知らんけれども、兎に角幾

千人といふ人に海軍の思想を普及して、其の通俗教育の効果がどれだけあつたか分らぬ位である、それはどれだけ経費が要つたかと言へば、別に経費は掛らない、金を掛けずに通俗教育をやつて居る、歐羅巴と競争するには矢張り歐羅巴でやる以上の事をしなければ迎も優者の地位に立つ事は出来ない、向ふてやつて居る以上の事を日本はやるといふ覺悟をしなければ、日本の國力の充實の仕様はない、其の種を蒔かなければならぬ、さうして今後農業の展覽會、或は此の縣邊りには水産があります、水産展覽會にしる、色々展覽會を御開きになるといふやうな機會があるならば、私は通俗教育といふ考で、それを經營するといふことが必要であると思ふ、又博覽會屋といふのが東京にあります、矢張り展覽會をやるといへば博覽會屋のやうな人に頼めばよいのであるが、是までの博覽會屋は通俗教育の思想を缺いて居る、それ故通俗教育の考へのある小學校長、視學、或は町村の通俗教育に關係のあるお方が此の博覽會屋に御加はりになれば、同じ展覽會をやるにしてもモツとそれを能く分るやうに列べることも出来る、あまり専門的でなく、從來やつた展覽會に通俗教育の色彩を帯びしめるやうにしたいと思ふ、餘りむづかしい事をいつてもいけない、其位の所で始めて行きたいと思ふ、それが此の常設的、或は一時的博物館、通俗教育展覽事業の大方針であります、私は唯今の方針で、將來或は常設的なり、一時的なり、展覽會を施設經營なさる場合があるならば、御参考になる事を二三お話し申上げて見たいと思ふ。

之は少し細かい問題になるのでありますが、此の常設的に經營する展覽事業ならば地理であるとか歴史であるとか、自然科学の應用であるとか、衛生とか、教育とか、或は家事經濟とか、子供を育てるについての婦人方の智識を改良する事、家庭的の事など必要であります、さういふやうな常設的の物を施設しようと御考へになる時に、其陳列品といふものをどうして集めるかといふのが、第一番の問題になつて來ようと思ひます、此の常設的の陳列品を集めるには、例へば此の横濱に勸業展覽會がありました、あゝいふ機會に殘品となる物を買取るなり、或は寄贈して貰ふなり、出品を頼むなりするといふ事が一番物を得るに易いと思ふ、各地の物産を集め、縣下の物産を集め参考品を集めるといふ事は、あゝいふ展覽會の機會を逃がしてはいかない、先日の大正博覽會のやうなものであると小笠原、臺灣、樺太、朝鮮などからも色々な物が來て居ります、あゝいふ機會に集めたならば譯なく集まる、それは博覽會の會場へ行けば事務員が來て居りますから、之と約束をすれば譯なく各國の良品が集まる、あゝいふ機會を逃さぬやうにしたいと思ふ、學校などではあゝいふ機會を逃がさないで、備品、用品といふものを集めて常設的の博物館を造る基礎を作るがよい、或は一時的の展覽會の場合にも出品をして貰ふもので必要と思つた物だけを買取り、或は寄贈を受けるなり、何なりして物を集めるとなれば、譯なく集まる、それから又各地には色々な物好きがございまして色々な物を集める人がある、小田原のお城の何であつたとか、新聞にも出て居りましたが、片瀬あたりには居る小説家選

塚麗水といふ人とか、或は人類學の坪井正五郎など、いふ人は色々な物を集めて居る、其の他陶器、石器、刀、貝殻、昆虫と色々の道樂があつて夫々集めて居る人がある、さういふ人に話をして、それをそつくり其の町村が貰ふとか、學校に貰ふとかして彼方此方から集めると、容易に陳列が出来る、歐羅巴の博物館へ行くと、一つの部屋て之は誰の所有品、或は寄贈品である、其の人の石膏像であるとか、大理石像であるとかいふものがある、或は亞米利加に長く役人をして居て珍らしい物を持つて来た、それが一つの部屋になつて、博物館の一部になつて居る、町村の役場とか、或は郡會議事堂、役場の何所か一室とか、學校の一室を陳列所にして種々の物を集めるとなると容易く出来る、さういふ心掛けて集めるといふお考へておやりになつたらば宜からうと思ふ、それから又物の出来る順序、例へば此の縣の物産は何でありますか知りませぬけれども、原料からどういふ順序で段々物が出来るといふ事の智識即ち工業思想は今後大に普及しなければならぬと思ふ、それにはどういふ原料にどういふ加工をして、どんな順序で製品が出来るといつたやうな標本が、段々學校の教育にも要るし又通俗教育にも使ひたいと思ふ、護謨はどういふ物から取る、或は石鹼はどういふ原料から出来るといふ様な事は知らせる必要がある、吾々の使ふ石鹼は南洋の椰子の實から出来るといふ事は知つて居る人が少ない、總て吾々の使つて居る日用品はどんな順序で、どういふ原料にどんな加工をして、どんな物になるか、それを現はす寫眞、工場のやうな寫眞、或は産地の原料を採る所の寫眞標本、加工をする

順序、それから製品、それから製品にマークを貼つて其の價、年産額、一年の輸出額、或は輸入額といふやうな數字なども示す、どうしてもさういふ風な物に依つて教育する方が宜いので、それに説明を付け、眼を通して教育する外はない、學校の教育に於て是非さういふことがなくちやならぬ、通俗の陳列所を造つて、矢張りさういふものはどうしても保存しなければなるまいと思ふ、さういふ物は展覽會でなくても製造家に話をすれば一つは廣告になるばかりでなく、世間の公益を謀る爲め、又教育の爲めになるから、或程度までは自腹を切つても便宜を謀るやうなことを大抵の工場てやつて居るデありますから、さういふ工場に向つて能く其の趣意を御話になると、譯もなく應ずると思ふ、私共は今まで大抵さういふやうな方法で物を集めて居ります、随分各地から頼まれて製造家に話をして便宜を謀つてやつたこともありすが、製造家は案外さういふ要求には樂に應ずるです、テ私の御話をした今までのことは、慾の深い、金を使はぬで集めることばかりだが、それより御買ひになるが一番宜しい、或は注文して御造りになるが一番宜いですが、なか／＼費用多端でありますから、まあ金が掛らぬ集め方ばかりをお話して居るです。

それから今度は蒐めた物を陳列することに付て少しお話を申上げて見たいと思ふのであります、當校にも一時的の大典記念品展覽會が開催されて居ります、大分結構に陳列されて居るのでありますが大凡此の物を陳列するやり方といふものは、さう澤山あるものぢやない、陳列の函といつたやうなも

のは、是はもう東京へでも御出ましになつた時に、一遍陳列館などに御出になつて其所で使つて居るものを御覧になれば直に分る、あれも分類は大凡幾らといふ極まりがある、覗き函といつて四方から容れることの出来るやうな函を使ふとか、或は壁面に平行して置く三方硝子の物を使ふとか、或は硝子戸棚を置くとか、四方硝子の函を使ふとか、陳列に使ふ容器はさう澤山種類があるものではありませぬ、即ち大凡式が決まつて居るのでありますからして、それに依つて容器はどうしても作るより外ありません、學校に古い陳列戸棚でもありましたならば、それを幾らか改造でもしたならば、一番經濟の方法であります、どうしても此の容器は作つて掛らなければ仕様がな、其所に物を陳べるのであります、一番大事なことは、我々の方で背景といつて居りますバックです、下に布を御敷きになるとか、或は後ろが棚であると板で貼つてありますから、それに紙を貼るとか、或は布を貼るとか、必ず背景といふものがあるのであります、之が一番大事のことで、博覽會屋といふ人は、さういふことに掛けてなか／＼巧い、我々が展覧會や博覽會に行つて見まして、稍々見られるものは、皆あれは博覽會屋のしたのです、博覽會屋は其の下に裝飾屋といふものを使つてやるので、出品する人は博覽會屋の指揮の下にある裝飾請負業者みたいなものに頼むのです、それは物を陳べる専門家でありますそれが總て物を見て、之は斯ういふ金屬の物であるからして、此の下は小豆色が宜いとか、或はオリブ色を使ふとか、或は白い布が却て引立つとか、之は矢張り後ろに黒い物を使はぬといかぬとか、

夫々其の物に依つて下に敷く物、後ろに貼る布を考へる、之が一番大事なことであり、贅澤な布にすれば幾らも高いものがありますけれども、先づ金の掛らぬ物ならば羅紗紙を使ふのです、羅紗紙も、オリブ色もあれば小豆色もありますけれども、羅紗紙といふものは餘りビカ／＼光り過ぎる、羅紗紙よりもつと廉いものでペンキを使ふことです、羅紗紙は二月三月目には一遍取替なければならぬ、ペンキで塗つて置けば一番金が掛りませぬ、此の背景色といふものが一番大事で、まア艶消羅紗紙が一番に廉くて宜いでせう、それで此の背景色を考へないと引立つて來ない、之はどうしてもさういふことに付て誰が一番技倆を持つて居るかといふと、學校の先生の中でも繪の先生です、それで一時的のあゝいふ物を列べるとか、常設的の物を陳べるとか、何しろ物を陳べる時にはどうしても繪の先生を頼むといふことが必要で、今後展覧會をなさるときには、少なくとも繪の先生をそれに一人加へることが必要であります、繪の先生が形の上の調和、色の上の配合等は色々研究して居りますから、氣の利いた陳べ方をし、氣の利いた背景色を使ふです、今後諸君が、學校で展覧會をなさるとか或は各郡で展覧會でも御開催なさるときには、どうか其の委員の中には、繪の先生を御加へになることに願ひたいと思ひます、それから手工の先生なども悪くはないと思ひます。

それから今度は其所に物を陳べるのであります、私は今まで各地特に小學校邊りて開かれた展覧會などを拜見に往きましたが、物を陳べるといふやうなことに付ては、殆ど考へない、方々から集つ

て来たゞけを、何でも其所の極めてある所へ無暗に押込む、ゴチャ／＼に積む、狭い所へギッシリ列んで居る、列んで居るといふよりは、置いてある、我々の方ではそれを勸工場式陳列法といつて居ります、さういふ物があつたつて見るものではないさう云ふ風なものがあればそれは一つ所に集めて、跡は極く代表的の物だけを列べると人が見る、人は眼に當つて忌氣の起らぬだけにアツサリと列べたものでなければ見るものではない、博覽會へ行つても専門家の列べたのを見ると、列んだものが眼に飽きず引締るやうな列べ方がしてある、もしこれから覽展會などを開くならば、どの學校はどれだけの面積が當嵌めてあるか、どの方面にはどれだけ、それを入れる箱、或は臺であるとか、其所はどういふ風になつて居るかを能く調べて、入合せて此所は都合好く出品を促す、出品をする方も能く事實を調べて、さうして其所に納まりが付いて、見て見悪くないやうな風に經營することが必要であらうと思ふ、所が小學校生徒の教育品展覧會をしたから審査をせよと私共委員に選まれますけれども、行つて見ると所狭きまでに一ぱい詰込んで居る所がある、それを見ても實は餘りゴタ／＼して居るから忌氣が起つて、見る氣が起らない、之は人に見て貰ふといふ考へて列べたのぢやない、唯其所に置いたといふに過ぎないのでありますから、それを一つ本式に物を列べるといふやうな考へにしたらどうかと思ふ、殊に繪の製作品などを見ると、其の繪が記憶から書いたのであるか、或は寫生であるか、或は臨書でやつたのであるか、それとも圖案でしたのであるか、どういふ風にして書いたのであるか

一向分らぬ製作品は審査をせよといはれて殆ど困つて仕舞ふ、歐羅巴から來る製作物は乞度説明がしてあります、之は何歳の子供の書いたとか、生徒が記憶から描いたのであるとか、之は生徒が寫生して來て何時間掛つて何度目であるとか、之はどんな風にして製作をやつたとか、此の製作物はどうした、此の學校ではどういふ方法で繪を教へて居るから、其の方法でやつたといふ事が分つて、此の製作は上出來である、或は出來が悪いと始めて判断が付く、此の學校の此の教授は進んで居るから、此の成績が擧つたといふ事が分つて、始めて審査が出来る、是は寫生したのか、或は生徒が敷寫しにして描いたのであるか、どうした繪かサツパリ分らない製作では吾々審査をしようといつても出來はせぬ、さういふ展覧會へ出品するといふ事に付いては、出す方も考へもない、列べる方も唯出して下さいといふ事ばかりであるから、それで展覧會へ行つて見ると、唯ゴチャ／＼實に勸工場的に一ぱいで物が列び切らぬので、無暗に二重三重にもなつて、其の儘出して置けばそれで言譯が立つといつたやうなやり方があります、小學校先生の展覧會を見る事は御免だといふ人が多いのは面白くないからである、それは展覧會の如きは飾り列べて、裝飾を施し、其所に餘興もあり、飲食店もあつて人を引付ける、肩の凝らぬやう慰みになつて智識を普及するやうにやつて居る、それは専門家でないと行かない、所が先生方のやるのは何でも爲になるやうな事をといふので、却つて態張り過ぎて物を澤山列べて、餘り有益であるから見るものが面白くない、餘り有益過ぎるからである、通俗教育會、展覧會

などは成るだけ有益でない方が宜い、餘り有益にして説明も細かく書いてあつて、餘り慾張つて色々な物を列べ、餘計智識を興へようとするから二間か三間見たゞけて疲れて仕舞ふ、二時間か三時間で大体の智識を興へ、深き印象を興へ、心持ち好くお客を歸さうといふには、さう慾張つたつて仕様が無い、細かく説明してもそれは讀まない、列べ方、順序なども、人が感心するやうにアツサリと列べて理解の行くやうに列べる、其所にはウンと裝飾を施し、金魚鉢の一つも置いて、蓄音機、樂隊を置き女生徒に唱歌の一つも唄はして見たり、庭には電燈でも點けて、ロハ臺を置いて、團子屋、鮎屋でもあつて、一人前五錢か八錢で茶が呑めるやうにしてあると、いつもと違つて今度は大變に面白い、又今度學校であつたならばお知らせよと親が子供に注文するやうになる、さうして目的を達する、私はさういふ風にやりたいと思ふ餘り爲になる有益の事ばかり考へると肩が凝る、それよりも同じ物を見せまするに付いても、博覽會のやうに矢張り其所には餘興もあり、娛樂もある、裝飾も施してある、背景や裝飾にも十分注意をして行く、肩の凝らぬやうにして行くといふことが必要であらうと思ふ、先刻御話をしたやうに列べる物は實物、大きな物は模型にする、模型といへば小田原に一つの博物館を造るとすれば、昔の小田原城の位置を調べ、或は古本を調べ、さうしてそれを縮尺して小田原の城廓を模型に造り、それを箱へ入れて列べ、其の周圍は油繪にでもして現はす、大きい物は小さい模型にする、小さい物は大きい模型にして見せる、斯ういつたやうに、どうしても標本、模型が必要であ

る、モウ一つ大切なのは繪で、殊に物の出来る順序などを見せる、原料の出来る順序、それから物の出来る有様、工場の模様などを見せる、それを背景の繪に使つてやる、それに簡単な説明を加へ、數字を示す、或は實物、或は模型、それ〴〵適當に陳列して、寫眞を背景にするなり、繪を背景にする、それで陳列を完備して説明を加へる、常設の博物館はそれがありますが一時的の展覧會であれば買はないで済むといふ陳列が必要だと思ひます、それに説明を加へるならば成るべく大きな文字で、ちよつと見ても直ぐ分る様にする、其所に立留つて讀まなければ分らぬといつたやうなことであると、殆ど展覧の要はない、さういふものであると、見る氣は起らなくなる、人がザワ／＼居る中で讀めるものではない、又展覧會に行つて大變説明を聞く方がございますが、外國の常設的博物館あたりでは、説明の文字はゴシックといふやつで印刷をする、一枚〴〵其ゴシックの太い字で印刷してあるから、目が疲れない、こいつを右筆を揮つて太い所や細い所のある字で書いてあると、見る氣は起らない、説明に書く字は太い所も細い所も無い、繪のやうな字で書いて置くのが宜い、それで太い所や細い所の無いゴシックで印刷して置けば眼が疲れない、其位に文字にさへ注意をするのであります、況んや説明の文句などは無暗にガラ／＼書いて置くやうなことは禁物であります、随つて同じ原則で統計表といつたやうな物も昔は随分中に棒を引きましたり、或は線で表はしたり、色々やつて居りますが、近頃は段々統計表なども圖で表はすやうになりました、能く御覽の通り、世界に於て日本で持つて居

る船舶と英吉利のと比較をして見て、日本の船舶は此の位といふやうなことを舩て表はして、英吉利はその何倍大きさの噸數といふことを大きな辭を書いて表はすとかいふ風に、あゝいふ統計を表はしてあります、又兵力にしても日本の兵力を大砲の設備で小さく書けば、一方は大きな大砲で書く、日本は外國と較べて見るとこんなである、或はそれが段々斯ういふ風に年々進歩發達して來たといつたやうなことを繪て表はす、繪てちよつと見れば直ぐに分る、總て展覽會等で統計的、數字的のことを表はすものは、繪て表はすことが近頃歐羅巴のやり方である、此の上にもつと之が進んで、此の統計を模型とか、或は四角な木などの大きさを數量を表はします、例へば茶が是位消費されるならば、珈琲は是位消費されるといつたやうに、消費の額を物で見せる、其位にして成るべく人がそれを讀むのに立留つて讀まなければ分らぬといふやうなことでなく、直ぐに分るやうにして居る、人間が一日に吸込む酸素の量がどれだけといふことを具体的に見せるといふことが必要である、さういふやうな設備の標本、模型、それから繪、寫眞、そいつに持つて來て統計圖、或は統計の模型、それに適當の説明が附いて背景が付き、さうして裝飾が附いて始めて展覽會が完備するのであります、なか／＼むづかしい、それで諸君が郡で御催しになるときには、矢張り大体は博覽會通——博覽會屋が加はつてそれに視學、役所の吏員、小學校の繪の先生、手工の先生などに加はつて貰つて、さうして經營をするといふことであつたならば、私は必ず成功するだらうと思ひます、それをやつて御いてになる内に

應て小學校長、或は視學なんといふ人が博覽會通——博覽會屋になるだらうと思ふ、それまではどうも致方がない、尙ほ小さくても此の常設的のものを御作りになるといふことでありましたならば、常設であるが故にどうしてもそれを保存するといつたやうなことになるといふと、之はどうしても博物の先生、物理化學の先生が矢張りそれに加はるといふことが必要になつて來るだらうと思ひます、物の性質に依つて濕氣の場所を嫌ふ物があります、濕氣を嫌ふ物は棚の間に羅紗を貼るとか、その他餘程棚の構造にも注意しなければなりません、その他尙ほ黴の來ないやうにしなければならず、又物に依つては蟲が著くからナフタリンを利用するとか、或は乾燥するとか、十分に消毒をするとかいふやうに、物を適當に保存するといふやうなことは、どうしても之は理化の先生でなければならぬ、今の歴史品などにしても、鏝、兜の如き歴史的遺物を保存するには、歴史の先生ばかりではいけない、理化の先生を加へなければ、本當の保存は出來ない、鏝、兜の毛とか、絹絲を喰ひ、或は羅紗切を使つてあるから其等を喰ふ虫を防ぐやうにしなければならぬ、さういふ風に永久的に保存するには、どうしても理化の智識の有る先生を頼んで虫の害を防ぐとか、或は濕氣、或は黴の生えないやうにするに云つたやうなことは、どうしても或程度までは理化の智識がなければいけない、永久的といふことになりますると、之が極く大事なことでありま、斯ういふやうなことになりますといふと、大分事が専門に涉りますので、愈々何かの記念事業とかいふので、寄附金が有るとかいふ風に、金の出場が出

来たので新たに一つ常設館でも造つて見ようといふやうな運びになりましたならば、之はどうせ夫々調査委員が出来て、さうして常設館を經營して居る所に就いて、御研究になつた上でなければならぬかと思ひます、唯ださういふ函の構造から陳べること、色々其の保存をすること等、大分専門的の智識が要るので、一と通り研究が要る、之は誰でも歴史の先生であれば歴史的遺物の保存が山來るといふのではない、さう簡單なものではないといふ事を諸君が御承知になつて御分擔で愈御著手になるといふ時に、それ〴〵建築物といふものを新に造るとすればどうする、新らしく造る費用のない時はどういふ建物を利用する、尙それからしてそれに列べる物はどういふ方法で集めるか、さういふやうな時にはどういふ人達に依頼するか、常設的は常設的、臨時なれば臨時、それ〴〵御考へになるだらうと思ひますが、大体に於て私は眼を通し、場合に依つては……私のやつて居る博物館などでやつて居る通り理學の機械などはハンドルを廻して電氣試験をやつて見たり、或は電流の釘を押して見て機械を動かして見たりすることが出来るやうにしたいのであります、又顯微鏡があればそれに生きた昆虫を置いてそれに説明を書いて見せるやうにするも必要です、私の所では懸ては望遠鏡を据へて天の現象などを少し見せるやうにして見ようと思つて居ります、歐羅巴でも機械を使はれる博物館があるといふ事を段々聞いて居ります、さういふ譯でありますから、兎に角眼を通し手に訴へて、さうして各方面に智識を普及する、智識普及の方面に付ては先刻來色々方法等の事を御話申上げたのであります

すが、私は極く大体的のお話をしたに過ぎないのであります、歐羅巴では圖書館や講演といふ事もあるが、それ等に比して費用の點からいへば、二倍三倍四倍の澤山の費用を眼を通す通俗教育に掛けて居る、それで今後さういふ通俗教育施設に於て完備せしむるといふには、矢張り片手落のないやうに耳にばかり入れるばかりぢやない、本を通して教育するばかりぢやない、眼を通し場合に依つては手に訴へて、色々各方面の智識を普及して、學校教育の補習をやる、それが歐羅巴では通俗教育の重要な部分をなして居る、随つて今後我邦に於ても唯話をする、講演をする、或は圖書館を開館するといふ事、或は青年會などが經營する事、矢張りさういふやり方は通俗教育の中の重要な一つの要素であるといふ事を一つ諸君に御注意を願ふ事が出来たならば私の講演の目的は達せられたものと思ふのであります、一向順序も立ちませぬでしたが是で……。(拍手)

通俗教育心得の一斑

(其二)



通俗教育心得の一斑
(其二)



通俗教育心得の一斑 (其二)

(文責筆者に在り)

文部省囑託 久留島武彦君講演

午前に佐々木先生の誠に有益にして剴切なる通俗教育に關するお話がありました跡で最早私が通俗教育に付いて蛇足を添へる必要はあるまいと思ふ、私は佐々木先生のお話を假に前提として拜借しまして、此の實施手段の内の最も手つ取り早くして、最も效果の擧げ易いもの、一つである話方といふものに付いて今日は申述べて見たいと思ふ、話方と申しますと誰でも話の出來るもの、話して居るものである、啞又は吃にあらざる限りは話さる人といふものはないものである、所が今日まで人の前に立つて話すことの數を重ねた人の經驗する所にては、話して聽くものでないといふ事が多い、今更て話せば聽くと思つて居つた、所が話し始めて見ると、話して聽かない事の多いといふ事を發見する事が多い、何故聽かぬだらう、何故話して居るのに聽いて呉れないであらうかと思ふ疑ひが加はるに連れて、更に發見した事實は、之に全く反して、話さずして聽かせるといふ事實のある事であり、話さずして聽かず、話らずして聽く、何だか哲學めいたやうな話になります、事實は如何ともする事が出來ない、確かに語りて聽かざる結果多く、話らずして聽くものゝ少ないといふ事を考へて見ます

と、吾々は經濟上の原則として、勞少なくして其の効の多きものを求めなければならぬ、況んや通俗教育に於ての話方は、話す事を話して仕舞つたから目的に到達するのではない、話しの手段に依つて或る働きを起さしめなければならぬ、さうして其の働きが或る方面に導かれなければ役に立たないものである、彼の講談師落語家といふやうな連中は、話しさへすれば宜いのである、話して仕舞へば、それを使はうが、捨てようが、それは問ふ所ではない、話の間に相手の者が黙つて居つて呉れさへすれば宜い、もう一つ進んで彼は話す間に聽いて呉れなくとも、話を聽かうとして來て呉れれば宜い、もう少し極端に約言すれば、來ずとも話を聽く爲に金を拂つて呉れればそれで澤山だ、吾々は是で満足することは出来ない、聽いたことを實際に働かせて、それが何等か成績を擧げ得るといふことにまで及ばなければ、吾々の話を聽いても何も役に立たぬ、目的を達したといふものではない、是に於て益々吾々の話方といふものは、餘ほど之に對する準備、之に對して聽くといふ者も、餘ほど今迄の話方に對する考を改めて掛らなければならぬと思ふ、私は假りに初めに反へりまして、話さずして聽く語りて聽かないといふのはどういふことであるかといふことを、茲に實際的に少し御話をしてみたいと思ひます、今私が此所に『人格と品位』といふやうな演題を掲げて置く、或は『人格と修養』でも宜しい、兎に角人格問題といふやうな問題を掲げて置く、久留島といふ男の是から人格問題に關する演説を聽いてやらう、あなた方が斯う考へて居る、其の時に私が彼所から渡つて來る時に、あの校堂

の入口の石壇に不覺悟にも躓いて將さに倒れんとして二つ三つ浪を打たせて、やつと腰掛けて此の身體を支へ漸くにして態度を執直して、あれから斯う這入つて來た、あなた方の眼に其の姿が映じた時にあなた方は此の演題を見てどう考へられるか、私が壇に登つて人格と修養、人は常に魂を臍下に置いて、又如何なる所にも沈着、悠揚として迫らざる覺悟を持たなければならぬ、と假りに説いた場合に其の躓いたことを見た人は、イヤ、先刻講師はあの入口ぢや魂を何所に下げて居つたか、沈着にして泰山前に崩るゝとも、江河後へに決するとも、ピクとも動かない覺悟を吾々は要するという場合に、此のことを聽いた諸君は、さう人に説く人が、何故自分が先きに氣を付けないか、私が説いて精はしければ精はしいほど、諸君は馬鹿々々しい、人格と修養を人に説く所の御自分だつてと斯ういふやうになる、説いて十分であればあるほど、十二分であればあるほど、諸君は之を割引して聽くてありませう、私が説いて精はしければ精しいほど、結果は反對になるのであります、假りに彼所に躓かず、先づ素直に此所へ這入つて私が腰掛けに着いて、愈々是から此の御話を致さうといふ時に、能く講師のやる癖であります、ハンカチーフを出してファン、ファン、ファンといふやうな調子で鼻をかむ、さうして此所へ納れて私が斯う話を始めようとして、諸君に一禮をして首を擧げた時に、諸君が不意と認めるものは、尾籠の話でありませうが髯の先きに固まりがくつ著いて居る、私が人格と品位、顔を澄ませば澄ますほどおかし、眞面目に説けば説くほど、聽く人には其の鼻の先きがどうも邪魔だ、

あれを先きに片附けた方が宜さそうだ、真面目に私が十二分に説けば説くほど、諸君は廊下を出た時に、イヤア、今日の品位にや參らされた、説いて聽かせる結果よりも、更に反對の効果があるといふことは是でも分る、又之に類したことで、唯今は亡くなられた伊藤公爵牡丹公の艶名を屢々新聞に傳へられた彼の牡丹公が「婦人道徳の頹敗を慨く」といふ演題を此所に掲げて、それで諸君を集めたとして、諸君は聴きになりませうか、東西古今の例を引き、婦人の操、男子の義務、社會道徳の頹敗とか、色々語つて精はしければ精はしいほど、語れば聴くといふことが確かにあるならば、諸君は聴いて居らなければならぬとして、語つて精はしければ精しいほど、諸君は何んだそれほど知つて居るならば、少し艶名を割引なすつたらどうであるか、語つたのと其の結果と全く反對になつて仕舞つて居る然るに茲に三宅雪嶺先生が「東西哲學の合一點」といふやうな題を掲げ、山路愛山が「足利時代の歴史に就て」といふやうな題を掲げて置く、吾々はもう聴かずして聴いたやうな心持をして居る、其の語る所吃々として誠に聴き悪い三宅先生の言葉でも、其の語る所誠に拳骨で以て人の胸に押込むやうな、非常に疲れるやうな言葉を吐かれる愛山君の説でも、吾々は自然に解け込むやうにして聴いて居る、極く語る所が短かゝらうとも、吾々の頭に残る點は永久に残つて往くのであります、能く學校に居る時代に吾々が實驗することでありませう、同じ寄宿舎に机を列べて、隣の者が話をして居るのをこちらで聴いて居る、頻りに隣の者が話して居る時に不意と聴かざることがあります、エ、と聴き直

ず、何に貴様聴いて居なかつたか、イヤ、聴いて居つたが分らぬ、今貴様聴いて居たぢやないか、ウムちよい／＼他の事を考へてたから何をいつたか分らなかつた、といふやうなことが能くあることとあります、語つて聴くものであるならば聴くべきである、或は釣鐘堂の下に鍬を執つて畑を耕して居る親父が、鐘が鳴つたら晝飯に行かうとして居た、所が遙か向ふの山の麓で娘が「お父さん今鐘が鳴つたから歸らう、頭の上で鐘が先刻から鳴つて居るぢやないかエ」「ヤァー、さうか、お前の方へ聞えて、俺にどうして聞えなかつたらう」釣鐘は聞かすべく語つて居る、然るに其の下に居る者は聞いて居らずして、其の遠くに居る者が聞いて居るといふことは、如何に吾々は語つて聞かざる境遇が聴く者にあるに反して、聴く者が其の距離、時間、或は其の他の事情をも超越して、語らざるに聴くといふ事實のあることも御分りであらうと思ひます、此の點から考へて此の話方なるものを述べて見たいと思ふ、今日まで多くの人が、話方とは如何に語るべきか、先づ其の語るに用ふる所の聲、如何に聲を扱ふべきか、其の語るに使ふ所の道具、如何に態度を注意すべきか、語る所の材料、如何に其の組立を注意すべきか、どういふ所から材料を採つて來たら宜いか、どんな工合に組立つたら宜いか、といふ事を研究される人は多くして、如何に聴くべきか、如何に聴く者の心を捉まへて置いて、聴かせるやうにすべきか、といふ事を更に考へる人はない、今日まで澤山出て居る雄辯術を貴下方御讀みになつても、如何に多く語るべきか、如何に與ふべきか、といふ事を説いてあるので、如何に聴くべき

か、如何に聴かすべきか、聴く方の側からは説いてゐない、之は私は如何に其の術に委しく、其の事に洗練しても、到底語り得ない、與へ得ない原因ではないかと思ふ、此の點に付いて如何に先輩が苦辛して居るといふ事に付いて、私は彼の慶應義塾の三田の演説會、福澤先生が明治の早き時代にお立てになつた彼の演説會を屢々参聴いたしました、其の演説會に行つて福澤先生の話を聴く度毎に何故あゝいふ事をされるだらうと疑つて居つた、今日始めて自分は思ひ當る、人前に立つて多數の人に語るべく自分が仕事を執るやうになつて始めて思ひ當つた事でありすが、それは福澤先生が何日も語る前に決まつた動作をされる事である、三田の演説會は今慶應義塾内に講堂として立つて居ります、其の講堂とは違ひまして至つて小さい本造の床張り家屋であります、或は此の内に御覽になつた方もあらうと思ひます、其の演説會で或る場合に慶應義塾大學の教授五六人の方が話された、其の仕舞ひに小幡篤次郎先生が立たれて、それから福澤先生が立たれた、所が五六人の話を聴いて小幡先生の時には聴く方も身體は疲れ氣も餓えて居る、其所へ小幡先生が強い高い聲であればまだ宜いが極く刺撃の鈍い、間延びのした聲でやられる、大概の者はウンザリして仕舞ふ、塾の先輩で敬意を拂はなければならぬが、モウ好い加減に助けて貰ひたいものだといふやうにウンザリした顔になつて居る、暫く經つて篤次郎先生の御話が仕舞ひになると皆ワァーッと聲を揚げる、之は感謝で發した聲ではない、助かつたといふ内心の發露から自から出て来る、身體はウンと伸びる、バタ／＼板張りの

床は盛んに踏鳴らして便所に立つ、窓を開ける、伸びをする、隣りと語る、千差萬態混雜する、其所へ福澤先生が出て來られる、其の時に何時でも決まつた一つの型がある、其の型はどういふ事かと申しますると、演壇の後方左右に控席がありますが、聴衆からいへば向つて右の方に控席がある、奥に何時でも福澤先生が居られる、小幡先生が戸を開けて這入つて行く姿を見ると同時に、其の奥に火にあたつて居る福澤先生の後ろ姿が見える、小幡先生が這入つて行つて御挨拶をなさる、福澤先生がどうも御苦勞でありましたといふやうな調子に吾々は察せられる時に、此の福澤先生がやをら手をついて立上られる、何時でも福澤先生は其の時羽織を着て居らつしやらない、後ろの壁に掛けた羽織を取ると共に、それを大きく肩に掛けながら演壇にソロ／＼出て來られる、聴衆を少しも見て居らない、悠然と斯う肩に引掛けながら靜かに右の手を通す、左の手を通す、さうして兩方の袖先を揃へたと思ふと手を胸の所へ持つて行かれて羽織の紐を揃へてズツと前へ出して二つ廻して結んで見て結び様が悪いと又知らぬ顔をして解いて又廻して結んだがと思ふと兩袖口を合して襟元を揃へて、悠々として之を繰返される、それから演壇の前に來られる頃には兩手を組んで居たのを解いて、右の手で顔をソロ／＼撫て始める、『何か今日は語らなければならぬと思ふが、モウ年を老つて言ふ事も無くなつた、何といふ考へも纏まらぬが……』顔を撫て廻してクド／＼いつて居られるが聴えない、先刻から混雜した場内が鎮まらないから、シイ／＼と耳を擡てる遠くにも、側でも聴えない、此の間に話

が分らないから演壇に近付いて来る、委細構はず『年寄りもモウ斯ういふ所で……』話が聴えないから、シイ／＼シイ／＼場内が鎮まつた時に、『扱諸君、今日は一つ修身要領といふものを話さう』それから話し始める、其の前を聴いて居つたならば決して出鱈目ではない、それは聴き損くやつても損にもならない、何時でもそれを繰返されるので、私は妙な癖があつたものだ、羽織を着て居られたらば宜さうなものだ、而も火鉢にあたる頃でありますから、何故あゝいふやうに羽織を着ずに居られるのかと疑つたのであります、是は語つて聴くといふものではなくして、聴く者の心此所にあらずれば話して聴かず語つて聴かせる事は出来ないといふ爲に、あの如き大先生までが先づ語るより先きに聴かせる所の準備を採られて居つたのであつて、所謂聴くべき心を已れに集注させる、其の準備作業が常に羽織に依つて爲されたものであつたと私は解釋して居りましたが、それが如何にも自然であつて、どんなに場内がザツ立つて居りましても、丈六尺に近ひ大男の先生が羽織を引掛けて両手を伸ばされば、矢張り此の幅が六尺でありますから、六尺平方の間の大きいものが動く、之はどんなに場内が混雜して居つても聴衆の眼には見えるので、正面に六尺平方の物が動いて出て来る、聴く方は身體が疲れて居りながら、ア、先生が羽織を着たなといふ事が眼に映ると同時に、自然の順序として右の手を通される續いて左の手を通して、左の手を通したと思ふと、自然の順序として羽織の紐を結ぶ、ア、伸ばした、巻いた、引張つたいけなかつたと見えて又伸ばした、斯うなつて行きますと、

今まで乱れに乱れて居つた注意が六尺から三尺に縮まつて、さうして之が胸の所に來れば先づ二尺から遂には五寸三寸となつて来る、ア、又伸ばした、廻して引張る、之だけやる間に場内全體の視線といふものは六尺かち四尺三尺二尺五寸、三分と縮まつて来る、そこでまだ幾らか散つて居るものがあるから、襟を合せて顔を撫てる、何か話すだらうと思つて居ると、顔を撫てながら何かクド／＼いつて居る、聴えないから聴かうとして耳を聳てる、そこで『扱修身要領は……』私はいつてもハ、ア又やられるなと思つた、是程までに私共が準備を貌に於て一々するといふことは、どなたもやるのぢやない、併し心持は先づ聴かしむる、心持にして置くといふ準備作業が必要であります、岸邊福雄といふ人がある、此の人は現に生きて居りまして、彼方此方へ講演に出て居られる御方であります、あなた方か御遇ひになる御方もありませう、此の方は多數の子供の會合、殊に新しき會合に臨んだ場合にやる一つの癖がある、之は矢張り福澤先生と同じことで、如何にあゝいふ人が苦心するかといふことをあなた方が覚えて下さりさへすれば宜しい、ずつと控席から此のテーブルの所へ來るまで顔を見ないさうして徐ろにポケットのハンケチを探し始める、私は初めは何かと思つた、必ず出て來る時には澄して出て來て、そこら中を探し廻す岸邊さんが來たなど、斯う思つて見て居る内に、斯うして探すから何を探すのだらう、何を探すか知らん、手が腰に行けば視線が腰に行く、手が胸にあると又視線が胸に行く、或は首の邊りに行けば首の邊りに集る……ひよいつと斯う此所へ手を入れてハンケチを

出して口邊を拭ふ、さうして見て居る子供の方では、何を先生は探して居るだらうと思ふ内に、ひよ
いと出して斯うやる、ア、見附かつたなと思ふと鼻をかんで、それから悠々話し始める、其の間に
すつかり捉まへられて仕舞ふ、之が所謂聴かしむる準備であります、もう一つ此の聴かしむる準備の
例があります、和田垣謙三先生のことです、先生は聴かしむる準備として大芝居をやります、講師と
して演壇に立つた時に甚だ不行儀の先生です、斯様に申しては叱られるかも知れませぬが、非常に不
行儀で、腰掛けて脚を組む、投げ出す、後ろで頭を抱へる、頬杖を突く、色々の態度をする、其の爲
に和田垣先生が見えたといつて、内心敬意を拂つて居る人も、あの不様はといふことがある、そこで
演壇に登る時、暫く初めに注意を向けしむるやうに、和田垣先生の聴かしむべき準備作業として、色
々始めるですが、先づ演壇の此所へ自分が始めて来る、さうすると下から斯う登るのに自分の演題を、
見ながら登つて来る「ア、成る程、我輩のは此の演題か、エ、今日は何か我輩も話さなければならぬ
が、幹事諸君の御需めに依つて斯う題はして置いたけれども、まア何か思ひ付きを話さう、斯う言つ
て置いたが、ハ、ア、成るほど幹事も旨い題を考へました、こいつはえらいナ、我輩はどうか考へた
いけれども、斯うして居る内に考へ出せば宜いが、考へ出さなければ、諸君も迷惑、我輩も立ちぐら
みだが、成るほど之は、エ、借、何といふ話に之を捏ち上げたら宜いカナ、是は餘ほど今日は苦心
慘憺だ」と言つて歩き始める、さうして時々此の演題を見る、さうすると聴衆は、ハ、ナ、先生はあ

の題は始めて見たのか、さうして見るとあの題に付いて是から歩く間に考へ出すのか、さうすると和
田垣先生が斯うして居ると、聴衆まで釣られて先生の尻を追掛けて行く、それでさういふ風にして動
く間に何時か全體の聴衆は、何を考へられるだらう、何といふだらう、斯う思つて追掛けて来た時に
「借、此所て我輩の今思ひ付きを話させう」といつて話し出す、其の話は決して準備のない話ぢやない
滔々として一時間から二時間に涉つて大きな話をされる、私共は後から、ア、又和田垣先生に釣込
まれたナと思ふことがある、是などはあゝいふ人達が如何に苦心して聴かせるか、語るよりも先づ聴
く者にこちらが支度をさせるといふことであります、之は態度ばかりではない、聲に付ても矢張り斯
ういふことを先生達はやつて居る、年々十一月京都へ参りますといふと、本願寺の法主の御親教があ
る、其の御親教の時に法主が壇を御降りになるといふと「活佛様が御降りになつた」といふので随喜渴
仰の善男善女何萬人が掌を合せて異口同音に南無阿彌陀佛南無阿彌陀佛と唱へる、其の聲は場内殆ど
潮の湧いたやうな騒ぎでワツ／＼ワツ／＼と聞える、其の直ぐ後へ登つて本願寺の役僧が敷衍をする
のです、「唯今法主親下の御親教あらせられたる所は一同有難く聴聞したのであらう」といふ言葉を前
にして、それから後に法主親下の御親教は是々斯ういふことであるといふ、此の解釋で始めて本當の
説教となる、所が如何なる役僧が登つても、法主が御降りになつた後の四五分間といふものは、何人
も話して聴かせ得るものではない、殊に活佛様から御言葉を賜つた、有難い／＼といふので、夢中に

なつて、南无阿彌陀佛と唱へて居る後へ役僧が登つた所で、聲の波に押込められて到底分るものではないのですが、其の間に渥美契縁といふ一人の坊さん、加賀の小松の坊さんでありまして、本願寺の四天王と言はれた一人であります、此の渥美契縁といふ坊さんだけ唯一人聴かせ得た、一番初めの初語の言葉から聴かせ得た、本願寺の役僧等もどうして渥美ばかり初めから能く鎮まり返つて聴かせられるか、あの男は大聲ではあるがあの男の聲ばかり聞えるといふのは不思議ぢやといふのであつた、契縁先生はいつでも、イヤ、之には口傳があるとは言はなかつたが、之を唯一人御子息である、渥美契法といふ人、矢張り加賀の小松の本願寺の住職をされて居る、其の方が話されたが、それは何でも無い、唯今法主猊下の御親教あらせられたことは一同有難く聴聞したであらう、といふ、其の唯今といふ始めの『唯今』といふことを、卒然として言うたからといつて、聴取れるものではない、そこで唯今の『唯』を『ターダー』といふやうに大きく長く引張つて、此の聲と唱名の聲と競争をする、ターダー、ターダー、といふ風に長く引張つて、法主猊下の御親教あらせられたことは、一同有難く聴聞したであらうと、ターダーをやられる、口を開けて居られるから何か言つてるなと思ふです、アーといふ聲が耳に這入る、其の中に何か役僧の御敷行があるだらうと思ふ、皆其の波の鎮まらない間はターダーをやつて居る、それで稍々鎮まつた頃、『今法主猊下の御親教あらせられたことは』といふから、もう鎮まつた時はずつと其の儘低い聲でも分る、何でも無いことだが、之を當り前の鎮まつて

居る席でターターター、法主猊下をやつたらばおかしなものでありますが、併し人が騒立ち注意の乱れて居る時に、其所に之を纏めて一つの注意の焦點に持つて來るといふ事に付いては、殊に準備作業が必要であるのであります、即ち聴かせる働きといふものを先づ採らなければならぬ、此の聴かせるといふ事は、言葉を換へて言ひますれば、聴く者の注意を纏めるといふ事に外ならないのであります、之が今日私が各方面を廻つて見ますると、小學校の校長先生に此の御考へをお持ちになる方の少ないのに殊に驚く、之を事實に見ますると、能く式日などに農村でも都會でもありまするが、一體此の名譽職といふお方は時間を構はぬものか、或は時間がお分りにならぬものか、時間外にお出懸けなさる事が多い、併しこの名譽職が御列席下さらないと學校は甚だ不面目であるとして、それを待つて居る、見えたら校長室へ案内せよといふので、校長は首席訓導に場内の整理を命じて置く、場内には生徒は集まり、職員は腰を掛け、來賓の大部分は席に著いた、大分時も経つたから、モウ宜からうと首席訓導が校長室へ行き『如何でございます、皆場内は整ひましたか……』「ア、さうか、まだ見えなけれどもまあ宜いや始めて居よう」といふやうな調子で、校長は出掛ける、其の姿が雨天體操場を横切つて來るのが場内に知れて、生徒は校長が見えると注意が皆校長に行く、校長は椅子に著く注意は校長の椅子に集まる、茲で校長は壇に登るならば、其の時から言葉を出し得るものであります話し得るものであります、然るに校長は注意を自分が受けて居るといふ時に、甚だ不注意と見えまし

て椅子に腰を掛ける、後ろに職員が列ぶ、所へ向ふへ名譽職が來られたといふと倉皇としてそれを迎へに行く、其の間に子供はア、先生は立つて行くのか、まだ始まらないのか、與へて居る注意も大部分は引戻されて、今度校長が腰を掛けても一度散らした注意は元の如く校長に依つては纏まり得ない漸く茲で校長は名譽職も揃つたので鈕を掛けて此の壇に登ると、全體が今まで校長の不注意なる、不謹慎なる動作に依つて乱れて居りますから、ガヤ／＼話して居る、校長は此所に登つた時に其の天罰を即座に受けるので、壇に立つた時に全體が鎮まらな、仕方がないから前の子供を睨む、前の子供は自分の頭の上に校長の眼が光るから黙つて固まる、さうすると今度は後ろの方をウームと睨み始める、中々此の眼力が後ろへ届くといふ事は容易な事ぢやない、漸つと届いたと思ふと、前の方が待ち草臥れて徒らを始める、ガヤ／＼する、前を鎮めれば後ろが乱れる、到頭校長は立往生、それでもガヤ／＼する、見るに見兼ねて首席訓導がポケットから笛を出してピーツとやると、さうすると場内が鎮定して仕舞ふ、私は六尺格かの校長の威嚴は埃だらげの首席訓導のポケットの笛の下だと思ふ之は甚だ校長各位の尊嚴を冒瀆するやうであります、農村などへ參りますれば斯ういふ事を見る私は實にお氣の毒だ、其の罪何れにありやといふに、自分にどの位の注意が向つて居る聴くべく求むべく如何に子供の心が自分に向つて居る、之を捉まへて放さずに壇に登つたならば、其の時から話し得るのであります、自分が故意に其の注意を亂さして居る爲に、此所に立つて愈々作業を始めようと

いふ時になると、再び其の注意を纏めて始めてそれから聴かすべき作業に掛からなければいけないといふ事が校長自から非常なるジレンマに掛かる所以であります、之に付いて考へて見ると、如何に語るかといふ事の苦辛よりも、如何に聴かせるかといふ事を苦辛する必要があると思ふ、之が第一此聴かせると云ふ準備であります、之に付いて私は明日其の場所、其の時間、其の前後の関係、廊下と場内の関係、光線、空氣といふものに付いて巨細に申述べて見たいと思ひます、今日は先づ概論としまして是を第一として置きます。

第二は聴かしむべき注意を纏める言葉であります、兎に角聴かす心が此所に定まつたならば、吾々が何て聴かするかといへば言葉を使ふのであります、所か日本にはどうも言葉の数が少ないと英語學者は言うて居る、英語を翻譯しても適當の言葉がない、それが爲め今日の進んで居る思想を言ひ現はすに困つて居る、吾々農村に這入つて彼の老翁老嫗に能く分るやうに説くのに第一言葉がない、不自由で言葉が足りない、それが爲めにどうも彼等に分り悪いといひますが、之は私は不穿鑿の甚だしいものだと思ふ、我が邦はことたま(言靈)の幸延ぶ國、ことたま(言靈)の助ける國であるといふ事は徳川家の最も語らざるを徳とする御時世にも、言靈の學といふ學問までありましたので分ります、特に研究して出された書籍も澤山残つて居るのであります、言葉の種類の如きも時、所、位に依つて違ひが澤山ございます、あなたといふ言葉、汝といふ言葉、皆言ふ所が違ふ、英語で言ひますと、ユー、

それは貴族に對し、やんどとなき方に對し奉つてもユー、ハイネス總て跡に付く言葉がありますが、根本はユーといふ言葉であります、然るに我が邦は言葉の幸延ぶ國で、言葉の種類が多い、英語のユー、汝、おん前、おん許、御身、そもじ、そなた、上様、上、君、あなた、お前さん、われ、貴様、うぬ、と言ふやうなことがあります、故に随分「おもと」がといふ女に對する言葉を男に對して、而かも英雄同士互に初對面の時に「おもと」といつたら如何でありますや、況んやそれを「あなた」がと言つたのを「うぬ」がと答へたらば、如何なる者でも禮を知らざる者と驚きませう、言葉を選択し、其の場合に應じて使はなければならぬ、「死ぬ」は總て物の終りなりといふ、其の死ぬるといふ言葉も随分多い、崩御、薨去、卒去、逝去といふやうに、漢字崩しは別と致しても、「おかくれ」なされた「おはて」なされた「おしに」なすつた「まいつた」、「くたばつた」、「ごねた」、「うつた」、「さつた」、色々あります、其の色々ある中に、まア普通死んだて済むかと思ふと、魚などは死んだといふものぢやない、何といふかと思つて見ると、魚は「あがつた」といふ、此の「あがつた」といふことはあゝいふものに對しては皆使ふかといふと、鳥は「あがつた」とは言はない、鳥は「ちちた」といふ、「あがつた」と「ちちた」では全く反對の言葉である、死ぬるといふ言葉だけでも斯く言葉といふものは非常に多い、此の多い言葉の幸延ぶ國に生れ合せた吾々が、何故言葉を使ふのに是ほど苦しむかといふと、實に之は封建の遺習、六百年間の習慣であります、世は戰國と乱れに乱れ、父子相信することが出來ず、夫婦相依る

ことが出來ず、殊に此の元龜天正時代の如きは、政略結婚に依つて敵から娘を貰ひ、人質同様に此方から彼方に妻を送る、或は又其の家名を保存せむが爲めに、父は源氏の手へ付き、子供は平家の幕下となるといふやうに、互に別れた爲めに、一家親族互に相信することが出來ず、人を見たら盜賊と思へどころぢやない、人を見たら敵と思へといふ譯で、氣が緩るせないといふので、之は黙つて居るに限るといふやうになつて、愈々沈黙といふことが必要になつて來て、終には壁に耳ありて、活きた者が聽いた時分に裏切りをするばかりではない、死物である壁にまで耳がある様になつたから終には人の居らぬ所で自分を現はすことが出來ず、現はす言葉があるのに一番現はすに簡便である皮膚、或は筋肉神経といふやうな五體の中の一部に現はすことすらも注意しろ、結局何所まで修養を重ねる必要があつたかといふと、君子は容貌愚なるが如し、ドロンとして彼奴は活きてゐるのか死んでゐるのか分らぬ、分つてゐるのか分つてないのか分らぬ、人の心を看破らうとするので、心を見られまいとして、所謂壁に耳ある世の中——部屋の中ほど自分の精神を發表すべき最良なるものはないが、之を包んで結局魂の的と言はれた目まで艶を失ひ、光を隠して、さうして結局君子は容貌愚なるが如し、是に於て吾々は過去六七百年の間語らぬやう、發表せざるやうにした、此の修練が吾々をして非常に沈黙の徳を如何に善く語つたか、それが雄辯となつて、所謂雄辯は銀なり、沈黙は金なりといふやうな結論にまで至つた、之が急に皆さん方の、自己發表、殊に今日の世の中に團體的競争といふものを社會競

争の基礎として、一人を保存せむが爲めに——守らむが爲めに守るのでは敵はない、所謂守勢防禦を執らなければ、逆も一人すら安んじて守ることは出来ない、それで己れの確信する人をも……己れの信ずる所を守らなければならぬ時勢になつて来て、急激に吾々が此の六七百年以前に逆らつて働らかうとしたら、吾々の働は頗る困難でありますが、併し自體我國民は此の困難なることでありながら、吾々の使ふ武器といふもの、言葉は非常に潤澤なるものでありますから、之を吾々は聊か研究し洗練して使ふといふならば、如何なる言葉でもないとは私は言へないと思ふ、然るに多くの學校職員諸君は、其の言葉を扱ふことが御職分であるに拘らず、子供に御話なさる言葉すら、自己が與へられ、自己が教へられたる、言葉を使はれない、殊に尋常一年の子供に皆さんが『注意しろ』といふ、此の『注意』といふことが尋常一年の讀本の何所にあります、今日御出になつてお伽噺をして下さる方は日本で雷名を轟かした巖谷先生ですなどといふことがあるが、此の『雷名』などいふ言葉は何時御教へになつたか、『諸君は謹聴しなければならぬ』などいふやうな、一も與へざる言葉、教へざる言葉を子供の前で平氣で語りながら、それが何故分らぬだらう、何故聞かないだらう、斯かることは畢竟不穿鑿の致す所、不準備の致す所、先づ與へようといふことを考へるよりは、如何に使へるであらうか、どの程度まで使ひ得るか、此の事を先きに考へることが話し方の秘訣でありまして、所謂話し方——話すといふことを研究するよりも、如何に聴かせべきか、加藤末吉君の教壇上の教師、教室の児童と

いふ両方に書いて居ると思ひますが、教へ上手たらんよりは、習はせ上手たれといふ言葉は之でございます、話上手たらんより聴かせ上手たれといふが必要で、併し斯ういふことを言つて居りましては、際限ないことでありますから、今十分休憩を致しまして、次の時間に更に如何に語るべきか、如何に人の前に立つべきか、如何にしたならば其の聴かうと思ふ注意を乱さずに聴かせ得るかといふことを成るだけ具體的に申上げて見たいと思ひます。(休憩)

言葉に付いては何れ改めまして明日聲と言葉、更に聲と呼吸といふ問題に付いて申上げようと思ひますが、今は態度、身體の働さといふのを申上げて見たい、能く御研究なさる方は私の許へ御出てになりまして、演壇に立つのに何所に立つたら宜いか、第一手はどういふ工合にしたら宜いだらう、例へばテーブルの真ん中に立つて手を其の上に載せべきか、或はテーブルの左に立つて片手だけを置くべきか、それとも前に腕を組むべきかといふやうな色々な問題を出されて、此の手が如何にも邪魔物のやうに御話を伺ひます事が多い、所が事實又演壇に立つ人の手を見ると如何にも手が邪魔のやうに扱はれる、登つたと思ふと、腕を組む、外しては腰に當てる、ポケットへ入れる、始終手は不安の状態にある、あの手が無かつたならば、あの人は安心して話せるではないかと思ふ位大變兩手が荷厄介になり、結局此の手を片付けて仕舞うて、両方の手を後ろへやらう、之でホツと息を吐かれるやうな人がある、小學校の先生に殊に此の態度が多い、女子師範の卒業生などは良い事と心得て両方の手を後

ろに取つて教場に立つたり、歩んで居る、是程無禮の態度はないのであります、女であつても無禮である両方の手を後ろへ取る事は目下に對して話す時、或は二時間以上演壇に立つた後に始めて許される態度でありまして、決して始めから両手を後ろへ片付けて休む態度を取るべきではない、之は一つの禮式であります、休むために手を後ろへ取つてはいけない、結局手のやり場に困つて片付けて仕舞ふたのであります、更に又手を色々に使ふとどうも見苦しい、品位が落ちるやうで、色々に手を振上げる者があり、突出す者があり、或は輪をかくものがあり、色々に手を使はれるが、此の手を態度に使ふと品格がない藝人のやうだ、それでどうかして此の手を使はずに話す工夫はなからうかといふ事を御考へなさる方がある、併し私は折角神から賜はつて居ります二本の手を使はずに置くといふ事は、實に不經濟の甚だしいものである、而も之が少し動くとき動かぬとに依つてどの位容易く言葉を助けるか、意味を徹底させるかといふ事を考へて見ますと、此の手を働かせないのは損である、併しどの位に働かすべきか、要點は品位を悪くせずどの位に使ふか、此所に一つの問題があります、手を動かす事がそれ程品位に關係するか、人が演壇に立つた時に、手を動かせば藝人の態度に見えるか、或は一向關係がないかといふ問題であります、此所では態度を二つに區分して見たいと思ふ、それは腰より上と腰から下であります、時間が少なうございますから成るだけ要點のみを申し上げます、思ひますが、腰より上の手や身體を如何に使つても之は決して見苦しく見えるものではない、品位を墜

すものではない、品位を墜し下作に見えるのは腰から下を動かした時であります、是から後貴下方が演壇に立つた人を少し御注意なすつて、目を御注げになると直ぐ分るものであります、腰から上を幾ら動かさずウムと極めて居られても、腰から下を始終動かして、足の踏み立て所が始終定まらない様では如何に強い話をして、聽いて居る者の頭に響く事が弱い、危なげな話になり易いのであります、可笑しく見える事、弱く見える事、危なげに感ずる事は、腰から上の態度ではなくして、腰から下の態度であるといふ事を御考へ願ひたい、先程度應義塾の話で考へた事ですが、鎌田塾頭は極めて背の高い人で、あの人は常に演壇に依り掛つて話をされる、多くテーブルの横であります、テーブルに凭り掛ると足が長いから横に足を延べなければいけない、此の足が色々に動く故に非常に強い意味の言葉を言はれて居るが、感じは非常に弱い、柔らかない、足は見えずとも、演壇に凭掛つて身體の重味を両手に置いて、腰から下が極まらずに、足の踏み立てが何所であつたか、自分で覺えないやうな態度を取つて話をした時には、強い徹底的話は出来るものではない、腰から下といふものは所謂力、威嚴といふものを代表する態度であります、それから腰から上の態度は叙述に極めて役に立つ態度であります、殊に両手の如きは威嚴とか力とかいふ問題ではない、全く叙述を助ける爲に働き得るものでありまして、之が力を現はし、之が威嚴を現はすやうなものではない、例へば「今日は實に大事な世の中でありませう」と握り拳をウムと突出したのは強いやうであります、腰から下は力が脱け

た態度では幾ら唯握り拳を出しても、之が強くなればなる程滑稽となつて来る、之が強く感ずるのは腰から下に力を入れて『今日の世の中は大事な世の中……』ウムと突出した時に始めて、強くなるものである、實に叙述の基礎になる力の這入るものは腰から下である、之が此の演壇にテーブルを置く所以でありまして、此のテーブルがありますれば、之だけで既に腰から下は立つて居る人が踏立つ所がある、之に依つて力が代表される、其の證據にはテーブルを除けて仕舞つて、さうして初心の方に話をお頼みになつたら、大概の人が必ず心細さを感じるのであります、之から考へましても、私共は態度といふことを此の威厳にくつ附けて考へる場合には、腰から上を考へる必要はない、腰から下で考へる必要がある、そこで先づ私共の心掛けとして考へなければならぬと思ふ點は、演壇に登る前に、自分は何所の位置に立つて、どういふ工合に踏立てたならば、十分に力と威厳を以て會衆を纏めることが出来るか、といふ其の位置を極めて掛るといふことである、所謂位置を極めることは、彼の士俵に登つた力士が、まだ／＼と言ひながらチリ／＼チリ／＼両手兩脚を擡げながら、睨み合ひ、エーッといつて立上る——もう此所ならば十分と確信した時に立上る、其の位置が演壇上にも必要でありませぬ、殊に力士の如きは一人と一人でありませぬが、演壇に立ちますものは、聴衆何百人或は何千人に對する所の大勢のことでありませぬからして、位置の踏立て所の不安、硬い軟いといふことは、非常に自分の話に影響を及ぼす所のものが深い、此の點から考へますと、私共は之を大體から考へまし

て、聴衆の興行が延びるならば延びるだけ、演壇の中央よりも下がるといふことを原理として考へて置いて宜しいと思ふ、如何なる場合でも此の演壇は中央より前へ出るといふことは餘ほど考へものである、あなた方が役者を御覧になるとか、或は芝居とか、或は公會堂で唱歌を唄はれる獨唱家などを御覧になる場合に、其の場慣れぬ人は場慣れた人にくらべて態度心持といふものが及ばない、其の態度といふものは、其の唄ふ人の位置に非常に關係があると思ふのであります、大概婦人の獨唱などを見ると、前へ出て来る、聴衆が多くなつて左右の釣合が甚だ弱くなつて来るに連れて、聴衆の興行は深くなる、唄ふ者の位置は甚しく前へ出て来ますから、非常に不安を感じて来る、それで此の聴く方の心理から考へると、話が進めば聴く方は釣込まれて来るのが當り前であるが、順々に話が進めば前の方へ出るか、聴く方が後へ下がるのが自然の状態であるとおもふ、聴く方は『成るほど、フム、さうだそれぢやア』といふ風に之は寧ろ話す方が追々話し込むに連れて、聴く人の方では前へ釣込まれて、始めて捉まへ得るものである、此の點から考へても前に進むよりも、後へ退くといふことが演壇上の態度に於て、殊に此の位置に於て必要な條件であらうと私は思ふ、之で一度足といふものゝ位置、踏み立てる位置が決まりましたならば、両足を揃へるといふことは窮窟なものである、成るだけ樂に、成るだけ自由に、如何なる態度に應ずるのも自由である、といふ位置を取つて置くといふことが必要である、足を揃へるといふことはキチンとしたときは宜しうございますが、自己を苦しめる

態度であります、寧ろ片足前へ踏み出す、陸軍の休めといふ態度、位置にして如何なる工合に身體を動かしても、自由に自分の身體が樂に動かすことが出来、力を此の腰の位置に置くといふことができてましたならば、後はもう自由自在に此の手を如何に動かしてもおかしいものじやない、之はお伽噺などをやつて見ましても直ぐ分ります、先輩の批評をするのは甚だ相済みませぬが、吾々の先輩である巖谷小波氏、あの人の話を聞いた諸君は、重い話と思ふ人は少ない、強い話と思ふ人も少ない、巖谷さんに對する批評は多く輕妙な話だといふ事をいはれるやうに私の耳にも響く、何故輕妙であるか、何故輕の字を付けるか、といふにこれはサラ／＼と行つて調子が軽く行くからである、此の意味は巖谷先生が腰から下を餘り動かされるから力が脱ける、自然威嚴が脱けて仕舞ふのです、小學校の先生が話をされるのに少し話が調子に乗つて來ると手が足りなくなつて、足を動かす、其の動かされる事が酷ければ酷ひ程子供が笑ふ、可笑しい、其の可笑しいのは興味があるから可笑しいのではない、態度が何となく弱い所に滑稽が見える、例へば太郎と次郎があつて、太郎は弟を呼んで、弟は母から著物を着せられ、羽織を着せられて居る『兄さん今阿母さんが一枚着て行けと仰つしやいますから』『早く來ないか、お友達が待つて居る、早くお前が來ないと困る』『兄さんどうも御免なさい、一緒に行きませう』太郎と次郎との使ひ別け、位置を變へて、太郎となり、次郎となり、非常に早く動かされる『サア早く來ないか、皆待つて居らつしやる』『どうも兄さん御免なさい、阿母さんが一枚着て行けと仰

しやいまして』『皆さん待つて居る、お前一人の爲に困る』と位置の使ひ別けを非常に早く巧みにやられる、其間フロックコートを着た髯のはえた人が飛違つて、色々苦心される點が眼に見えて可笑しい是ならば腰から下を動かさず、叙述で腰から上で以て太郎と次郎の位置が決まるものである、太郎は見て背が高い、次郎は弟で背が低い、自然の順序として兄が弟を呼んで、四五尺離れて兄の方は背が高いから、弟を見る時に少し笠に掛かる氣味に話をする、弟は兄を見上げる氣味に話をする、先づ位置といふものは極まつたものだ、四五尺と見るならば何も駈違つてやらすとも両方の距離が分る、腰から上ならば幾ら態度を變化しても可笑しい事はない『コレ次郎、皆さんが待つて居らつしやる、お前一人來ないと困る』『どうも兄さん御免なさい』『お前一人の爲に皆さんが困るから早く行きなさい』『ぢやア一緒に行きませう』といひながら二人はズツと行きましたといふ時に、キチンと力と威嚴がある、此所で二人はズツと行きまして、吾々は話其のもので満足させるのではないといふ事は當初申上げた通りであります、お話の縁に依つて第二第三の意味を働せる所の吾々の希望目的があるのでありますから、其の位置に早く歸り得る態度で歸つたならば、其のキチンとした態度は、子供に或る意味を教へ得るものでなければならぬと思ふ、それから此の腰から上の態度の如きは、例へば首を使ひ両手を使ひ、身體を使ふといふ事もあります、私は之が態度は巧妙に使はれようと思ふならばどんなに巧く使はうといふ事を考へられるよりは、極端までお使ひになつて見るが宜い、出来るだけ

大きく使つて見るが宜いと思ふ、二つの手を幾ら大きく使はうと思つても、六尺以上には廣くはならぬ、之を盛んに使つて居る内に、段々經濟程度が分つて来る、さうすると大きく使つた事、小さく使つた事、結局歸する所は、ハ、ア要點は此所だ、といふ事が必ず分る、例へて申ますれば、向ふから眞一文字にバタ／＼バタ／＼(駈付けて来たが(指先を右から左へ轉じて)ズット向ふまで行つたといふ、是は一生懸命話を聴いて居る時分にバタ／＼／＼ツーツと行つたと首と手を千切れるやうに振向けてやる、眞一文字にバタ／＼バタ／＼、ツーツと行つたといふ、其のバタ／＼、ツーツと行つたといふのは歸する所、駈付けて来てバツと行過ぎた、其の行過ぎたといふ所に要點がある、其の要點は何所にあるか、指先を刎ねるか刎ねないのにある、右の方より眞一文字に……向ふの方に眼を注いで、バタ／＼、バタ／＼、ツーツと行過ぎた(指先を右から左に轉じ)どの位やつた所が向ふまで行けるものぢやない、バタ／＼、ツーツと行つた、バタ／＼と半分の所で手を轉じて(指先を)ピンと刎ねる、此の指先の届く所は此所より外にない、是が始めはバタ／＼バタ／＼と大きくやるが、仕舞ひには口でバタ／＼バタ／＼ツ(指先でピン)と刎ねたら、どの位まで行くか知れぬ、結局指先を刎るか刎ねないかに歸するものだと思へたならば、さう大きくやらなくてもよい、横濱へもやつて来ますが落語家の柳家小さんの態度、講演壇上に立つて、決して真似てはならぬ態度であります、如何に態度を使い、要點を握つて居るか、チョットした所で、如何に大きく人格の別な物を現はすかといふ事

に付いて、今日あの小さんほど良くやるものはないと思ふ、彼は大家の旦那を現はし、此の旦那に久しく御無沙汰をした若い衆が御機嫌伺ひにやつて来る、此所は現はす場合に決して旦那だからといつて大きく構へる譯ぢやない、出入りの者は小さく腰を屈めるでもない、あの講演場に座つて、(テーブルの上に座し)甚だ失禮であります、和服を着て居る小さんの態度を見ると、臂を張る事一寸、手の先さを縮める事僅に一寸、是を(臂)張る、縮めるだけで旦那と、出入りの御無沙汰をした若い者との意氣を現はす、例へば「ア、宜う来なすつた、暫く見えなかつたな」どうも誠に暫らく御無沙汰を致しました「ヤ、お互ひに御無沙汰だ、此へ来なさい」此の間は誠に何でもなく、ホンの肘を腋に著けて、さうして手を一寸先きに伸ばすか、或は手を少し舉げて肘を張るだけあります、其の兩者の位置關係、人格といふものを現はす、定めてあの男も初めはおかしい態度を執つたらうと思ふ、ろ／＼やつて見た結果、どの點が要點であらうといふ所まで競り詰めて、初めて此に來たのであると思ふのであります、それでありませうから、演壇上に諸君が立たれるならば、腰から下を動かさなければどの位でも一つ手を動かして見る使つて見るのです、此に一つ要件として考へて置かなければならぬことは、其の手を使ふならば、肩から御使ひなさるといふこと、肘から先きに手を使ふといふことは、演壇上では禁物でございます、手を使ふならば肩から使ふ、先づ肩を先きに舉げる積りて手を動かす、肘から先きに手を舉げて、肩を舉げるぢやない、肩から先きに舉げて行く、之は幼稚園の保姆

諸君などが能くやつて居る、年を取つた保姆諸君を見ると必ず肘から先きに「鳩ポツポ鳩ポツポ」と先きにやる、どうかすると手首を上にして「鳩ポツポ」とやるが、肩から使つて居ると非常に軟かく圓く手を使ふことが出来る、自然に適ふ子供の形を見て居ると吾々が學ぶ所があります、演壇上に立つて向ふから來ましてもこちらから來ましても斯ふ肘から先きでは如何にも小さくて窮竅である、それに何と言つても聴衆の何百或は何千に對して注意の中心でありますから、絶えず自分の動作は全体に亘るものであるといふことを思はなければならぬ、肘からやる小さい態度は、決して全体に及ぶものではない、あの芝居などを觀に行きましても煙草を喫むのに、煙管を肩から取つて煙草を詰めるあれなどは大きい、大きな誇大的の態度を執りますが、丁度あれで能く見える、斯ういふ風に煙管を取つて横に斯う煙草を入れる、是れだけでもう火が著いて居る筈であります、それにあの天竺徳兵衛であるとか、或は渡海屋銀兵衛であるとかいふのは煙管を肩から持つて來て、それで斯う詰めて、さうして是まで行くそれが觀て居つて如何にも煙草を喫んだといふことが、ハッキリ吾々の頭に這入る形が大きくて如何にも斯う渡海屋銀兵衛らしい、如何にも天竺徳兵衛らしい、さうして斯う始終肩から行つて居る、あなた方が其所いらて遊藝を職として居る婦人連中に御遇ひになつた時に、彼等の踊るのを御覽になつても能く分る、彼等に本當に踊れる覺悟のある者は腰が極まつて居る、能く踊る者は必ず肩で舞ふ、小さく舞はない、ユツたり大きく廻はる、下手な田舎邊りに行つて遊藝を業として

居る者は斯ういふやうなことは出来ない、肘から先きにやつて如何にも窮竅さうだ、それが上手な者になると肩から樂に使つて居る、私は甚だ下手なんです、常に此の肩を使ふ、之を考へて諸君が手を使へるならば、出来るだけ一つ使つて、さうして追々經濟程度を御發見なさるやうにするがよい、必ずしもあゝいふ時は斯ういふ手つきをするとか、斯ういふ時には兩手を胸に組むとか、そんなにもうも捉はるべきものではない、あなた方が使ひたいと思つたら使ふが宜しい、併し結局勞少くして功の多いやうに、努めて少ない働きに依つて多くの功績を擧げることの原理ですから、先づ始めは使へるだけ使つて、終には此の要点を握られるやうに進めたいと思ふ、それからもう一つは手の使ひ方に急劇の御使ひ方は避けたいこととあります、大きく使ふといふこと、肩で使ふといふこと、其の次には急劇なる使ひ方を避けたい、人の感情といふものは、こちらの述べた言葉の後から起るものでありまして、其の起つたものに依つて第二の思想を組立て、行くといふやうに段階的に進むものであつて、話す者は語らざる先きから話の終末までを既に知つて居る、知つて居るから終に急ぐ、與へる先きに聴く者の方からいふと幾ら忙がしい話であるからといつて、決して忙がしく話すといふことが其の適當の感じを起させる種とはならない、順序を踏んで一つ／＼必要の豫備條件が整つた後に、始めて重要な感情が起るのでありますから、此の點に付ては餘ほど吾々は叙述にも態度にも其の順序を踏んで緩る／＼やつて行かう、兎も角も其の順序を誤まらなかつたならば、必ず必要なる効果を見

ることが出来る、それでありますから、急ぐ態度、早く使ふといふことを成るだけ避けて、一番緩く
りと使へる態度でするがよい、西洋人などが能くやる態度が一番吾々の準備的に宜くはないかと思つ
て居ります、それは一つの手を後ろに片附けるといふこと、能く西洋人などが話をするときに御注意
なさると分りますが、真ん中の釦を外して此の手を入れて、さうして休める、此の態度ならば直ぐ出
さうと思つても直ぐ使へない、緩くり出さうとすれば悠々と出せるものである、それで要らなくな
れば此所へ斯う入れて置く、それで此の釦に休まして置く、即ち片手は後ろの腰に休ませ、片手は前
の釦に休ませる、之ならば無禮でない、後ろから出さうとすれば樂に之が出て来る、デ尙又早く使ふ
必要のある場合は、此の拇指を上衣の第二の釦の所へ乗つけて置く、さうすれば直ぐに使へる、それ
から若し釦を外した場合でありますならば拇指をポケットの入口に引つ掛けておく、此の態度ならば
宜しいが、能く日本人のする態度で両手をツボンのポケットに入れるは極く無禮無作法で、動もすれ
ば演壇上に立つて斯ういふことをやられることがある、諸君の如き少し進んだ位置に居られる方は、
御注意を願ひたい、此の中には御婦人が居られるやうで甚だ失禮ですが、これは日本で申すと俗に握
り何とかいふ態度でありまして、極下等な野卑な態度でありますから、忘れても斯ういふことはなさ
らぬやうに願ひます、歐米諸國では學生なら退校を命ぜられる位の處分を受ける、それは一つは性慾
問題から關係して来る事でもありますが、實はこれは野卑な聯想も起させる態度で、無禮至極な態度

であります、決して之をなすつてはならない、萬已むを得なかつたならば片方の手だけ此のツボンの
どちらかの隠しへ拇指だけをちよつと掛けて居られるといふ事は許されて居ります、それから演説が
長くなるとツボン釣りを引張つて肩を緩める態度をする人がありますがツボン釣りを引張つて肩の凝
りを少し緩めて両手の重みを之に掛けて居りますので之は非常に樂な態度であります、併し西洋では
極く下様の者がやります態度でありまして、桑港あたりでは野卑なる人間がやつて居る事でありまし
て子供が日本人などを見た時は之をやる甚だ無禮で最も人を馬鹿にした非常に下卑な態度であります
之を要するに成るだけ目立たない位置に自分の両手を置いて、目立たない姿勢に自分の身体を置き、
さうして必要な時には其の言葉の跡で手が伴ふ位の態度でするがよい、例へば手が先きになつて手が
殺され、聲が殺される事もある、之を經濟に使ふならば向ふから人が來ましたといふ態度は悠つくり
して宜い、『向ふから人が參りました』、『アツさうですか……アツさうですか……』此のアツといつた聲
で殺される、どちらが不經濟か、『アツさうですか……』是ならば合點が能く行く、早くしたからと
いつて人の頭に這入るものではない、態度の如きは悠つくり悠々とやつて説明を加へた跡に、大きい
地球に住んで居るからお互ひは丸く交際つて行く、斯ういへば丸いといふ説明を加へて感じが起つた
所に手でファンワリと丸く拵へる、如何にも具体的にスツキリと感じがする、丸い世の中に丸い感じか
起つて来る所で丸い世の中と悠つくり使つて決して差支ない、それは悠つくりした事を悠つくりする

からさう感ずるのだらうと御考へがあるか知らぬが、或は急ぐ事を悠つくりやつても、順序が立つて居れば少しも差支ない、餘り長くなりませんから假に此所に一つ實例を擧げて見ますれば、三代將軍家光公が竹千代君といつた、其の時分に大河内長四郎後に松平信綱となつた人、父君の御寢所の屋根に居る雀の子を見て、竹千代君が長四郎にあの雀を取つて參れと命じた、『將軍様御寢所の屋根に巢をくつて居ります雀、臣下の者があの屋根へ登る事には參りませぬ』是非取つて參れ』といふ、主命黙止難く、子供心に長四郎、一、二、三枚目の瓦と覺えて置いて、夜になつて屋根に登り雀を取つたといふのが讀本に出て居ると思ひますが、其の晩の内に長四郎が段々屋根の上へ忍び足に傳はつて行つて、一、二、三枚目の瓦に手を付けて巢へ手を入れ、聽て一羽を捉まへた、ヤン嬉しいと思つて、モウ一羽居つた故、一羽は竹千代様の御樂しみたと思ひ、自分も一羽欲しい、子供心にモウ一羽自分の分と巢へ手を入れて握つた、是て安心だといふので臂を突いて身を起さうといふときに、夜露にシツトリ濡れた瓦が、小さい身体であつたが十貫ばかりの重味を支へる事が出来なくて、臂を突き外して這つたと思ふ間もなく、長四郎の身体は眞逆さまに下の植込へ向けてドシーンと落ちた、ハツと思つた時は既に遅し、長四郎確かに胸を打つたので、一と堪りもなく『ウーン』と氣絶をして仕舞つたが、其の苦しさの餘り覺えず兩手をギューツと握り締めた、握り締めた時に此の兩手に確かり握つて居つた小雀、哀れや一と堪りもなくチューツと死んで仕舞つた、屋根から落ちるのに斯んな悠つくりした

落ち方はない、之を本當に話すならばツルリ這つた時は長四郎がハツと思つた時で、ハツと思つた間もなくドシーンと落ちた時はドシーンと胸を打つた時で、ギューツといつたギューツといつた時は雀がチューツといつた時だ、之を本當に語りますならば、ツルリ這る途端にギューツ……チューツ其の早さは之が本當かも知れませぬ、併し人の感情は順序立つて積上げて行つて、適當なる思想に組立てるのでありますからして、之をドシーン、ギューツ、チューツでは何の意味か分らない、ツルリ這つたから長四郎ハツと思つた時は既に遅し、遅しといふ時はモウ落ちて居る時だ、既に遅しと斯ういふと、ア、偕は落ちたなと思ふ、其の感じのある所へ、下の植込を目掛けて眞逆様にドシーンと落ちて胸を打つた、打つたからどうせ子供の事であるからギューツともいつたらう、氣絶もしたらうと思ふ所へドシーンと打つと共にギューツといふから聽く者も、ア、ウム成るほどさうだが、ギューといつたら、両方の手で握り締めて居つた雀はどうしたらう、そこまでは考が廻らぬが、自らにして其所に疑を挟む餘地がある、そこで苦しい餘り兩手をギューと握り締めるといふと雀はチュートと鳴く、さうすると聽いて居る者は、ア、死んだなと承知して仕舞ふ、早いことも順序を立て、申しますれば決して急ぐには當らない、ツロ／＼一つづつ理を悉して述べ立てれば立派に其の感じを起す、況んや緩るきものをやと謂はざるを得ないと思ひます、彼の木村長門守重成の勘忍袋といつて能く講釋師がやるのにそれに似た話があります、それはあの重成を御茶坊主の隆寛が始終馬鹿にするが

一向腹を立てない御茶坊主は腹の中で、英雄で剛勇だといふが嘘だ、彼は臆病者だ、人が買ひ被つて居る、何か一つ悪戯をしよう、悪戯をしようと考えて居た、所が或時御湯殿へ這入ると一人の武士が向ふを向いて這入つて居る、見ると色が如何にも白い、此の色の白いのは木村重成に違ひない、そこで隆寛がボカツと叫いた、風呂の中から飛上つて『痛いッ、誰だ人の尻を叩いたのは』と言つて、振向いたのを見ると、思ひの外、後藤又兵衛だ、隆寛はイヤ、しまつた、こいつ悪い奴の尻を叩いたなと思つて、知らぬ顔をして湯槽の隅に小さくなつて屈んで居ると、又兵衛烈火の如く怒つて、『誰だ拙者の尻を叩いたのは』といつて探して居る、濛々と立騰る湯氣の中に隆寛真ッ赤になつて羽目の隅に小さくなつて苦しいのを我慢して居ると、彼奴だなど思つた又兵衛『貴様だらう』決して手前ではございませぬ『嘘を吐け』といつて襟ツ首を引摺んで向ふの羽目板を目覓けて『エーッ』シュー……ドシーンと羽目板へ當つたと同時に『ウーン』と參つたといふのが、風呂が廣ければ隆寛の身体はブァーン……殆ど飛行機同様の速さだ(哄笑)併し之は後藤又兵衛の力、其の投げた時の意氣込それと共に投げられた隆寛の如何に答へるかといふことを考へさせる話の準備作業として『エーッ』ブァーンといふのは又兵衛の力の強さ、隆寛の身体が空を飛んで行く心持、さうして羽目板にドシーンといふので善い氣味だと思ふ、既に速さことを叙述するのに、緩く順序を履んだやり口で満足すべしとするならば、況んや緩くりしたことを緩くり話すといふことに付いては、一向私共は差支ないことであらうと

思ふのであります、ちよつと五分間休憩いたします。(休憩)

其の次は聲といふものを少申し上げて見ようと思ひます、此の聲に付ては世界中で聲を資本にして商賣をして居る國民に伊太利人といふものがあります、横濱へ来る船乗りて今は東洋汽船になつて仕舞ひましたから殆どありませんまいかと思ひますが、外國の船籍を持つて居ります船が通過するとき、御乗りになつて御覧になると分りますが、彼の船に乗つて居ります音楽家、世界中の船に聲を商賣にして乗つて居る者は唯だ伊太利人のみと言つて宜しい、之は亞米利加であらうが、佛蘭西であらうが露西亞であらうが、ホテル或は公會堂、又は演藝場で唄を謠ふ大部分、又音樂に依つて衣食する大部分の者といふものは、殆ど伊太利人であります、伊太利人ほど聲を資本にして商賣をする者は無い、其の伊太利人の諺に『咽を持たぬ伊太利人』といふことがある、詰り之は咽で聲を出すんぢやないといふこと伊太利人は咽で唄ふんぢやない、咽で聲を扱ふのぢやないといふことです、日本では美しい聲を出す直ぐに『ア、美しい咽だ』といふ、『震ひ著きたいやうな咽だ』聲とは言はず、聲を思ふと咽を思ふ、私などが長く大きい聲を出して居ると、あなたは一休どんな御手當を咽になさいますといはれるが、之は生れ付きて咽には一向何等の手當を加へて居りませぬ、始終咽のことを聞かれるが、此の咽が若し満足であるならば十分の聲が出るかどうか、こゝは伊太利人が聲を商賣にする國民として、咽ぢや俺は唄ふんぢやない、咽で聲を出すんぢやない、聲を出すものはまだ他にあるといふことを言は

んとして其の諺が出来上つたものであらうと思ひますが、さらば何である、之を説明する前に一二の具体的材料で私は研究して見たいと思ひますが、火事、地震、あゝいふ非常な時には狼狽へちやいかぬ、遠てちやいかぬといふ事をいうて注意を加へる者がある、之を聞いた者は其の聲の如何にも凄まじく、恐ろしい聲を絞られたので、狼狽へて居なかつた者が却つて狼狽へ始めるといふ事實がある、先刻貴下の聲が恐ろしい聲であつたので、あれまでは落付いて居つたけれども、狼狽へちやいかぬぞといはれたので却つて狼狽した、イヤ其んな事はない、私は落付いて静かに聲を出した積りだ、イヤ静か所ぢやない、二三間向ふまでも聽える聲であつた、斯ういふやうな事は事實であります、聲を出さうとする者は意識して、低い落付いた聲を出さうと思つて、出すべく咽喉に命ずる、即ち聲の本になる聲帯に振動を命ずるそれが意思に反した高い強い恐ろしい聲が出たといふものは何であるか、聲の土臺になるべき呼吸の分量が多かつたといふ事を考へなければならぬ、例へていふと、停車場の改札口へ多くの人が詰寄つたやうなものでありましてソロ／＼順序能く出れば幾らでも樂に出られる、之と同じやうなものでありまして、咽喉に吩咐けて静かに聲を出す積りてそれにはそれに相當なるだけの呼吸を扱へば宜い筈であります、狼狽へて精神上色々な變動から諸機關に壓迫或は激變を與へて、此の内臓に急激なる變調があり、血液の循環或は脈搏の壓迫、非常なる變態を現はし、所要以上の呼吸を咽喉に向けて送り出して、即ち求むるよりも餘計に呼吸を出した時、低い聲を出した積りて

高い聲となつて仕舞ひ呼吸が多かつた故にそれが高い聲となつたといふ事を考へて見ますと、私共は咽喉に注意するよりは寧ろ呼吸に注意をする、此の呼吸を練る、呼吸を扱ふといふ事を先づ修練する少くとも人の前に立つて話をしようといふならば、咽喉の手當といふ事を考へるより、呼吸を如何に自分は扱ふ事が出来るか、呼吸を如何に練る事が出来るか、呼吸を自由に據梅する事が出来るか、更に進んだならば、呼吸を続け得られる事が出来るか、絶えず同じ程度に扱つて之を永續させる事が出来るか、此の點が餘程必要な問題であると思ふ、彼のジョセフパーカーといふ亞米利加の大雄辯家に一週間に二回づゝ大きな建物で約二萬の群衆に對して七週間講演を續けて隅から隅まで届いた聲であつた、或る人が驚いてパーカーに「あの長い間、あの多數の聽衆に對して終始變らざる聲で御話なさる事が出来たのは一体どういふ譯でございますか、何か秘訣がありますか」といふとパーカー先生がホテルの二階の窓を開いて海岸を示し窓の下に長く連なつた浪打際を指した、十七八丁の砂原が半圓形をなして居るのみで、外には何もなす「何ていふ事ですか」といふと、「私は毎朝起きると寢衣の儘であの十七八丁の砂原を息の續く限り駆足をして、五回でも七回でも駆ける、さうして汗が出て疲れた所て歸つて湯に這入つて食事をする、是より外に何等秘訣はない」といふ事をいはれた、希臘の雄辯家デモステニスといふ人は毎日山へ登つて詩集を朗吟して呼吸を練る事をやつた、パーカーのやつたのも呼吸を練つたのである、或る人の言葉に精力は即ち雄辯なり、精力の内殊に肺力、肺力即ち雄辯

なりと解釋した方が私は近いと思ふ、此の呼吸を練るといふ事は今日までの人は殆どない、其の爲めに演壇に立つて今日は云はなければならぬと思つて見ると多數の人は自分を睨み付けて居る、此の多くの人に聞かせなければならぬ、之は大した事になつたと考へると同時にモウ脈搏の打ち方でも血液の循環でも激しくなつてワク／＼する、顔も逆上せて仕舞つて水ばかりガブ／＼呑む、さうして十分間か十四五分間話して居る内に、話し聲が噎れて仕舞つてキイ／＼いふやうになる、まだ本論に這入らざる内に、私はまだ語らむとする所も多いのでありますが、奈何せむ今日は是切りにしてお仕舞ひに致します、本論も片付けないでお仕舞ひにするやうな事があります、是などは畢竟咽喉が悪いのぢやない、考へが足りないのではない、考へもあれば咽喉も十分である、呼吸を練つて置くといふ事の修練が足りないからである、此の呼吸といふ事に付いては人間生々の元氣を保存するに一番大切なものでありますのに氣を御注けになる人は少ない、此の呼吸を自分達は正しくやつて居るが、即ち毎日正しく扱ひつゝ居るが、所要の呼吸を長く爲す事が出来るかどうか、之は私共單に雄辯術といふ上からのみならず、吾々は平素精力保存の上からいうても必要な事で、深呼吸といふ事が大分進んで來ましたがあの深呼吸は諸君は時々之を試みられて宜からうと思ふ、唯出す數が必要な程度に達したならば呼吸を直ぐ切つて止める事が出来る、或は更に呼吸を續けて咄す事が出来るか、自分の出して居る呼吸は自分の求めるだけ聲にして出して居るがどうか、少しも不必要な呼吸を出さないやうにして

居るかといふ事は、之は微妙な問題であります、貴下方が御考へなすつて御扱ひになつて居れば自然御會得なさる事が出來ます、此の呼吸を扱ふ上に於て最も必要なるは唇であります、大概の人は此の演壇に立つて話す時に言葉を言ひ切つて仕舞つてから其の第二の句を話す準備をせられませぬ、唇を開け放して置く事があります、例へば『今日は是より私は神奈川縣の師範學校へ參りたいと思ひますが或は參らぬかも知れないのであります』ポカンと斯う口を開いて居る、之は少しく御注意なすつて御覽なさい、此の言うて仕舞つてキチリ／＼唇を結ぶ人は意外に少ない、言うて仕舞つて開いて居るから不必要に呼吸が洩れて居るのであります、此の呼吸の保存といふことから言ひましても、言ひ切つて言葉に力を附ける所から言ひますと、随つて印象を明確ならしむるもので、此の呼吸を切ることに、切る途端に唯一の機關である唇を結ぶといふことが肝腎である、彼の大隈伯は茲に特色を有つて居る、あの人は『さうするのであるんである』と斯う唇を結んで仕舞はれる、『我輩は憲政の擁護は必要なる問題であると思ふのであるんである』こゝでギューと唇を締める、此所まで結ぶ必要もありませぬけれども、併し是位に諸君が聲を保存する、言ひ切つたものを保護する、さうして第二の發語の材料となるべき聲を洩らさずに、溜めて置くといふことは最も必要なことであります、此の聲を扱ふことが呼吸に依つて御自由になつたならば、高い聲や低い聲は自ら出て來る、併し此の呼吸といふ點に御氣付になりましたならば、次に考へなければならぬことは聲の問題であります、其の聲は

高く話すといふことを學ばむよりも低く話すといふことを練習する方が必要であります、大概の人が『あの人の聲は高いから聴かせることが出来るだらう、あの人の聲はどうも隅まで届かぬから、あれぢや通俗講演などは駄目であらう』などいって、聲の低き者より高き者を寧ろ善しとするが、之は逆さまであります、人の合點する時、成程と思ふ時は高い聲の時ではなくて低い聲の時である、さういふ話で所謂始終神経が刺戟を受けて居る、釣上げられて居る『ア、さうだ〜』と聴きながら『成るほどさうだな』と已の物に消化するのは高い聲では行くものでない『今日の御時勢は實に大切であります、併し驕つて考へれば』と斯う低く言はるゝと成程大切な御時勢か『さうかな〜』こゝで合點がいくのは低い聲の時であります、低い聲を落すことが出来るといふことはなか〜容易なことでない高い聲を出すといふことは寧ろ易いことです、それありますから、初心の方が演壇に出て來ると、段々聲が高くなつて來て、丁度自分でもはづみ加減で述べ、もうちつと低くしようと思ふが、自分の聲で引下ろすことは出来ない、さうして演壇を降りてから『君の聲は高い』『俺は又どうしても低くすることが出来ない、段々詰めて行くほど高くなる』高くすることは誰でも出来ることで、寧ろ發語の言葉を強く高く言つたならば、さうして人の耳に這入つたなと思ふたならば、特に次の言葉を低くして見る、さうして聴いて呉れるかどうかといふことを考へる餘裕が御付きになりましたならば、大丈夫である、此の低く話すといふことが、通俗教育には最も必要のものでありまして、今日吾々が社

會教育上なさねばならぬことは、刺戟を與へるといふことも必要であります、刺戟を與へた後にそれに従つて或る行動を起さしむるといふことが更に必要のものでありますから、私共は寧ろ高い聲で刺戟を與へると共に、低い聲で彼等の思索に之を移して合點させ實行に努力せしむるといふことが必要であらうと思ふ。

其の次は間を以て話すといふことであります、之を英語ではコーズといひますが、それは如何に巧みに話しても、のべつ引つ切りなしに話されては、頭に這入るものぢやない、ちよつと言葉の間を句切る、言葉を句切ると共に時間を借りる、『今日吾々は大切な大正の御代に生れ合せました時に如何にせねばならぬか、吾々がせねばならぬ事は是もある、斯ういふ事もある、併し此所が考へ所ではございますまいか』斯ういふ時に低く話すと同時に、其の後にちよつと斯う間を持つ、此の間といふことが聴く者には過去に與へられた印象を記憶に十分ならしむると共に、話す者には自己の立場をハッキリ保たせる、所謂地歩を占めさせるのは、此の間を持つ間に働らくものであります、少し話上手になるとのべたらにペラ〜ペラ〜話すもので、其の與へた印象觀念といふものは『善う喋舌べる男ぢやな〜』といふに止まる、之では吾々は百萬言を連ねて話した所が、何等與へ得る所のものではないと考へます、私共は此の間を持つて話すといふことが餘ほど必要なことである、それと共に此の聲を場内に落す、望みの所に落す、是は一種の哲學とも言ふべきもので、さういふことが出来るも

のだと御考へ置き下さいますならば、あなた方は他日御分りになる場合があらうと思ひますが、之は子供などが寄りました場合に能く或隅の方で騒いで居る、全体は聴いて居るが、どうも向ふの隅の方は騒いで居るといふ其所へ聲を落し、其所へ聲を打つ付ける、不注意の場所へボカリツと聲を投げる此の聲を落すといふことは、眼が一緒に伴はなければならぬものであります、自由に場内に此の聲を落し得るといふことになりますれば宜しいのであります、さういふことを自然に御體得を願ひたいと思ふ、もう一つは聲に調子を付けるといふことでございます、それは例へて申しますれば、鴉が啼く鐘が鳴るといふやうな場合に「カア／＼と鴉が啼きながら東の方から参りますのであります」といふのが、カア／＼といふ鴉の聲の眞似は所謂模聲といふのであります、之を少しく調子を附けて「カア／＼／＼」といひながら「鴉が東の方から参りました」と少し調子を付ける、此の調子を付けるといふことは、矢張り此の講演も聲を以て諸君の耳が或る働きをする以上は、大きい無韻の音楽と心得て差支ないもので、聴いて感じの善い、心持の善い聲ならば、人は何時までも聞いて居るものでありますから、殊に其の聲は多少緊張し來つて或時は高く、或る時は低く、それも調子は千律的に行かぬまでも餘程耳に一高一低一波一瀾があつて行くといふ事はど聴き易く聴き取るものはない、斯うしたならば少々長き時間でもむづかしい話でも聴かしめる事が出来る、「日が暮れる、鐘がゴーンと鳴る鴉がカア／＼といひながら西の方へ行く、お日様がズツ沈む」日の沈む形容であります、それを

少々調子を付けて「日がズツと沈むとカア／＼カア／＼といひながら鴉が啼いて行く、お寺の鐘は夕靄の中からボンと鳴る、牛はモウー……」此所までいはなくつても宜いけれども、少し調子付いた言葉でありますれば、心持ち好く頭に這入つて行くだらうと思ふ、それから最後に聲に伴ふ感情を必要とするといふ事であり、聲に伴ふ感情は今日まで不自然的のものではないか、最も缺けたるものであります、其の聲に伴なつて居ない感情とはどういふ事であるかといふと、之は學者の講義を聴いて居ると能く分る、「誠に悲しむべき事であり、ちつとも悲しいとも何とも思はない、『斯様な事は誠に愉快な事であり、聴いて居つて愉快でも何でもない、何の感じも伴なつて居ない、斯うして人に愉快と感じさせる事が出来るか、悲しいと感じさせる事が出来るかどうか、斯ういふ事になると却つて青年の演説などを聴いて居ると『實に慷慨に堪へない次第であります』所謂必要なる感じ、必要なる聲が出て居る、之は偽らざる立場になつて居る、學者は百も承知して居るものを唯人に悲しい感じ、人に嬉しく思はせようと思ふだけに叙述的にやつて居ります爲に『之は誠に悲しむべき事であり……之は誠に喜ぶべき事であり……』實に感じが其の聲に伴はない、其の爲に與へる所の印象も何もない、結局私共は此の感じといふ事を聲に伴なつて考へますと、聲は常に人格を代表するものである、聲は常に目的を助けるものであると考へなければならぬ、襖越して聴きました聲は重い聲であつたならば同じ議論をして居つても軽い痾高い聲をして居るよりも吾々は合點が行

く、況んや面と向つて其の人の顔を見て莊重なる語にていふと（軽い痛高い聲でいふと）どつちが信用を置けるか、どちらが大切といふ事を現はす聲かといへば、無論前者の方が適當なるものである、さうして見ると、私共は此の扱ひ方に依つて聲の高さ低さ、太さ、細さを吟味するも必要であるが、聲を練り呼吸を練る必要が最も大切であると思ふ、併し結局之には相當の感じが伴なつて行かなければならぬ事で、其の感情が伴なつて行けば其の有りの儘の感情が現はれるものでありますから、多くは其の聲其のものが語らむとする目的と、其の目的を思ふ切なる加減に應じて聲は出るものであるといふ事を考へて見ますと、私は畢竟聲は人格の反映なり、言ひ換れば強い聲、徹底した聲といふものは其の人の人格の反映であるといふ事を考へなければならぬ、斯う申しますと、最後に雄辯の立場は術にあらず、聲にあらず、態度にあらずして、矢張り人格であるといふ事が分るであらうと思ふ、聲は此の位にして置きまして眼と顔といふ事を最後に申上げて置きます。

眼と顔は實に必要な道具であります、幾ら手を動かし、幾ら腰から下を能く支へた所が、顔といふものが生きた顔でなければ吾々は語り得ない、例へていうて見ますと、御簾内で三味線を弾いて義太夫を語りますと物足らぬ、其の聲が能く其の語る所が多ければ多い程顔を見たい、此の顔を見て顔から請取る感じといふものは、何物にも代へ難いものであります、其の顔が常に此の聴衆の方へ向つて居るといふ事は演説者に取つて聲で語るとも顔で半分は語り得るものである、然るにどうかしま

すると、其の顔を人に向ける事を氣まりが悪い、或は羞かしいのか、始終下を向いて話をして居る人がある、それで時々如何にも氣まじ悪さうに土眼で睨んで見ては、多く下を見て話をして居る、之ではどんな良い聲をして良い話をしましても、人を捉まへるものではない、況んや其の顔の中に最も能く働らく所のもは此の眼であります、顔の鼻から下は如何に隠れやうが、眼二つが諸君の方を見、諸君の顔を見て居るならば必ず吾々は十分に意思を徹底せしめ得るものである、それは眼ほど語るものはない、眼も口ほどに物を言ふといふは昔の事であり、今は眼は口より物をいふものであるとなつた、吾々はお高祖頭巾の中に包まれた女と通りすがり、チラッと見て、ア、あれは化性のものだな、あれは品位ある奥さんだなどいふのは顔を見たのではない、眼を見たゞけてある、それだけ彼は全體を語る事が出来る、此の眼は講演壇上に二様に働らくものであります、一つは自己の語らむとする叙述の意味を現はす爲に使はれ、一つは其の叙述する人の立場或は信念を代表する所のものでありますから、場内を統轄する所のもは眼であります、其の眼で見て居つて、あの人の信ずる所に依つて——あの人の言はない所を見て居るのだ、其の眼に依つて救へるのである、それと共に其の眼は又二様に働いて叙述を助ける、右から眞一文字にタ、タ、タと人が来た、左の方から眞一文字にタ、タ、タと人が来て両方バツタリ打付かつた、ヒョイツと見る、打付かつたといふ眼の行き所は、貴下方の眼の行き所は右から来た左から来た、是は眼だ、此の眼に依つて如何に全體を導びく事が出来

るか、話をして居る内に私がホイッと後ろを見て御覽なさい、貴下方はア、何か来たのかと其の方へ眼が行く、子供などは尙ほの事、眼は如何に全體の會衆を指導して居るかといふ事は分る、此の講演壇上に立つた者の眼の行く所に行く、其所を利用して手品師が手品を使ひ常に人を欺いて居る、一錢二錢三錢四錢と斯う金を持つて『此のお金をあの天井に抛り上げます、彼所へ行きました、彼所へ往きました』何も行きはしない、立派に手許に這入つて居る、けれども彼所へ行きました、ア、彼所へ行つたと斯ういふ、詰らぬことですが、形の有る物を見ずに形の無い物を見せられて居る、其の眼が丁度彼所へ行きましたといふ時は、もう此の近くまで行つて居る、八尺なら八尺の天井下で『ア、彼所へ行きました』と斯ういふのです、眼が如何に叙述を助けられて居るか、向ふからこちらへ這入るとか、此の高いもの低いもの強いもの弱いもの、さうして之を引つくるめて、此所は斯くあらざるべからず、此所は斯くなさるべからずといふやうに、キチンと極つたことと話の中に或は信念、立場といふものを徹底せしむる、此の意味からいつて此の眼を働かせるといふことは最後のものでもあります、併し此の眼は畢竟其の人の信念に伴ふもの、人格に伴ふものであります、そこで此の眼の働を證明する行動は吾々は努めて避けなければなりません、多く今日演壇上に立つ人のやり方といふものは、先づずつと登つて来て、さうしてお辭儀をして、ひよつと頭を上げる時が、先程の講堂に於ける校長が式日に演壇に登つたと同じ様に此の氣を集める時である、其の時に眼で以て統轄を始めて掛つ

たならば、如何なる話でも言ひ出せるものであります、斯うお辭儀をして置いて、知らぬ顔をしてガブ／＼水を吞んで、成るだけ聴衆の方を向かないでゐると聴く方ではもう何んだ彼奴は碌な奴ぢやないかと六七分吞込んで居る、之などは所謂統轄力を蔑視したものであると思ふ、甚だ蕪雜な順序であるが、これ態度、言葉、聲、呼吸、顔、眼といふもの、略々一頁りを申上げたと思ふ、明日は之を農村に於ける通俗講演會に實際當嵌めて、其の會場の設備、之に伴ふ行動、又は農村の青年團が之に對する共同動作といふやうなものから、私が各地方で見ました實際の材料を努めて御役に立つ範圍で列べて見たいと思ふのであります、今日は之でおしまひに致します。(拍手)

通俗教育心得の一斑

（基）



通俗教育心得の一斑
(其二)



通俗教育の心得一斑 (其二)

久留島武彦君講演

昨日は話の外面的準備とでもいふやうな方を主にも申上げましたが、今日は主として内面的の準備とでも申すやうなものを申述べて見たいと思ひます。

先づ組立から始めませう、話の組立といふことに付きましては、私が申すまでもなく既に皆様方は御経験になつて居りますこととありますから今更らしく申すにも及ばないことと思ひますが、併し此の組立が白からにして出来るとして、成るが儘に成すといふやうなやり口をして居りますと、達者になればなるほど、それが所謂悪る達者といふので、時に乗じ或は聴衆の都合に依りますと、思はざることと言ひ、飛んでもない脱線をして後に批評の種となつて自己の立場までも疑はれるやうになるといふことを、案ずるのであります、政談演説などで堂々たる大家が、屢々批難攻撃の材料となつて、終には進退をも賭さなければならぬやうなことになるといふ事實は能く吾々が見ることとあります、是などは所謂悪る達者で、準備なく出るが儘に出し、話さるゝが故に話して行くといふやり口であります、必要な準備としての組立からして掛つて居ないといふ一の證據と見るべきものであらうと思ひ

ます、此の事に付いて海外に於ける雄辯の大家或は聲望あり勢力のある辯舌者といふ者のやり口を調べて見ますといふと、如何なる小さい話をするのにも、必ず一度書いて見てやるといふのが最も間違ひのないやり口であると共に、最も少ない労力で多くの効果を擧げる唯一の方法であるといふことに一致して居る、何故書いて見るかといふと、其の前後、始、中、終、總てに付いて何處に目的が置いてあるか、どういふ釣合になつて居るか、どういふ段取で進むやうになつて居るか、此の段取が果して其の時其の場合其の相手に適するか適せぬかといふことを再考する餘地を與へられるのであります、此の段取といふものを先づ考へて見ますといふと、約五日六日は考へられると思ふ、此の組立に付て無論第一に吾々が持たなければならぬものは話の目的であります、斯様なることを申すといふと、目的なくして話す奴があるかといふことを言はれる方があるかも知れませぬが、吾々が話を聞いて居ると、何が目的であるか分らないといふやうなことが屢々ある、又演壇に立つて話を始める人が「私は今日は話す積りでなくして此所へ参りましたが、何か話せといふので取敢へず立ちました、何か暫く喋舌つて責を塞ぎます」といふやうに言はれる人が少なくない、言謙遜に似て居るが甚しく聴衆を侮辱し、又己れを低くしたものであります、何か話せ、何か喋舌つて以て責を塞がうといふのは、所謂無目的である、此の目的が無いといふことは萬更らないのではありますまいが、目的が誠に明確でないといふことは屢々ある、あれも話して見よう、之も話して見よう、取交せて兎も角十分なら三十

分、一時間なら一時間責を塞がなければならぬといふので、色々話して、さうして結局到達点は何處であるか、明確なる目的を有せずして話すといふことが今日少くないのであります、曾て倫敦に於ける或る名高い若い説教家が、自分の學校に居つた時代の先生が見えたので、今日こそ俺が雄辯を一つ聽かして驚かして上げようといふので、滔々懸河の辯を振つて盛んに引證該博、色々の事に涉つて論じ去り論じ來つて非常なる大雄辯を弄して壇を降つて後、老師に對して「如何でございますか、先生今日の私の出來は？」といふと、其の先生が苦い顔をして「誠に情けない出來であつた」といふ批評を聽いて聊か不満に思つた若き辯士は「併し先生、今日は私は餘ほど氣乗りがしまして、餘ほど勉めた積りであります」といふと其の老師が「さうだ餘ほどお前は勉められた、餘ほど駈廻つた、定め草臥れたらう、彼の道を通り、此の路を通り、四方八面の道を歩き廻つたといふことは間違ひないことであるが、併し其の道が倫敦に通ずる道を歩くのか、マンチエスターに通ずる道を歩くのか一向分らなかつた、吾々が道を歩き、道を通るといふことは、其の道の終局は何所に到着するかといふことを見て居ればこそ、分つて居ればこそ歩くのであるが、君は殆ど何所へ到達するか分らず、四方八面に唯だ道を探し求めて歩いたのに過ぎないやうである、さういふ色々の道を歩くよりも、坦々たる大道を一直線に何故倫敦なら倫敦、マンチエスターならマンチエスター、リバプールならリバプールへ行くといふことに君は氣を付けなかつたか、嘸ど草臥たらう」と言はれて大いに參つたといふ

話があります、之は聽いて居ればあなた方は當然のことだと考へてありませうが、是から後に人が壇上に立つて話す時に氣を附けて御覽なさい、其の人の目的が何れに在るか、話して仕舞ふまでに其の話の目的が何であつたか分らぬ話が度々ある、此の目的は最も雄辯の第一義として考へなければならぬことである、是から先づ極めて掛らなければならぬ。

材料の選擇、此の問題を以て話さうとするには、どう云ふ材料で話さうか、或は譬喩、或は實例、又は議論といふやうなもので、その材料を選べば此の目的を最も簡單明瞭に、而して的確に話す事が出来るが、其の材料といふ事に付いて考へて見ますと、實際世の中に立つて話をする人も材料から目的を拵へる人の多いのに私は驚く、目的から材料を選むのではなくして、材料から目的を拵へる、何か今度學藝會がある、或は保護者會がある、御話を願ひたいといふと、何か話をしませう、それから歸つて来て何か話す物があらうかと色々材料を調く始める、さうして之を話したならば面白からうと思ふと、それから其の材料に依つて目的を拵へる、之で徹底的の話が出来ようと考へるのは無論誤れるも亦甚だしきものであります、併し今日の實際を見ますと、材料から目的を捻出して無理に造り出す事が少なくない、其の材料は自己が持つたものでありますならばまだ宜しうございますが、他から借來つた材料を以て之に依つて目的を拵へるのは、即ち偽りたる精神上の働きてあります、そこで誠意といふものが缺けて居ればこそ徹底的に人の心を動かし得ないものであります、目的を立つて

から如何に材料を選べば宜いか、此の時に私共が先づ考へて見るのに、無難な考へ方は三つに別けたらどうかと思ふ、第一に主材、多數ある材料の中からどれを此の目的に對して主材として選ぶか、叙述にも時間にも言葉にも聲にも勢ひにも此の材料を話す時に最も勢力を集注しなければならぬ其の主材、其の次は副材、それは此の材料はばかりでは又理解力の鈍い者があり、又斯る話は適さない者には分らぬかも知れない、先づ添物を持つて来て、それで解釋をさせる、此の二つ相寄つて相助けて明確なものを意識せしむる、時間の都合と或は時の調子に依つて一つ二つチョット小話を入れる、所謂退屈を去らせる、注意の轉換を行ふ、乱れし場内を引締めるやうな事に使ふ材料があります、それは主材を助ける爲めでもなく、副材を助けるものでもなく、全體の上にホンの添へ物として付けるといふやうな材料が必要な事がある、之を私は假に添材と名を付けて見たい、此の三つを選んで、之に依つてどれが最も勢力を盡すべきか、どれは先づ好い加減に扱つて宜いものが、之は話しても宜ければ話さずとも宜い、時に依つて取捨選擇自由に任せる事の出来るやうなものを拵へて置きますと、始めて吾々は或る材料を以て話すのにも人に誤解を起さしめない、巧く此の添材を使つて面白い言葉或は形容を盡して話すと、聽衆は歸り路に、今日は面白かつた、本當にあの話は宜かつたといふ事になつて、よくその目的が徹底するが、往々添材だけ覺えて持つて歸るやうな事が能くある、二三日前或る雑誌を見て居りますと、田舎の人は仕方のないもので、此間帝劇の活動寫眞へ行つた、それはウイ

ヘルムテルといふ義民の頭領で、暴戾なる代官の命令に背き難く、唯一人の子供の頭に林檎を載せて代官の無情酷薄を示すのを、其の林檎を射る事に依つて現はす、林檎其のものは何でも無い、然るにそれを見た田舎の御内儀さんが歸り途に、今日は面白かつた、マア巧手にあの頭の林檎を射たものだ之が歸り途の話であつたと言ふのが出て居た、是ては惜い事にはこの芝居の最も主要である所の暴戾なる代官に對するウイールヘルムテルといふ者の義烈の精神は殆ど感じられて居ない、之が話の中にも能く出て來る事でありませう、日本の在來の色々の物を調べて見ますると能く認むる所で、例へば能狂言、能樂の如き、此の主材副材の差別はチャンと、シテ方、ワキ方として立派に立場が極めてある、シテにも前シテ、後シテとあつて、始めは僧形で現はし、後に金甲を被ぶり、薙刀を突いて出て修羅の苦患を遁れる事が出來ない、跡吊らひたび玉へなどある、かくの如く主材の内にも前シテ、後シテとあつて立派に目的が明確に差別されるやう、着物からして着方が違ふ、さうして前シテの時代には誠に見そぼらしき旅僧の形であつても、ワキ方とは全く違ふ、目的は何所までもシテ方ワキ方と明瞭に示してある、此のやり口を私共考へて見ますると、況んや形に現はすにあらざして、言葉に依つて耳から耳、言葉から言葉を受けて居る間に考へる外考へ直す餘地はない、此の講演といふものには此のシテ、ワキの主材副材の差別といふものは、餘程明確に段違ひに拵へて置かないと錯誤を起させる、混線を起させると思ふ、之を淨瑠璃で見ますると、日本歌舞伎の千代萩の政岡は即ち主材であり

ます、政岡の忠義といふ事を現はすのが眼目でありませうからして、其の忠義を現はす目的物として、副材が鶴千代君である、之ばかりでは忠義だといふ政岡がどの位忠義であるか、どういふ工合に忠義を現はすか分らない、茲に於て千松を添材とし、八汐を出し、仁本彈正を現はし、鼠、男之助といふものを捻出し來つて、之に依つて政岡の忠義斯る境遇の間に斯々の忠義の事もあつた、又斯うまでに形を變へてまで狙はれて居つた間に斯程までにして忠義を現はしたといふので、政岡なるものが明確に現はれて來る、さうして其の主材の政岡を現はせば現はす程副材が生きて來る、併し副材が餘り働らくと、此の副材の位置が主君で政岡より上にある位置でありますから、之は動ともずると主材の政岡を壓倒して仕舞ふ、茲に於て鶴千代君なるものは餘り働らかない俳優も單に子役で、子役の内でも働らきの鈍いものが置いてある、さうして此の心持を現はす所の千松といふものは子役の内でも小手の切れる働きのあるもので、之がズツと境遇を拵へて來る、茲に於て添材の働き方、副材の働き方に於ても、其の主材といふものから申しますると、副材必ずしも添材より上ではないといふ事であると共に、添材必ずしも副材より下ではない、併し自から此所に添材は添材、副材は副材で差別といふものが付く、何故かならば添材は取除けても差支ないものである、併し副材はある方が都合の好いものである、添材はあつても無くつても差支ないものである、あつても無くつても構はないものである、斯う吟味して材料を並べになつて御覽になつたならば、最も此の目的を單一明確に徹底するといふ

ことに付いて稍々成功に近いものといつて宜しい、目的、材料、順序、此の材料が極まりましたならば、次には順序を定めるといふこと、此の順序に付ては時と場合取捨の都合に依りまして必しも一言に申すことは出来ませぬ、目的を明確に先きに定めまして、後から之に排列を加へる方が宜いとも言へなければ、又排列を加へて例へば煉化を積上げるやうに頂上に重ねて行つた揚句に、始めて目的に到達せしむるのが宜しいとも言ひ兼ねる、能くお伽噺を子供に聽かせるのに、何は前に話すか、後にした方が宜しいとかいふやうなことがある、斯ういふ事が世の中にあるものである、それに付ては斯る話があるといふべきものであるか、どちらが宜からうといふことが、屢々御疑問になるやうであります、併し之は一概には極められませぬ、此の主材、副材、添材が極まりましたならば、之に依つて順序を立て、掛る、其の順序はもう諸君の御自由なる御撰擇に任せます、其の次は比例であります、斯うして順序が立つたものを見て釣合が善いかどうか、此の比例といふものは、話其のものゝ比例といふことを考へると共に、尙ほ用意として考へて置かなければならぬのは、他の話との比例も都合が好いか、此の点は特に私が諸君に御考を願ひたいと思ふのであります、それは能く學藝會或は保護者會などで此の比例を誤ることがある。故にどの話も皆ウツザリさせて仕舞ふ例へて言うて見ると、話其の物の組立、比例といふことよりも、此の一日の會合に於ける色々の人の話の間に於ける比例といふことで、材料として考へて見ると能く分ることでありませんが、前に長い話をされて、聴く

者は有益の話ではあつたが、どうも疲れたもう少し早く片付けて呉れたら宜かつたらうと思つて居ると其の次に又長い話をして、果して合点させるかどうか「ア、參つたナ、またか知らん」と思ふと三人目に立つた人が「私も幸ひなる機會でありますから、今日は十分平素から考へた事を申述べて見たいと思ひます」と懐ろから十枚も書いた物を皺を伸ばしながら斯う擡げられると「ウツァー、復た十枚か」と思ふ、始めのでも殺されれば、中でも殺され、終りのでも殺されて仕舞ふ、之は比例に於て著しく私共の考を要する点であります、前の人長い話をしたならば「私は今日は十分思ひきり腹に蘊蓄したことを述べようと思つて、實は此所に斯うして原稿を十枚拵へて來た、併し太分御疲れのやうに思ひますから、此の中の二三行を擧げて申述べます、ホンの一通りでありますから御聽きあらんことを……」斯ういふと、聴衆の方は腹の中で二三行ならば一つ聽いて見よう、是れて聞かして置いて「私はまだ申述べたいと思ひますが、畢竟前辯士に於きまして私の言はんと欲することを能く盡されましたから是にて此の壇を降りようと思ひます」斯うなると前も活き、己れも活き、次に出る者も活きる、所謂比例に依つて前後を活かすといふやり口で、之がどうも今まで私の實驗に依ると、比例に依つて皆な殺される場合が多いのであります、誠に話の組立に於ても主材が長い、副材も長い、添材も長い、どれが結局本文か分らなかつたといふことがある、之は鉛筆で一筆描きにあなた方が紙に描いて御覽になると、直ぐに此の比例が取れて居るか取れて居らぬか分る、此の比例といふこと

を見るのが一番好い材料で、あなた方が繪で御覽になることがありませう、此の繪といふものを見ますのに、初め初心の人が繪を描きますと、例へば尋常一二年の繪の好きな子供が繪を描きますのを見ると、比例も何も無く、一枚の紙に飛行機がある、雲がある、紙鳶がある、船の側に淺橋がある、上屋がある、時計臺がある、街がある、人力車、自働車、電車の網から番號まで書いてある、何も彼も悉く陳べる、さうして頗る混沌錯綜として何所が何であるか分らぬ、之が稍々進んで來ますといふと追々と物を減らすことを考へる、電車を描いて鳥を一二羽描いて、さうして時計臺の屋根の先きをちよつと描く、是だけで税關附近の心持といふものが出て來る、此の手前の方へ電車の線路を二本引張つて、遙か向ふを鳥が飛んで、こちらに時計臺の尖頭がちよつと見えるだけで、電車道、時計臺の通りといふことが畫面で分る、ホンの二筆か三筆で全體の心持を活かすといふやうなことがある、例へば杉を二本描き、三本描く、それから流れを描いて、さうして此所らに蒲公英一二輪といふものを描いて、遙か向ふの方に斯う森を描いて、是で廣い野原の心持といふものを能く示す、ホンの杉を二三本に蒲公英を一輪か二輪、それで遠く森を淡く描いて全體の廣い野原といふものを一面の畫面に收めて仕舞ふ、そこで矢張り話方も私は比例が良ければ最も少ないもので最も多くの意味を現はすと思ふ之を英語でイラストレートと申します、此の意味は話を描き出す、話を描き出すといふことは色を用ゐ、形を使つてベタ／＼と塗り廻はすことではない、副中心点と、添へものと、中心の三所がちやん

と備はつて、それで大きい心持を浮び出させる、之をイラストレートと申します、それでありませうから、あなた方は何かお話をなさる場合に、試みに話の習練として一面の繪を御覽になつて、其の繪を御話なすつて御覽なさると一番能く分る、ナポレオンが前に立つて居る、腕組をして小高い所へ來て下を見て居る、之に一番筆數が能く使つてある、さうすると其の斷崖下には幾千の佛蘭西兵が通つて居る、劍先さと帽先さがチヨイ／＼見えて、手を舉げてビブランゲー／＼陛下萬歳／＼と呼んで居る向ふにはウオートルローの野原が見えて居る、ナポレオンは小高い所に腕組をして身體は遙か向ふのウエリントン軍に向つて居るが、屢々視線は自己の脚下に通る幾千の佛蘭西兵の劍の上に向けて居る佛蘭西兵は陛下が彼所に立たせ給ふと見ると、均しく皆手を舉げ、帽子を振りながらビブランゲー／＼と叫び、其の先陣はズツと砲煙に包まれ、雲漠々たる彼方にはウエリントン軍今や最後の死生を決すると見えて準備をして居る、眼には見えませんが此の村を通る所の幾千萬の魂の、或は死に又は生きる所の大修羅場は彼方に待つて居るのである、一番自分の眼に映ずる印象の強い者から説明して行けば主材、副材、添材の比例が能く取れて居る、筆を費す事、描き出す事に於て畫家の苦心は、其の儘取つて吾々が話の組立に使ふ事が出来る、故に能く繪を其の儘囁目するに隨つて語れば一つの立派な話となる、之を考へて見ますと私共此の比例といふ事は實に大切なものであると思ひます、其の比例の次には情趣、之を外國では佳調といつて居ります、比例は都合好く出來て居る、材料も都合

好く出来て居るが、心持のない、趣味のない惜い事には館を鈍て打切るやうなブツリとしたモウ少し何とか味がありさうなものだといふ話をさくことがあります、情趣といふのは其の味であります、其の味を付ける、其の味と申しますと、繪には空氣といふものがある、昔の油繪を御覽なると、丸谷焼の茶碗、急須がお盆の上に載つて居る、如何にも能く描かれて居る、西瓜を縦横に切つて種の溢れ工合、其の白き筋といひ、赤き實といひ能く描いてあるが、昔の繪には空氣がない、物は能く描かれて居る、物の釣合ひも能く取れて居るのは認むる事が出来ませんが、其所に空氣がない、今の繪は左程能く描いたとは思へないひか、能く見ると木でもない、林でもない、ベタ／＼なすつたやうに見えるが、其所に空氣がある、向ふの森と自分との間に一種の雰圍氣があるやうな心持がある、チョツとした繪だが引立つて見える、話も亦斯の如く、其の比例に於て誤らずとも、其の全體の結構に於て正しくとも、此所に情趣といふものが缺けたならば、吾々は聴いて居つて如何にも蠟を嚙むが如くに感ずる、殊に人が群集的に集つた時には、其の人の立場は群集心理に制せられるものであります、少くとも二三十人以上の人が集まると、如何なる識者、如何なる學者であつても亦群集心理に制せられることを失はない、群集心理は情緒本位でありまして、推理能力といふものは殆ど制限されて仕舞ふ、此の情緒本位は群集心理に隨つて附和雷同性を帯びて居ります、感情的に、ちよつと人が悲しいことをいふと、覺えず附和雷同性を帯びて居りますからポロ／＼泣く、何んで泣いたか後から考へて

見ると、左程でもなかつたが、向ふの者が唯眞面目に胸にグツと詰つて來て覺えず目を摩すつた後の奴も目を摩つて居るといふので、自分もア／＼と思つて覺えずポロ／＼やるといふやうなことが、所謂群集心理、エモーションナル雷同性を帯びた所で、類推作用が盛に行はれてくるのであります、此の類推作用といふものを、宗教家或は雄辯家といふものが最も多く使ふのであります、之はあなた方が御聴きになつて、『實にあの人は能く惻々として人を動かす』といふのは其の人の話に譬喩、實例の多い所以であります、一般普通の人に理論を説き抽象的の話をして、之を理解させるといふことは容易のことぢやない、之には努力が伴ふので、努力には従つて苦痛といふものが添ふものでありますから何も肩を凝らしてまでも聴かうと思ふやうな篤志家は少ない、それでありませうから、隨つて自分もこんな話はまア善い加減にして置かうといふことになる、こんな場合には譬喩實例を利用して類推作用に訴ふることが必要である、例へて言うて見ると、之などは子供に最も能く當嵌まるものであります『左も弱つたやうな顔つきで向ふからやつて來ました』と言うても子供には分らぬ、『左も弱つたやうな顔つきで』といふことは、之は餘ほど推理能力が要る、弱はつた、弱はる、此の弱はるは勢力の少くなること、所謂疲勞を帯びたこと、筋肉が弛緩する、弾力が無くなる、總て無抵抗になるのが弱はつたといふことで、此所まで考へようといふことは餘ほど骨が折れる、併し之を類推的具體化して『蒼い顔でヒョロ／＼しながら向ふから若い人が來ました』スルとハア／＼成るほどさうだらうナと直ぐ

合点が行く、(左も悲しさうな顔で)といふよりか「涙をポロ／＼零しながら」といふ方が子供にも直ぐに分る、之は子供のみてなく、大人でも「非常に今日の世の中は大切な世の中でありますから、吾々の忠烈義膽を要する、何が故に忠烈を要するか、何が故に義膽を要するか」之を幾ら解説を巧くやつても、シツクリ嵌まるものではない、「今の世は第二の西郷を要し、第二の廣瀬中佐を要し、第二の藤田東湖を要する時代ではありますまいか」といふと、忠烈を言はず、義膽を言はずして、直に吾々は的確に其の人の語らんとする所、求めんとする所が直ぐに理解される、之が所謂此の群集心理について吾々が最も考へて掛らなければならぬ所であります、尙ほ此の群集心理といふことに付ては、二時間や三時間で申上げることが出来ずまいが、ホンの一部分だけ茲に添へて置きたいと思ひますことは、能く此の會場を拵へます時に、群集心理の如何なるものかを知らざるが故、兎もすると此の演壇から二間、甚しきは三間離して聴衆を列べるといふやうな場合が多い、學校邊りて會合を催しますといふと、多く此の演壇の下から大概二三間は離れて居る、立つた時に遙か向ふに居る、之は群集心理を使ふ所以でなくして、群集心理を使ふことの出来ないやうな設備と言つても宜しいのである、それからもう一つ斯ういふ例がある、廣い所にバラ／＼人が居る、『どうぞ御話ください』之て話して決して感動させることの出来るものではない、然るに同じ話をしても、其の人間を一つ所に固めて仕舞つて、さうして話すといふと、話しよくもあれば聴く者の方でも覺えず動かされる、然るにどうかしま

すといふと、男女席を別けたりする時に、此所が講壇、此席が講師であります、こちらが女子席、こちらが男子席、男子の方は集會者が多い、さうして真ん中に通路がある、こちらの方に是位男子席があり、女子は是位で此所にバラ／＼と這入つて居る、男子の方が餘り寄るのを嫌ふやうでありまして成るだけ離れて居る、斯ういふやうな工合の會合ほど話にくいものはない、さうして又聴く者も從つて動かされにくい、何故であるか、彼等は群集とならざるが故である、此所にも餘地があり彼所にも餘地がある、而かも是は後から尙ほ詳しく申述べますが、講演壇上の正面の筋に於て最も精神集注の中心点としてなければならぬ所に、明確なる餘地がある、此の餘地のあることが各々分立といふ意識を明確ならしめて、群集といふものにならしめない、随つて話す者も氣が乗らない、聴く者も氣が移らない、情味的附和雷同所謂感動性を帯びるといふことは甚だ難いのである、此の演壇から二三間離れるといふやうな口は、畢竟昔の儀式であります、努めて此の儀式に立つ人は偉く見せるやうに遠く離してアラの見えないやう、何となく其の人ばかりは特別の位置を持つて居る人と思ふやうに、高き壇を拵へて置いたといふやうな癖が、今日の通俗教育會殊に民衆に對する講演といふやうな場合にまでも、左様な型が残つて居る事でありませうが、どうか諸君が將來會合を催される場合は、儀式威嚴といふものが目的にあらざる限りは成るべく演壇近くに聴衆を寄せ、演説者と聴者を一つ心理状態に置き、聴者の求むる如く演説者も求め、演説者の求むる如く聴衆も求め、同じ群集心理の状態に置

いて彼等を直ちに共鳴せしむるといふ位置に置くといふのが必要であります、而して此の共鳴が仕悪
くない、最も思ひべき一つの設備は此の真ん中に通路を拵へるといふことであつて、男女の席を選び場
合に能くやられる事でありますが是程困る事はない、何故かといふならば、演説者が常に立つて叙述
を進める間に、右とか左とか或は上とか下とか自由に態度を變へて彼方此方の人を見、ピタリと自己
の立場に返つた場合に其の精神の集注する中心点は何所であるかといふと、此の真ん中で、之が群集
心理の真ん中でなければならぬからである、然るに其の群集が左右に別れて居り、ヒョイツと真ん中
を見ると誰も居ない、茲に於て自己は甚だ寂寞を感じ、自己と聴衆と離れて居る事を意識する、それ
に序であります、此の真ん中が置いて居りますと、正面の講堂が非常に見え易い、此の爲に聴衆の方
からいふと、演説者の顔より外に見えないのであります、演説者からは同じ群集心理以外のものが
見えませんから、絶えず自己が醒めたる立場に立つやうになつて話し悪い、ヒョイツと向ふを見ると、
玄關口に俵屋が来てお辭儀をして居る、ア、小使が出てやれば宜いにと立つて居つて見える等は演説
者をして益々話し悪く思はしめるのである、此の点に付いては後に會場の設備に付いて委しく申述べ
て見たい、其の次に考へなければならぬ事は自在性であります、此の目的、材料、順序、比例、情趣
自在性、是が整ひますれば、最早満足なる話というて宜しいと思ふ、此の自在性は何であるかといふ
と、時間の伸縮自在なる事、言語調子の高低、或は強弱の自在なる事、又は聴衆の精神反應に應じて

添材を加へ、或は副材を添へて行く、其の摺梅、選擇取捨の自在なる事である、其の自在性を缺いて
居る話が多い爲めに、現にモウ時間が迫つて居ると思ひながら、自分に何所を脱いて宜いか分らない
抜く事が出来ない、幹事はハラ／＼しながら跡に講師が見えて居るが、好い加減に止めて呉れ、ば宜
いと、眼で稻妻を出して無線電信をやつたりするが、中々止められない、持つて來た材料の半分しか
片が付かない、何所を脱いて宜いか分らない、それで頭仕舞ひまで自己もウン／＼苦しみながら片
付けて仕舞ふといふやうな事は能くあるのであります、此の自在性が先づ比例と材料といふ所で少し
考へて行きますと自在性が能く働くのであります、此の材料の種類は主材を缺く譯には行きますま
いが、或は副材或は添材、此所に自在性を負はしめる事が出来ず、時間があつたら之を話して聴か
せよう、餘り僕の話の聴かぬやうであつたらチョット添材を付けて聴かして見よう、或は場内へ這入
つて見ると、先づ自分は今日は謹嚴なる態度で話をしようといふ前に謹嚴に皆堅くなつて仕舞つて居
る、之はいかない、疲れて居るやうだから今チョット添材を付けてアハ、と笑はせて、崩れて、そ
れから這入らせて行く、斯ういふのが材料の準備とか、比例に依つて自在性で摺梅する事が出来るの
で、之は貴下方がお書きになつて御覧になると始めて分るものであります、書いて見れば自由自在、
貴下方が成程此所は脱く事が出来る、此所に斯ういふ事を添へる事が出来るといふ事が分りますから
此の点に付いては、私は是非話の準備として御書きになる方が宜しい、以上は具體的の話の組立の順

序でありますが、精神的に考へて見ると又立てやうが違ふ、彼のベルグソンの哲學中に「教授の心理といふ所に、最も徹底的に教授するには何を心得なければならぬかといふと、先づ期待心を起させなければいかぬとある」習ひたい、覺えたい、之を習ひ覺えたならば役に立つ、さうして之を知つて居ると自分は賢くなるといふ期待心を起させるといふ事がなかつたらば如何なる話でも、如何なる良き話でも之を聴かじめる事が出来ない、演壇上に立上つて話し始めると聴衆にこいつ面白さうだな、こいつ中々偉らさうだといふ期待心を起させるが必要である、私共今日まで實驗した所に依りますると、女生徒の期待心は、同情といふものに常に根ざして居る、高等女學校の生徒等は情緒的であるから「此の學校へ来て見ると實に美しい學校で、花園には藤棚もあり、池には魚が泳ぎ、さうして空には雲雀が唄つて居る、斯ういふ美しい所へ来て御勉強なさる皆さんは實にお仕合な方で、しみじみお美ましく思ひます」といふと「マァー——」此の調子で直ぐ此の先生の話ならば聴けるだらうといふ、所が中學生は全く反對で、常に反抗的である、講師の姿を見た時に直ぐ反抗的に出て来る、吾々が玄關へ車で乗り著けて往くと「ウン、ハイカラな奴が来た、ヤ、洋服か何か着やアがつて」と直ぐ反抗心を起す、講堂などへ這入るのを見て居ると、何時でも肩をいからして来て、それから腕組だ、壇上で幾ら校長が能く紹介をしても大概反抗的態度です、「諸君は奇麗な學校で御勉強なさつて御仕合せだ」などといふと、生意氣なことを言やアがるといふ風です、是にはこちらで拳骨を使はなければな

らぬ、惟ふに中學生の期待心の所謂反抗心を如何に叩き壊はし得るか、此所が重要なる点でございます「我輩は諸君の前に立つて語る資格はない」といふと「ウムさうだらう」と思つて居るといふやうな風をして居る「考は無いが、諸君が幾ら鯨鯨立をしても我輩に及ばぬことが一つある、それは龜の甲より年の功、諸君はまだ〜若い、我輩は其の点に於て茲に四十年の經歷を持つて居る、此の年所を経たる間に握つたものは、諸君が握らんとして握る能はざる所のもので……」成るほどさうだな、ガーンと一つ喰はして置く、そこで二つ三つ叩くと、此奴なか〜やるなと思ふと、それからすつかり聴いて仕舞つて呉れる、此の期待心を起させずに話を始めるといふと、終ひまで冷眼にして側面觀察でおしまひになつて仕舞ひます、之は餘程必要のこととあります、實に人を捉へるは初めの五分間にありといふことがあります、之は所謂期待心を起させることを指したものであります、總て普通の講話でありまして、又勸業演説といふやうなものでも、村役場の若い人、或は郡役所の書記さんが出掛けて行つても、何んだあの人が、能く俺等はその不斷の暮しまで知つてると思ふと、幾ら善く説いても——勸業問題を幾ら眞面目に説いても聴くものでない、若し茲に期待心を起させるやうに一つ「私はあなた方が知つてゐる通り、あなた方と一緒に遊んだ鼻垂らしてあります、私は斯ういふ風に此の壇に立つて御話をする資格はありません、況んや私が勸業などの話をあなた方のやうな年を取られて、鐵に嚙り附いて既に六十年といふ方々の前で話し得るのではないが、併し私ですらどうし

ても今立つてあなた方に言はなければならぬといふ御時勢になつた、之に付てどうぞ一言二言だけでも私の話に價がある、私の言ふことが良い事であると思召したならば、一つ御實行を願ひたい」といふと、さうだな、成るほど鼻垂らしてあつたが、さうか知らんといふ氣を起す、然るに突然「諸君、抑々肥料の改良は」とやると、生意氣な彼奴は田甫の一反歩も持たぬ辯にといふ風に、直ぐに反抗的に出られて仕舞ふ、此の期待心は實に必要なものであります、期待心に次ぐのが所謂満足、此の満足といふのは、成るほど聽けるなど思ふ心が段々と満たされて來るといふのと「ウムさうだ、聽き甲斐があつた」聽き甲斐があると此の満足の度が深いほど最後に來たる所の印象といふものが強くなるのであります、此の期待心と満足の二者が彼のベルグソンの教授法に心理として説いてあることは皆さん御存じのことです、又之は雄辯學者が話の組立、精神的の順序として考へなければならぬ順序であるが、どうも能く壇に立つて見えずといふと、前の人が五箇條か六箇條に別けて事細かに話をした、其の後へ出た者が復ると又「私も今日は考へて參りましたから、之を前辯士に倣つて五箇條に別けて話さうと思ひます」といふと、又五箇條かと思ふ、是をさういはずして、「前辯士は五箇條を説きましたが、私は之を要するに一つ、之だけで宜いと思ふ、それは眞面目といふことである」といふと成るほどそりやさうだ、約めれば眞面目に違ひないといふ所に纏めて説いて行く、さうして併し此の眞面目は何に基くかと言へば、所謂誠心誠意といふものでなければ眞面目にならない、其の誠

意は何ぞと言つたならば眞面目である、此の誠心誠意は間違ひないことであるが、人の心が能く眞面目になると、仰いて天に恥ぢず、俯して地に耻ぢず、吾々は俯仰天地に耻ぢざる所の神明の前に立つといふ考がなければならぬ、所謂此の三つのものが纏つて、段々段々説いて行つて、仕舞ひになると又五つ揃つて仕舞ふ、けれども、一つ／＼に此の期待心を活用して行く、之が所謂自在性ともいふべきものであります、此の点に付ては具體的、精神的は二つにして一つ、一つにして二つ、如何様にもなるものであります、此の精神的の順序、具體的の順序、二つが相俟つて始めて茲に吾々が組立といふものに付て、満足なる準備をしたといふことが出来るであらうと思ひます、然るに此の満足を與へず、況んや此の期待心すら起させずに、印象をばかり求めるといふ人が少なくない、「皆さんは孝行をしなければなりません、孝行をしますか」しますといへば、孝行をしなければならぬといふ印象がそれで與へられる、「どうも忠義を盡さなければなりませんぞ」之は命令に依つて印象を與へるといふもので、命令に依つて若し印象を與へんとするならば、諸君は私が「怒れ——オイッ」と言つたら皆なブツと怒ることが出來ますか、命令に依つて此の印象を與へるといふならば「泣け——」といへば泣く、言葉が短いか長いか、其の扱ひが強いか弱くないかといふことはあります、「どうせなければならぬのでありますぞ、どうするのだ」なんといふことは、期待もなければ、満足もない、唯命令に依つて印象を起させよう、與へようとするに過ぎない働きて、之は今日までの修身、或

は訓話といふことが、兎もすれば勞多くして、功少なき結果を見る一の原因ではなかなうかと思ふ、重要な印象を與へんとすれば、其の印象を受けさせる所の情緒的満足といふものを深く起させ、さうして始めてそれが印象になるものであるといふことを御考へ置きを願ひたいと思ひます、之て組立論は終ることに致します。

次には更に進みまして、今度は材料はどんな所から持つて来るかといふことについて話させよう、一體材料はどんな所にありますか、どんな物を見たら通俗講演或は社會講話に良い材料がありますか、何か其の材料を寄せた物はありますまいかといふに其の寄せた書物は決して少なくない、殊に此の佛教の方で今日まで色々な先輩老師の説かれた説教集、或は説教に使はれた材料といふものも種々ありますが、それを讀んで自己が直ちに使ひ得る材料があるかどうか、多くの人は之を繕いて一向使へるやうな良い材料がありません……無い筈である、自己自からが話さうと思ふ目的を持たず、自己自からが感ぜざる所に何の材料が出来るか、自己の無き所に蠻勇がある筈がない、耳の無い所に聲のある筈がない、眼の無い所に色のある筈がない、舌の無い所に味のある筈がない、如何に餘所から材料を持つて來られても、之を探らうと思ふ心がなかつたならば、どうして材料を得る事が出来るか今日まで宗教家の材料を調べて見ると、材料は眼前口頭にある、私の敬服して居るのは彼の救世軍の山室軍平と云ふ人で、殆ど一日二三回平均、一年に千回以上説教をする人で、非常に多忙な男であつ

て、有らゆる社會事業をやつて居る、又有らゆる傳道事業をやつて居る、其の話を聽いて居るに、常に、惻々として人を動かすのみならず、聽いて居る間にまで彼の鉦や太鼓の前に集つて悔い改めなければ居られないと思ふ位己れの胸を衝く、どうしてあんな活きた説教をするであらうと思つて、其の材料を考へて見ると、此の山室君の材料は今電車の中で乗合はして見た事、今其所の門口に起つた出來事、ホンの眼前口頭にあるものを悉く取つて材料として居る、此の人の口に觸れば悉く金玉といふやうな事を聽く事は珍らしくない、新渡戸先生の話を聽いても、何日も深遠の理論或は高遠の理想は語られて居ない、ホンの其所等にある材料を採つて居る、此の間或る所て私は聽いたので、西洋では人を尊敬するやうに宿屋でも出來上つて居る、日本は成るべく人を尊敬しないやうに——と宿屋が出來て居る、だから其の人が居ないと蔭口を言ふ、之はどう云ふ譯であるかといふと、先生の曰く『西洋の宿屋を見玉へ、自分の居る部屋の鍵を開けて這入つて仕舞ふ、女中でも戸を叩いて許しを得なければ這入れない、部屋の中で彼れはどんな事をして居るか分つたものではない、裸になつて居るか、引繰返つて居るか、何をして居るか分つたものではないが、彼が外に出る時、既に部屋の廊下に出た時は其の部屋の戸に鍵を掛けて、一人で居つた時に色々取乱して居つた其の有様は人に見せない廊下に出る、女中が居つても、部屋の中では女中に、からかふやうな客でも廊下に出れば構はない、乃公は客だ、彼は召使だ、身分が違ふ、女中は向ふの端に居れば、客は此方の端を知らぬ顔をして行

く、バルロアルにはピヤノもあれば客の安樂椅子もある、大きな額も掲げられ、室内の裝飾も出來て居る、客は何れも其の身分境遇に依つた相當の服裝もして居る、或は食堂に行けば樂師が居つて盛に樂を鳴らし、食事をしながらも愉快に食べられる、それであるから人にも尊敬され、己れも自重せられ、食べ物も心持ち好く食べられる、之に反して日本はどうだ、部屋の中には木魚然とした厚い座蒲團がある、脇息が置いてある、床の間には何百圓何千圓といふ置物があり懸物も掛けられ、さうして金屏風を建て廻し、茶器或は其の他の調度にも總て立派な物が置いてあるが、其の人の顔を洗ふ時を見玉へ、寢衣で細帯で、さうして洗面所へ行くと何所の馬の骨か分らぬ者がガー／＼、ゲエ／＼口の端を齒磨粉で眞白にして、眼はまだ洗はぬから朦然として便所から出て来て顔を洗ふので、お互ひに列んだ時に忌にゲエ／＼言ふ奴だ、風呂へ這入つて見ると、身體は極めて黒い、脊中には灸の痕がある、不細工な身體だと思ふ、跡で聞いて見るとあれは某大臣の秘書官である、あれは何所其所の高等官である、あれがさうかといふやうな事がある、其の人の部屋へ這入るのには、取次がなければ這入れない、闖越しに手を仕いてお辞儀をしなければならぬやうな格式を構へて居る、殿様の如くであるが座敷から外へ出て、廊下へ出るとか、便所へ行くとか、公衆と共に居る所へ行くと、寢衣か浴衣がけてある、公衆と一緒に居るやうな所では非常に品の悪い人の尊敬をしないやうな、尊敬をされないやうな、アラの見えるやうな風に、宿屋でも出來上つて居る、西洋は之と全く反對で、一人て居

る時は構はぬが、公衆と共に居る時は其の境遇に應じた服裝なり、何なりして居るから、堂々たる大紳士のやうに見える、日本は反對になつて、彼奴は斯ういふ弱点がある、彼奴は斯ういふ蔭に薄暗い事があると、其の者が居らなければ悪口をいふのが日本の極りである、向ふはさうでない、斯ういふ材料を持つて來て新渡戸先生の口を藉りれば茲に國民性の一つの材料として解釋され、立派に之が話材になつて居る、材料を選むのに如何なる所から採るべきかといふ事は、畢竟自己の居らざる所に蠻勇なしといふ事を御考へなすつたならば、材料は其所にも此所にもある、諸君が農村に於て語られる所の材料は成るだけ郡内を出でず、出來るならば村内の彼等の日常盛に經驗して居る所の範圍といふものを使はればそれだけ働らきのあるもので、又値打のあるものであらうと思ふ、私は材料に付いては餘り御苦心なさる必要はない、それよりも考ふべきは自己の心の方が大切であると思ふ。

次は場所會場といふ事に付いてあります、之は會合の性質、話の性質等に依つて違ひますが、先づ吾々は之を三通りに別ける事が出來ると思ふ、第一は學校第二は寺院第三は劇場であります、學校と同じやうな意味を有する所は公會堂、郡會議事堂といふやうなものであります、此の會場は通俗講演に取つては最も考慮を要するものでありまして、此の會場の不注意といふ事が今日まで不徹底なる働きの大部分の責任を負ふものではないかと思はれる、此の會場に付きましては、内の問題と外の問題と二つに別けて考へることが出來ます、要するに人が這入り易く、さうして聴き易く、さうして聴

いて受けた印象を何時までも保存したいといふことは論を俟たぬことでありますが、私共の實驗に照して見ますと、場所に依つて同じ話をしても全く違ふ、最も群集心理に罹り易い子供、其の精神上に受けた影響を最も赤裸々に發表し易い子供を標準として見ますと、講堂で話をしますと、其の話が如何に滑稽な如何に笑を主とした話でありませうとも、講堂から出て玄關から吾々が車に乗つて歸へらうといふやうな場合にありませうとも、其の姿が生徒の目に映つるといふと、運動場の隅から隅、八方から駆け集つて來て、帽子を取つてお辭儀をする、ズツと車の行く両側に門まで子供が列ぶ、其の駆け附けた子供が、同じ人が寧ろ精神的の硬い話をしても、劇場で話をする、門口へ講師が出ますと、此の姿を見て子供がやつて來ることは同じであるが「ア、此の人だよ今話をしたのは」と人の鼻つ先へ指を突き付けて「此の人扱ひにする、講堂でした話と、劇場でした話と何等の差別は無いのであります、其の精神上に受ける影響が斯く違ふのであります、所謂場所が如何に人に影響を與へるか、之に因て吾々は話す話の種類と、其の目的と、又集まる會衆の立場、或は彼等の考といふものを標準にして、場所を撰ぶといふ必要は最も先きに考へなければならぬことである、それに農村の今まで説教以外に聞いたことがないといふ民衆を集めるのに、三つ或は四つの字を寄せる村の隅から隅までは二里乃至三里ある、其の中心点として拵へた所の會場は近きも七八町、遠きは十二三町ある田甫の眞ん中にある小學校に始めて民衆を集めて「何故來ないだらう、折角遠くから講師が御出下すつたのに

どうも集りが悪るい」といふやうなことを言うて、頻りに、コボして居られる先生達がある、集まらぬ筈です、集まりにくい所へ集めようとする、集つても心持の悪るい所へ無理に集めようとするから、集まらぬのが當然で、集まる方が不思議である、之が會合の性質、或は段取に因て場所を考へる必要のある第一であります、又、寺と學校では違ふ、寺と劇場では更に其の違ひが甚だしい、此が餘ほど考へものでありまして、總て仕事は開拓的に始めると共に、之を完成して行くといふことを忘れてはならない、此の開拓作業と共に完成作業此の二つの異つたる意義を一つに連ねるのには、餘ほど周密なる準備といふことがあります、多く今日までの我國の通俗教育のやり口を見ますと、開拓作業なしに完成作業へ一飛びに飛んでやつて居る、善い事だから聴く筈だ、爲めになる事だから集まらなければならぬものだといふので、いきなり其の場所、其の時其の相手といふものを構はずに、兎に角その範圍でやつて仕舞ふ、之は多く學校を會場とする所以でありませうが、私は今日の通俗教育會といふことを基礎にしまして、殊に其の初歩であればあるだけ、又始めて計畫されて間もない所であればあるだけ、此の會場を選び、會場の性質を考へることが必要であると思ふ、此の点に付ては特に私は諸君の御便宜から申しますと幾らか御都合がありませうが、寧ろ聴く者の方を聊か考へて戴きたいと思ふ、集まる者の都合、それから集つた後の彼等の心持といふものを考慮する必要の方が多い、如何に善き事であらうとも受けようと思ふ者の心此に在らざれば、與へても受けるものでないといふこと

が眞理でありますならば、彼等をして先づ受ける心持ちを起させる、受ける間だけでも、せめて居心地、善い感じを持たせると共に、其の集まる所は彼等の熟した所集まり易き所、集まるに氣骨の折れないといふやうな所を選ぶといふことが必要であります、それには私は劇場が一番宜いと思ふが、劇場にも前に申しましたやうに、精神上の印象に於ては弱点が非常に伴ふ、人が集まり宜い誰でもちよつと覗いて見ようといふ考があるだけ餘り重く之を見ないといふことがある、其所で聞いた話を軽くするといふことがあります、併し話が一度で徹底的に頭に這入るといふことは容易ならざるもので、度々度数を重ねる間に自然に開發して行くものであることを考へますれば、先づ吾々は開拓作業には劇場の如き人の集まり易い、集つて彼等の居心地の善い所を選ぶといふ必要がある、劇場の無い所は其の意味に於て私は寺院が一等であると思ふ、之には學校の持つて居る威嚴と共に、劇場の持つて居る通り其の場所に馴染んで居るから集まり易い、足を向け易いといふやうな一つの特質を持つて居る此の点から言ひますと、今日僧侶諸君は此の通俗教育には同情を願ひたいと思ふのであります、寺院でするやうになりますと、自から其の聴いたことが、一向詰らない笑ひ話でありまして、其の受ける所が銘々の精神上に影響して、其所で聴き取つた話の働きの上にまでも及ぶものでありますから、私は第二は寺院が最も適したものであらうと思ふ、第三は學校であります、斯の如く學校なるものは今日は通俗教育會の場所として最も不自由でありますから、此の學校へ人を集めるといふことは餘ほ

ど設備を善くし、餘ほど接待を厚くして掛らなければならぬのに、學校へ御集りになる時に於て、斯う接待らしい接待を見せられたことがない、其の場所の構へ方に於ても、四間に五間といふやうな、教室三つ位を打抜かれるといふのが普通であります、其の外に廊下がある、正面に近き廊下の所に出入口があつて、これが引違への一間の戸です、此の戸の側に校長が斜前向きに腰を掛けて居る、其の下に職員が居り、向側に講師、其の下に郡教育會長、來賓席があつて、さうして一般民衆は前面に位置を取つて居る、所が先づ場内の設備を見ますと、農村の人——半日畑に出て、或は一日鋤取りをして家に歸つてから、切めてゆる／＼寛ろぎたいといふ人を招ぐのに、彼等は胡座も組めなければ、足を伸ばすことも出来ない、子供の幅の狭い腰掛を持つて來て列べる、前に膝を出す、打付かる、足を締めやうにも足は長くて縮まらない、さうして尻の幅の狭い窮屈で堪らぬ所へ腰を掛けさせられて居る、さうして煙草盆一つない、それから便所へ行きたい、一体便所は何所か分らぬ、チヨット廊下へ首を出して見ると、廊下が長い三十間も四十間もある、ア、長い廊下だ、是ぢや家の子供が時々疎忽するのも無理はないと思ふ、行つて見ると子供の穿いた鼻緒の切れた草履が二つ位置してある、殊に夜などは出這入り口に薄暗い提灯が置いてあつて、下駄を何所へ入れて宜いか分らぬ、出這入り口の指示もなければ何所へ仕舞つて宜いか分らぬ、其の世話を焼くべき學校の先生達すら場内に居らない、時間勵行といふやうなことをいはれて來て見るとポツンとして居る、見ると玄關の正面に

は燈火が輝いて向ふには講師、幹事、郡役所の御連中が居るやうだ、チヨイと覗くとビールに脂が出て居る皆煙草を喫んで居る、出て来いといふから出て来て見ると、薄寒い所にまだ始まらぬで待たされる、五分心のランプが儉約的に引下げられて薄暗い、實に心細い待遇を受けて、これで民衆が出て来ると貴下方はお考へてあらうか、先づ聴く心持になるかどうか、兎に角聴く心持で来たと假定しても、斯ういふやうな位置である、所が壇上で講師が話をして居る、聴衆が聴いて居るのに、時ならぬ來賓が出入口の戸をガラ／＼と開けて這入つて来る、校長がいきなり椅子を出して『どうぞ此方へ／＼』さうすると講師の顔を來賓は會釋をして通つて行く、さうして來賓席に著くときに、手早く著いて呉れ、ば宜いのにマア『貴下々々』とやる野良で喋舌ると同じ大きな聲を出して『どうも御無沙汰をしました』『イヤ私こそ、此の間お寄越し下すつた大豆な……』『大豆の相談を始める、私は新潟邊で出會ひました、此所で幾ら話をして居つても、ガラツと入口で閉められる音といふものは此の講演壇上の聲より高い筈であります、幾ら此所で態度を極めて居つても此の三間の間、腰を低く會釋して講師の前を行かれるのには閉口する、尙ほ考へなければならぬのは、此の會合の責任者である校長の行爲であります、此の經營者がどの位此の會合全體の責務を負うて居るかといふ事を考へて掛つて居る人は殆どない、來賓が来れば來賓に應酬し、小使が来れば小使に應酬する、實に軽い動作をする爲に此所に重い講師の話があつても、絶えず此所で五割七割は割引されて仕舞ふ此の位置は此の

講演壇上に取つては講師の位置と、其の責任と統轄の力に於ては二分の一であります此所に立つて話をして居る講師は、經營者からいへば手段であります、道具であります、材料であります、經營者はある目的を遂げようといふ爲に、講師といふ手段に依つたので、いはゞ講演壇上の講師は經營者が尻押、後見をして彼所に立たしめて居るものである、それでありますから、若し一朝此の講演會場内に何事か起つたときには、直ちに之れを處置しなければならぬ、色々な責任を負はなければならぬ者は誰であるかといへば、講演壇上の講師ではない、校長或は經營者である、それでありますから、之れが聴衆に意識されて居ると、意識されて居らぬとの違てはありませうが、あの位置は實に鹿島の要石、彼の座り方の善悪は全體を引締めますれば、講演壇上の講師の話も有効ならしめる所のものであります、此の位置ほど大切なものはない、それを一入て居るが如くに椅子を横向きにして、來賓を向ふに送り付けて居る、今後會場内に於ける設備を改めなければならぬのは此の椅子であります貴下方は講師の尻押をして、一つの目的を遂げる爲めにやつて居るのであります、貴下方が此の講師を御勤めして貴下方の爲めになるやうにするので、貴下方は聴衆に對して責任を帯びて居るものであります、此の位置こそ寧ろはすか、いに来るならば之は後見役の位置として校長は頑として腰を掛けて居つて宜しい、何故はすか、いに来るならば之は後見役の位置として校長は頑として腰を掛けて居る威嚴、責任、統轄といふやうなものは此の校長が負擔するものである、が併し校長は尙ほ校外、此の

會場外の責任を負はなければならぬ、或は村役場から電話が掛かるとか、或は臨時に父兄の問題に付いて使が来るとか、色々の問題が起つて来る、それに對して一々立つて行くやうでは困るから、戸の外の所には首席訓導か或は氣の利いた訓導を一人置けば宜しい、詰り活動的の責任は總て此の首席訓導が衝に當つて、大抵の事は校長に代つて處置されてよいのです、此の戸を開けると人の注意を紊だすから之を校長に通ずるにも或は自分が校長に接觸して其注意を紊ださせない爲には其の要点を名刺にでも書いてソツと窓越しに此所に居る職員に渡して、職員から校長にソツと渡せば宜い、校長は腰掛に居て知らぬ顔をして見て居る『それならば斯うするが宜からう』と書いて渡して、自己は職員の上に通轄能力を持つて居る者だといふ位置をキチンと守つて居りましたら、場内の秩序はキチンと引締まるものである、さうして此の首席訓導に處置をさせる、特に正面に近い入口の附近ほど弱点多い所はない、多く農村の子供が乱入する、澤山這入つて、さうして子供を泣かせる、ドタ／＼跳ばせる、實に騒々しい、それに又時間遅れて講師の前を通つて農村の名譽職など行く或は女中がやつて来て此の戸を開け掛ける等のことがあるから此所はどうしても最も警戒を加へて居る所でありませぬ、此邊の責任を脊負ふ者として、此所て『静かにして下さい、或はこちらの方を御廻り下さい』といふ風に處置する職員を配置して置けば宜い、一體を言へば校長の下に職員席を拵へて置くのは間違ひと思ふ、職員は此の會合の計畫者である、校長の手となり、足となつて、共に此の會合を有利ならしめ、

有價値ならしむる責任を分擔しなければならぬものである、それが一定の場所に椅子を列べて聽いて居るなどいふは以ての外で、校長が全責任を脊負つて或る位置を占め、首席訓導が出入口附近に居り、それから室内の整理の爲めに所々に配置されるといふやうな工合にして居つて、絶えず校長の眼を見て、對角線的に校長と意思の疏通をやり、其の範圍内に起つた事柄を便宜處置をさして行けば全體を樂に整理することが出来る今日まで一も斯ういふ風に整理なんぞが出来ないから、唯校長が或る位置に居りまして、職員は知らぬ顔をして居るといふのも、畢竟校長がさういふやうな工合に働かせることが出来ないのぢやないかと思ふのであります、此位置を一つ御設計を願ひたい、それと共に來賓席といふものは又厄介な問題で、此の來賓席と職員席とを向ひ合はせにした、此の形といふものは事實通俗講演會の會場ではない、訓示或は儀式などの場合に威儀を整へる爲めに排列した位置である、即ち是は威儀の座である、通俗教育に威儀の座は不必要である、殊に來賓席に腰を掛けるやうな連中は、實は農村に於て最も教育を授けてやらなければならぬ者が多い、然るに其の來賓席に腰掛けて居る者は、俺は來賓だからあの話をあゝいふ芋殻共が聴くのだ、斯ういふやうに考へて居る、此の位置に腰掛ける者は、ちゃんと初めから腰掛けて居つて呉れれば宜いが、時々離れられては一番不安固の位置で、講演の邪魔をし、講演の目的を破壊する位置であります、それでありませぬから特に來賓といふやうな者の席を拵へなければならぬならば、聽衆よりか半ば近き位置に引下げて置く、さう

して此の來賓席に入れるには後ろの方から此方に案内して著かしむる、萬己むを得なければ此の中央に一つ道を開けて置いて、さうして此所から著かしむるといふやうな方法を執りましたならば恐らく今まで見るやうな不安固のことはなからうと思ふ、殊に私共が考へなければならぬのは、講演者の方から申しますといふと、此の壇上から九十度以内の角度の内側と此の内側で起る聲、或は形といふやうなものとは此の聴衆の中心点から視線を動かさずして樂に眼に映ずる範圍、耳に聴える範圍であります、其所で或る出來事が起つたとかいへばちやんと分る、壇上の人と少しも選ぶ所はない、眼に這入り、耳に聴える、だから其所へ出這入りが二三回ありました時には、あなた方三分の一位の視線は常に此所に注ぐ、既にあの位の位置ですら注意を紊だす、況んや之が此の左右の九十度の角度以内に起つた事てありますれば、あなた方の注意は正しく即座に破れて仕舞ふ、之を考へて見ますといふと、此の九十度の間といふものは、講演者の意思にあらざるよりは、風も動かさず、空氣も通さず、況んや形ある人の如きものは少しも動かぬやうに確實に保護して置かなければならぬ、詰り聴かしむる爲めに、注意を紊さざらしめんが爲めてある、所が此の間が一番今まで不安固、一番大切な所が不安固で、此所に來賓席がある、さうして此の來賓の後ろと思ふ所に窓があつて、さうして風が吹いて此所にブラ下がつて居る演題を書いた紙が講師の後ろでヒラ／＼動く、窓掛がバタ／＼する、聴衆は窓掛或は演題を書いたヒラで始終注意を紊だされて居る、さうかと思ふと、又自分の家から使の者

が走つて来て「旦那様——」など、後ろで大聲で呼ぶ、此の所へ這入つたり、又は此所から手などを出して「あの小作を納めに來ました」と大きな聲をして呼ぶ、實に之はその險呑極まる位置である、それでありますから私がどうか是非御實行を願ひたいと思ひますのは、此所の入口に貼紙をして「締切」と同時に指の繪を描いて「あちらへ」とでも示して、此所に一人誰か置いて廊下全體の處置外から來る者と應酬したり、臨時に起る出來事の處置といふやうなことや、校長の意思を傳達する役目といふものを總て此所ですることにしたいと思ふ、それで職員は場内に對角線的に配置されて、是へ案内される來賓の位置は成るべく上手から中央の方に引下げて仕舞ふ、此の來賓席に往復する——出入するには此の聴衆の半ば程より後の方から出這入りをするやうにありたいと思ふ、それと同時に尙モウ一つ考へて頂きたいのは、此の眞ん中に道を拵へない事てあります、之は先程申上げた群集心理の上から申しまして、此所に明けてあると動ともすると之を往復する人がある、私は嘗て能登の宇出津といふ所で講演をして居りました、土地の警察署長と隣りの町の警察署長と二人這入つて來られて、それが恰度乃木大將の御訓話か何かで、御話をした時でありまして段々精神をズツと引上げて、此所が大事といふ肝腎の所へ正面から其の署長が——能く警察の方は靴を御脱ぎにならない、如何なる所でも靴を穿いてコトリ／＼とやつて來られる、ア、悪い所へ來られたと思つた、所が其の入口に立つと職員が「どうぞあちらへ——」之は私は不注意の大なるものだと思ふ、肝腎の話の要点を理解す

る能力を持つて居る者が邪魔させる『どうぞあちらへ——』署長は真ん中を通つて壇の正面……講師の正面に這入つて来るのだから署長でも澄まして席に著く譯には行かない、正面に這入つて來ると擧手の禮をされた、私はどうも受けざるを得ない、仕方がない話を止めて答禮をした、七八分後れて隣り町の署長がコトリ／＼やつて來て今の通りにやられた、私は二人に敬意を拂はれた爲めに此の全體を虐殺されて仕舞つたといふやうな事がある、此の真ん中に道を開かれたるが故に起つた問題でありまして、斯ういふ點は自から總ての働きを弱からしめる端緒になるものでありますから、深甚の御注意を願ひたいと思ひます、道を拵へなければならぬ場合でありませう、此の左右に拵へて置けばよい夜間でありませうとモウ少し會場の設備に付いて考へなければならぬ事は燈といふ事でありませう、場内の明りは原稿を見る爲に都合が宜ければよい、場内はさう明るくなくても宜からう位で、講演者の顔の正面あたりに一つランプを釣られる、それから中央から向ふに少し下がつてランプを釣られる、斯ういふ時程話にくいものはない、私は話といふものは話すものと聴く者とが二分の二、精神を持寄つて、さうして一つの仕事を、謂はゞ合資組織のやうなものであると思ひます、此方の顔も能く見て貰つて如何に此方の精神が顔、眼、態度に現はれて居るかといふ事も知つて貰はなければならぬが、又聴く者が如何に共鳴して居るか、どの位理解して居るか、其の程度も能く知る必要があるのであります、兩方とも顔の明るい必要がある、動ともすると演説者の顔ばかり極めて明るく、聴

衆の顔が甚だ暗いといふ事がある、之が餘程避けなければならぬ事で、場内を隈なく照らす事が出来れば申分はありませぬ、隈なく照らす事が出来なければ、講演者の顔の明るい程度に聴衆の顔も明るくする、それと共に場外も明るくする、之は最も大切の事のやうに思はれる、一番學校に集る民衆の不安を感じる點は出這り口であります、此の出這入りには僅か會合の始りと終つた時と二度しか使はれないといふ所から、其所には監督も置いてない、薄暗い提灯がランプが點けてあるだけで、何所へ下駄を置いて宜いか分らない、日本人の下駄に對する懸念、之は餘程會合を催す者が考慮してやらなければならぬ問題であります、此の下駄問題が常に此の講演の最後の決定といふものを破壊して仕舞ふ事が多い、早く出ないと乃公の下駄は盗まれる、誰かに穿いて行かれるといふ懸念がある、折角昨日新調の下駄を穿いて行かれやしないかといふ懸念は非常なものであります、講演が終り際になるとモウドカ／＼立つて出掛ける、さうして揉合ひへし台ふ、それ程急いで歸らなければならぬ人かと思ふとさうぢやない、出て仕舞つてから一町も行くと、長い／＼小便をして悠々話しながら歸るといふ、之などは全く出口の下足問題である、私は場外の明りといふ事に付いても餘程考へると共に、此の場外へ出た時に彼等を靜かに退散せしむるといふ事が話の印象を深からしめ長からしめる所以でありませう、それに付いて良い例を見たのは肥前の五島といふ所でありました、其所の有川村では五島鯨といつて鯨が捕れる、御婦人の用ゆる珊瑚珠が盛に取れる、其の五島へ行つて見ますると、青年團といふ

ものが此の出入り口の明りと場内の取締りといふ事を身に任じてやつて居る、最も私の感心したのは出掛けになると、どうするかと思つて居ると、私が演壇から將に講話を結んで降りようとする時になると、モウ此所等に居る者は立ち掛けた、立掛けると、此後ろに何時の間にか這入つて居つたと見える、青年團の者が細長い提灯を點けてそれをズツと差上げ立たうとした頭の上に明るい提灯を七八つ差上げられ『チョツとお待ち下さい』極りが悪いからズツと皆鎮つた、其の間に校長が立つて『誠に御苦勞様でございます、是で静かに御引取り下さいまし』さうすると青年團が先きに立つてソロ／＼外へ出た、續いてドウと出た、私はモウ少し青年團が氣を注げて呉れれば宜いと思つて外を覗いて見ると、更に感心したのは、此の出た青年團が此の學校の横から皆溢れて出て来る、正面に提灯を點けて、ズツと半圓形に列んだ、下駄を穿いて皆駆出さうとする正面に『御苦勞様どうぞ御静かに』と正面に青年團が提灯を點けて七八人列んで居るから、『イヤどうも貴下方も御苦勞さま』、『御苦勞さまお静かに』ソロ／＼引取るやうになつた、學校に石段があります、其の石の段に三人提灯を點けて居ります、其の學校から二町ばかり行きますと部落があります、其の部落まで四五間置きに青年團が七八人提灯を點けて居る、駆出して行つて先づ此所で用を足さうとすると、青年團が提灯を點けて『ヤー御苦勞様』ズツと澄して歸つて来る、さうなつて来ると、年寄は流石に青年の前で相濟まない事をしたと思ひ、又斯ういふ所で見苦しい事をしちやならぬと思ふから、兩方互に感謝しつゝ、互に『御

苦勞様、』といひながら静かに一と流れ部落に這入つて行く、私は之を見て、どうも青年をも喜ばせ、老人をも感ぜしむるものである、相互斯の如く扱はれてこそ始めて話の印象、話の精神が永久に續くことと思ひました、此のやり口は私は農村に於て最もやり易いことと思ふ、燈火問題で燈火を働かしむることは、燈火が消えれば下足といふ點で最も著しい責務を持たしめ得ることでありますからして此の點は少し御注意になりましたならば、話の効果の存続といふことに付ても思半ばに過ぎることであらうと思ふのであります、段々時間が迫つて、まだ申上げる要點を十分盡さぬのであります、會場は此の位に致して置きます。

其の次は講師の選擇であるが之が甚だ不詮索で、『兎に角宜からう、誰でも宜い、どなたでも宜い』といふやうな譯で選擇される、いよ／＼講師がきまるそこで講師から何んな話を御求めであるかと聞かれると又それに對して『何でもあなたが善いと思召す所を御話し下さい』といふやうな事が往々あるこんなことで農村の開發が出来るかどうか、人は誰でも宜い、話は何でも宜い、あなたの思ふ所を言うて下さい、何所に目的があるか、之は私は無目的と謂はざるを得ぬ、目的があるならば何故目的に適ふた講師を見極めを付けて招き、さうして其の講師が目的に適ふと思つたならば、尙ほ自己の目的を明確に提示して『此の村は斯ういふ村である、今度の會合は斯ういふ會合である、今度の集會は斯ういふ目的を持つて居るのでありますから、どうぞ御話の材料は御隨意に御選擇下さつて宜しうござ

いますが、此の目的を果す爲めに御招きしたのでございますから、其の御含みて』と云うて下すつたならば、先づ以て甚だ話の良い案も立て易いのであります、併し何でも宜しいといふやうな所ほど、又話しにくいものはない、さうして此の講師が實はあなた方の手段であり、道具であるといふことを考へたならば、此の自分の使ふ道具の如何なる性質であるか、如何に働くものであるかを知らずして使ふ程大膽な、又無鐵砲なことはないかと思ふ、然るにどうも今日まで私などが講師として參つて見ましても、何の爲めに招かれたか知らんことが屢々ある、一體此の材料をどういふ工合に使はうと思つて此所へやつて來られたか知らんと思ふことが屢々ある、今日多くの通俗講演會の會合は講師が目的であるか、或は聴衆が目的であるか分らぬことが多い、之を明確に御考へ置きを諸君に願ひたいと思ふ、講師は計畫者が無ければ自分の道を天下に布かうと思つても、民衆に觸接することは出来ない、計畫者は講師といふものが無いならば、自分の目的を公明に徹底せしむることは出来ない、そこでありますから、計畫者から講師を目するときは講師は手段であります、講師から計畫者を目するときは計畫者は手段であります、相互關係は手段關係であります、如何に自分に一の考へる所があり研究する所があつても、之を以て天下の人民を指導して見たい、此の道を天下に布いて見たいと思ひましても、計畫者といふ手段が無かつたならば、講師が如何に高き理想を有して居つた所が之を働かせることは出来ない、此の相互手段が、俱共に目的とするものは何であるかといふと聴衆であります

す、然るに今日講演會の實際を見ますといふと、聴衆を接待することが重いか、講師を接待することが重いかと考へて見ますと、殆ど此の會合は講師の爲めに會合を開いたかの如く見える、講師の接待は至れり盡せるものがあるに反して、聴衆の接待は殆ど棄てゝ顧みず、先きに申しますやうに、燈火から煙草の火、便所の手當、出入口の設備までも殆ど等閑にしてある、講師に對しては唯だ後れざらんことを是れ恐れるといふやうな工合で、或は火鉢、茶菓子、又酒、肴を以て之に供し、甚しきになるといふと、是から民衆を訓戒してやらうといふ會合に、酒を出し麥酒を出して之を接待する、酒氣を帯びて講演會場に臨む、こんな不覺悟、こんな不心得なることで、到底民衆を改めることが出来るか、酔ばらつて人に話しても誰が聴くか、顔を赤くして人に話しても誰が聴かれるか、大事な精神事業をするといふ前に酒を飲み、鮎を食うて此の薰化事業といふものが出来るか、是が殆ど名士接待の爲めの會合であるかの如く私には見える所以であります、それで講師の話が終りますといふと、講師は手段である、それでありませうから、禮を言ひたければ聴衆に言ふが宜しい、然るに目的である聴衆の方は閑却して、手段である講師が壇を降りるといふと、計畫者は立上つて『今日は誠に有益の御話をなすつて下さいまして一同と共に有難く御禮を申し上げます、どうぞ此方へ』と手段が手段を案内して引込んで仕舞ふ、さうして目的は其の儘ほつたらかして仕舞ふ、是だから先きを争つて『馬鹿くし』と跳び出すは當り前と思ふ、目的を考へるならば、手段に挨拶をする前に何故目的に挨拶をし

ないか、『今日は御忙しい御農繁の時に迎も御出ではなからうと思つたが能うこそ御集り下さつた、併し學校の設備が足らぬ、火も無し、便所の方もあゝいふ風に汚ない、腰掛けも誠に足らぬこととあります、能う長い間御窮窟を忍んで御聴き下さいませ、講師も定めし御満足であらうし、計畫者たる私も實に有難い、斯うして御互に時々良い御話を聽いて進んで行くといふことになれば、追々此の村も改まり、皆さんも改まり、又良い學校も建つやうになつて、あなた方も腰掛に自然寛いて腰を掛けることが出来るてありませう、どうも御苦勞さんてありました、下足は青年團諸君が明るくして御聲を掛けて居りますから、決して踏違へのないやうにどうぞソロソロ御歸へり下さい』と挨拶をしてから『ちよつとお待ち下さい講師だけ御案内して置きます折角遠くから御出でになつた方ですから』といふので導いて行けば樂に行けるものである、之が冠と履物と全く逆になつて自分の使ふ道具が自分の目的に背いて話をして居る、斯ういふやうなことは私は最も甚しい不徹底の大原因であると思ふ、此の点に付いてどうか諸君は此の講師の選擇といふ事と此の接待といふ事に付いては三思三省を願ひたい、況んや開會の前に當つて酒食を供するといふ事は以ての外の事であると思ふ、それからモウ一つは此の講師に付いてどうか自己の道具であると思ふならば、前に斯ういふ講師が来て斯ういふ話をして、それで民衆は此位の程度まで覺悟が進んで居る、或は斯ういふ考へになつて居るから御參考までに申して置きますといふやうな風な智識を講師に與へて作業させる事が必要

である、さうでないとも都會を中心にして農村へ這入つて來ますと、詰り自己が研究して居る自己の標準に依つて説くのでありますから、當嵌らぬ事が多い、當嵌らないのはまだ宜いけれども後の説と前の説と説き方が違ふ事がある、内務省の留岡幸助君が金森通倫君が貯金の演説をした跡へ行つて『今日の世の中は買ひたければ買ふが宜しい、欲しければ取るが宜しい、併し其の代り使ふ金は稼いで取れ』といふ、聽いて居る者の方は、何だ前に來た人は一厘でも貯めなければいかないといひ、後から來た人は使へ、マア銘々勝手な事をいふものだ、あの衆はあの衆、私等は私等だといふ事で、聽いたゞけ結局頭を固くして仕舞ふ、現に中國に倉敷といふ所に日曜講演といふものがありました、左も良き働きをして居るやうに傳へられて居ります、土地に大原孫三郎といふ富豪が居ります、此の人が僻遠の土地であるから此所を通り掛りの人に頼んで色々の話を聽いたならば民衆開發の用を爲すてあらうと誰でも構はず通る者を頼んでは話を聽く、大變良い事で、富豪の計畫としては如何にも趣意は良いが、惜い事には目的がない、目的なき智識の散布は人格を破却して、建設する所以ではない、倉敷の日曜講演へ私が行つて見ると本當に分らぬ生博識に摺れて仕舞つて、博士だつて學者だつて話のさう違つたものぢやない、一人は右へ行けといふ、一人は左へ行けといふ勝手な事をいふものだ、今度の男は何といふかとまるで好奇心で出て來て、恰度奇術師が帽子の中から色々の物を出すのを見て居る心持と更に變らない、所謂目的なき智識の散布である、此の点に付いては亞米利加の紐育で通

俗教育の泰斗といはれるライブチーゲル博士が「吾々の與ふる所の物を有效ならしめんとするならば所謂彼等が實際要するものにして而して實際に働き得るものを與へよ」といはれた、之が所謂開拓で教育の基礎であり事業の土臺になるものであります、實際に働らかせ得ない、實際に必要なものを與へて何にするかといふのであります、事實今日の講演の大部分は實際働かせないものをやる事が多い、所謂高遠の理想といふ事で、朝に田の草を取つて又水虫に食はれて困つて居る者を捉まへて『抑も仙臺平の袴の紐の結び方は』とか正宗の太刀の講釋、太刀は日本武士の精神である、動ともするとさういふやうな話が出ますが、必要の話ぢやない、今日聴いても宜ければ來年聴いても宜い、聴かなくつても濟む話だ、斯ういふ話が澤山ある、恰度此の金持のお内儀さんが古道具屋へ行つて自分の家にあるのに廉いから買つて置かう、斯んな廉いものは何か役に立つだらうと思ひ、差向き要するものでもなく、差向き働かせない、斯様な要らぬ道具が幾らもあればあるだけ却つて混雜をする、邪魔になる、民衆の頭にも要らない道具が多過ぎて却つて彼等は困る、それが爲め村會にまで停會があつたり、或は南北黨派を争ひ、郡會議員の選舉に俥に乗つて驅廻つて見たり實に見苦しい姿を呈して居るのは偶々少し彼等の頭が不整理を極めて居るからで、小道具が多過ぎる爲めに何かして見たくつて仕方がない、それて之を使ふ結果斯様な事も起る、其の罪は與ふる者の負擔すべきものではないかと思ふ、此の點に付いては餘程注意を要する、講師の選擇といふ事は最も必要なものであります、

其の講師は手段として使ふべきもので、接待の爲に招くべきものではないといふ事を御含み置きを願ひましたならば、モウ少し實績が舉りはしないかと思ふ、以上を以て講師は終りと致します。

其の次は此講演に使ふ材料の一として幻燈といふものを少しばかり説明して今回の御話を終つて見たいと思ひますが幻燈は既に古くて子供向きだらうといふので幻燈會は大概子供が三分の二位を占めて居る又行つて見ると如何にも幻燈は詰らぬものだ、明るくなつたかと思ふと、之は三條實美公でございますといふのが普通なるものであります、顔を見たとけて一目見て分つて居る事を何時までも出して置く、それでも實の寫眞が鮮明なれば兎に角朦朧としてハッキリ分らぬ、お顔は薄ぼんやりとして何だか少しも見えないやうなものを何時までも出して置くといふ幻燈の使ひ方でどうして民衆が樂しむか、然るに此の幻燈といふものは今世界中社會教育の材料として、是ほど活用されて居るものはない、米國の如きは大學の講演、總てあらゆる講演には皆幻燈器械を用ひて居る、時間が少なく早く最も確實に理解しなければならぬといふやうに、世の中が押詰つて來るに連れて、耳から聴いて入れるといふやうな口よりも、眼から直ちに直感的に入れるといふやうな口でなければ、到底今日の忙がしい世の中に當嵌まる事は出來ない、此の直感材料として彼の幻燈の舶來の鮮明なるものが世の中に最も活用される所以であります、其の使ひ方は講演が本意でありまして、其の證據材料に映される、之は何々でありますとはいはない、講演者が演説を致します前に、或は講演をして居る、講演するに連れ

て講演に必要な證據材料となり順送りに現はれる、亞米利加では冬三箇月バートンホルムス外九箇所の有力なる市街では、木戸錢を(チョツと日本の金に引直しますと先づ五十錢から二圓五十錢以内)取つて幻燈講演をやる、其の講演は何であるかといふと、主もに旅行講演です、私が聴きましたのは南米と亞米利加人、特に北米と南米と共同一致して大々の權力となつて世界の平和に貢献しようといふやうな思想が盛に燃えて居つた時で、南米に對する國民の注意といふものは非常に厚いものであるから、それを活用してバートンホルムスが南米に旅行して、二ヶ月ばかり廻つて自分で撮つた寫眞を持つて來て此の幻燈と寫眞と共に……活動寫眞を併用して居る、それでありませうから見て居る内に或はブラジルに行き、或はサンドパーに行き、又智利、亞爾然丁邊りに廻はる、其の港を叙し、其の街を叙するときには、順繰りに此の幻燈に畫が出て居ります、『此の巷を去つて一度政廳の前へ出ますと肩摩殺撃、南米の人種が電車、自動車、馬車に乗つて駈出して居る、其の間を右往左往に散亂れる』といふ譯で、今まで映つて居つた政廳前が何時かソロソロ動いて馬車自動車などの駈違ふのが活動寫眞で現はれる、それから『御覽の通り斯る肩摩殺撃の政廳前も僅かに之を距ること二町ばかりにして其の公園を尋ねて見ると、幽寂窮り無く、殆ど人無き地に入るが如く、其の味といふものは言語に絶する』何時か公園に這入つたかと思ふと幻燈が活動寫眞と連鎖的にズツと働いて居る、日本などで芝居で連鎖劇をして居りますが、之がくつ附いて活動して居るやうであります、幻燈と活動寫眞と

連鎖行動を執つて居る、さうして二重装置になつて居ります、昨夜やつたやうな工合のは一つしか附きませぬから、どうしても種を入れたり取つたり挿し送るのでバツバツと畫が切れるから非常に網膜に悪感情を與へる、それが向ふのは二つ列べて置きまして、話が濟めば掛ける、之が鮮明になつたり又暗くなつたり、鮮明になつたなと思つて見ると、既に前の畫にあらずして後のが來る、斯の如くにして少し淡くなり濃くなる間に段々變りまして、何十枚映りましても眼を少しも疲れさせない、此の間に靜的活動寫眞と動的活動寫眞とあるのであります、誠に申分のない講演が之に伴つて行くのでありますから、心持よく之を聴くことが出來一時間が二時間になつても猶且つ厭くを知らない、況んや之に木戸錢を拂ふ位のことは何んでもないことになつて居る、そこで小學校の如きでも、近頃米國の主もなる土地では、二教室を打抜いて大概此の幻燈室といふものが出來て居り、歴史、地理、動植物といふやうなもの、教授に使はれるのであります、私が市俄古の小學校で觀ましたもの、如きは丁度地理で日本の部を教へて居つた、或は私が行つたので日本の部を出されたのかも知りませぬが、併し丁度教へて居つた所へ參りました、其所に種板が四十枚ばかり日本の部で用意してありました、地理書で日本の部を教へて居つたのでありませう、一度教科書に依つて日本の地形、或は人種、風俗の大体を叙説した上に、此のことに付ては今幻燈に依て能く皆さんに説明する、皆幻燈室に移る、さうして職員が幻燈の種板種函を持つて『幻燈室に移りますから、どうぞ御出下さう』といふ、好ま